

第三十二條 前條ノ出納主任官ハ其收入シタル現金ヲ監守シ大藏省ノ指揮ニ從テ之ヲ處分ス
第三十三條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十
三號乙書式ニ據リ會計年度内徵收未濟報告書ヲ製シ規則第七十七條ニ據リ之ヲ大藏省へ送
付ス

第三十四條 收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキ
ハ第二十三號乙書式ニ據リ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ規則第七十九條ニヨリ之ヲ大藏省
へ送付ス

第三十五條 規則第八十一條ニ據リ成規ノ期限後ニ製スル所ノ報告書ハ各第二十號乙書式第
二十三號乙書式ニ準ス

第二章 郡區役所

第三十六條 郡區長ハ規則第十九條第二十三條ニ據リテ戶長若クハ各納稅者ニ對シテ徵稅令
書ヲ發スルトキハ總テ徵稅臺帳ニ據リ徵稅令書ニ納人納稅者若クハ戶長ノ姓名、金員、納期、令
書番號、所屬年度、科目、所屬曆年納期ノ數同アルハ其納期共納付先ヲ記載シ又其令書ニ接續スル上納書ノ
正副共同一ノ記入ヲナシ(金員ヲ除ク)徵稅令書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ官
印ヲ捺シ第一號書式イ印ノ如ク臺帳ト割印シテ之ヲ納人へ交付ス規則第十七條ニ據リ現金
ヲ徵收スルトキハ上納副書用紙ヲ交付セス

第三十七條 前條中各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第二號書式ニ據リ戶長ニ對シテ發ス
ル徵稅令書ハ第一號書式ニ據ル

第三十八條 各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ郡區役所ノ便宜ニ依リ戶長ニ交付シテ之ヲ
配付セシメ又ハ直ニ之ヲ各納稅者ニ交付ス

第三十九條 戶長ニ徵稅令書ヲ交付シテ配付セシムル場合ニ於テハ戶長ヲシテ税金ヲ取糺メ
之ヲ金庫ニ納付セシメ又ハ各納稅者ヲシテ直ニ税金ヲ金庫ニ納付セシムルハ徵稅上ノ便宜
ニ依リ郡區役所ニ於テ之ヲ命令ス

第四十條 規則第二十六條第二十八條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ納付セシムルニハ徵稅令書ニ
接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印シ(見認印又ハ花押等ニテモ差支ナシ)徵
稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘテ金庫へ持參セシム

第四十一條 郡區長ハ徵稅令書ヲ發シタルトキハ規則第六十六條ニ據リ其報告書ヲ製シテ北
海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳へ送付ス

第四十二條 公賣處分ヲ以テ徵收シタル税金ヲ規則第十六條但書ニ據リ郡區役所ニ收納シタ
ルトキハ別ニ其領收證書ヲ製シ處分濟徵收ノ達書ト共ニ之ヲ納稅者ニ交付ス但戶長ニ對シ
テ徵稅令書ヲ發シタルモノニ係ルトキハ本文ノ領收證書及ヒ達書ヲ戶長ニ交付シテ之ヲ納
稅者ニ傳ヘシム

第四十三條 規則第十七條ニヨリ税金ヲ郡區役所ニ納付セシメタルトキハ郡區役所ハ徵稅令
書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ役所印ヲ捺シ其傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處へ
割印ノ後之ヲ切斷シ該令書ハ之ヲ納人へ還付ス

第四十四條 戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シ税金ヲ郡區役所ニ徵收スル場合ニ於テ税金ノ内納

不納等ノトキ戸長ニ對スル處分ノ順序ハ總テ金庫ノ取扱ニ準ス

第四十五條 規則第十六條但書及第十七條ニ據リ税金ヲ郡區役所ニ收入スルトキハ郡區長ハ税金取扱主任官ヲシテ規則第二十七條ニ據リ第五號書式ノ納付書ヲ添へ現金ヲ金庫へ納付セシム

第四十六條 郡區長ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルトキハ之ヲ徵稅臺帳ニ照合シ該臺帳ニ納濟ノ記入ヲナス

第四十七條 郡區役所ニ於テ税金ヲ徵收スル場合ニ於テハ現金ヲ收納シタル際即時ニ徵稅臺帳ニ領收濟ノ記入ヲナス

第四十八條 郡區長ハ毎月徵收濟ノ金額ヲ一箇月毎ニ取調徵收濟報告書ヲ製シ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳へ送付ス

第四十九條 郡區長ハ徵稅臺帳及金庫ヨリ送付シタル不納報告ニ據リ會計年度内徵收未濟報告書竝ニ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳へ送付ス

第五十條 郡區長ハ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ之レカ計算書ヲ製シテ其下戻ヲ北海道廳長官府知事縣令ニ請求ス

第五十一條 郡區長ハ主管廳ヨリ既納金拂戻證ヲ交付セラレタルトキハ其領收證ヲ主管廳へ發送シ其拂戻證ハ受取人ニ交付シ其領收證ヲ徵ス

第五十二條 郡區長ハ税金徵收濟ノ後徵收不足ヲ發見スルトキハ更ニ徵稅令書ヲ發シ其理由

ヲ裏面ニ記載シテ之ヲ納人ニ交付ス

第五十三條 郡區長ハ金庫ヨリ上納副書分納副書若クハ領收ヲ證シタル納付書ヲ受ケタルトキ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見シタルトキハ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス

第五十四條 郡區長ハ順序第十八條ニ據リ主管廳ヨリ納額告知書ノ配付ヲ命セラレタルトキハ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監査簿ヲ備置キ之ヲ登記シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ郡區役所ノ印ヲ捺シ上納正副書用紙ノ裏面ニハ郡區役所ノ印ノミヲ捺シテ之ヲ納人へ交付ス

第五十五條 郡區長ハ前條ノ場合ニ於テ金庫ヨリ順序第八十三條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受クルトキハ之ヲ徵收監査簿ニ照合シ納濟ノ記入ヲナス

第五十六條 郡區長ハ順序第五十四條ノ場合ニ於テ納金ヲ領收シタル金庫ヨリ送付シタル上納副書ヲ取纏メ主管廳ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳へ送付ス

第三章 戸長役場

第五十七條 戸長ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ以テ町村ノ税金取纏メヲ命セラレタルトキハ規則第二十條ニ據リ概ネ附記ノ雛形ニ準シ徵稅傳令書ヲ製シ納稅者ニ配付シ納稅者ヲシテ現金ニ徵稅傳令書ヲ添へ戸長役場ニ納付セシム

第五十八條 戸長ハ各納稅者ヨリ税金ヲ領收スルトキハ徵稅傳令書ニ接續シタル税金領收證用紙ニ金員及領收ノ年月日ヲ記入シ姓名ノ下ニ捺印シ傳令書ト領收書ト接續シタル税金領收證ヲ之ヲ切斷シ傳令書ヲ役場ニ留メ領收書ヲ納稅者ニ交付ス

第五十九條 納期末日前ニ於テ税金ノ内納ヲナサントヲ請フモノアルトキハ徵稅傳令書ニ内納金ノ金額竝ニ其領收年月日ヲ記入シ捺印シテ納稅者ニ交付シ完納ニ至リ前條ノ手續ヲナス但戶長ニ於テ内納金ヲ領收スル毎ニ別ニ領收證書ヲ發スルヲ便トスルトキハ別ニ假領收證ヲ交付シ完納ノ際前條ノ手續ヲナシテ假領收證ト交換ス

第六十條 戶長ハ規則第二十四條ニ據リ取纏メタル税金ヲ納付スルトキハ郡區長ヨリ受タル徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ニ第一號書式第一例ノ如ク金員年月日ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ニ納付ス

第六十一條 戶長ハ其取纏メタル税金未タ徵稅令書ノ金額ニ滿サルカ爲メ内納ヲナサントスルトキハ第三號書式ノ分納書ニ式ノ如ク所屬年度科目所屬曆年納期ノ數同ナルヲ其受ケタル徵稅令書ニ記載シタル如ク記入シ之ニ内納ノ金額及納付年月日ヲ記入シ記名捺印シテ現金竝ニ徵稅令書此時徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ハ白文ノ儘ト共ニ之ヲ金庫ヘ納付ス

第六十二條 前條分納ノ場合ニハ徵稅令書ニ記載シタル納金ノ金額ニ滿ツルマテハ前條ノ手續ニヨリ最後完納ノ時ニ至レハ分納書ヲ用ヒス第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書ニ接續シタル上納書ニ其納金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ヘ納付ス

第六十三條 戶長ニ於テ税金ヲ分納シタル後納期末日ニ至リ徵稅令書ノ金額ヲ完納スル能ハサルトキハ徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ノ上納文ヲ朱書ヲ以テ第一號書式第三例ノ如ク改記シ不納報告書トナシ不納金額及年月日ヲ記入シ記名捺印シテ之ヲ徵稅令書ニ接續シタル金庫ニ

送付ス

第六十四條 前條ノ不納報告ヲナシタル後不納處分中戶長ニ於テ税金ノ上納ヲ取扱フコトアルトキハ順序第六十一條ノ如ク第三號書式ノ分納書ヲ以テ彙ニ金庫ヨリ返付セラレタル徵稅令書ト共ニ現金ヲ金庫ニ納付ス

第六十五條 戶長ハ郡區長ヨリ各納稅者ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ交付セラレタルトキハ直ニ之ヲ各納稅者ニ配付ス

第六十六條 戶長ハ前條ノ場合ニ於テ順序第三十九條ニ據リ郡區長ヨリ税金ノ取纏メヲ命セラルタルトキハ納稅者ヨリ税金ヲ領收シ之ニ對シテ假領收證書ヲ發付シ其持參シタル徵稅令書竝ニ之ニ接續シタル上納書ヲ預ル

第六十七條 戶長ハ前條領收シタル税金ヲ其預リタル徵稅令書上納書ト共ニ金庫ニ納付ス

第六十八條 戶長ハ金庫ヨリ領收ヲ證シタル徵稅令書ノ還付ヲ受ルトキハ之ヲ各記名ノ納稅者ニ交付シ彙キニ發付シタル假領收證ト交換ス

第六十九條 成規又ハ納稅者ノ望ニ據リ徵稅令書發付ニ先タチ税金ヲ納ムル場合ニ於テハ戶長ハ其預リ證書ヲ納稅者ニ交付シ郡區長ニ報告シテ徵稅令書ノ發付ヲ請求ス

第七十條 前條ノ場合ニ於テハ戶長ハ徵稅令書ヲ受ケタルトキ納稅者ヲシテ上納用紙ニ年月日ヲ記入シ記名捺印セシメ彙ニ預リタル現金ト共ニ金庫ニ納付シ徵稅令書ニ領收ノ證ヲ受ケ之ヲ納稅者ニ交付シテ預リ證書ト交換ス但戶長ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ受ルトキハ其傳令書ヲ發セス戶長ヨリ領收證書ヲ發シテ預リ證書ト交換ス

第七十一條 戸長ニ於テ既納ノ税金下戻ヲ要スルト見認ルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ郡區長ニ請求ス

七十二條 戸長ハ郡區長ヨリ税金ノ拂戻證ヲ交付セラレタルトキハ其領收證ヲ郡區役所へ發送シ金庫ニ於テ現金ヲ受取リ之ヲ配付ス

第四章 金庫

第七十三條 納人ヨリ現金ヲ上納書ニ添へ徵稅令書若クハ納額告知書ト共ニ納付スルトキハ金庫ハ其令書若クハ告知書ニ規則第二十九條ニ據リ書式ノ如ク領收ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處へ割印ノ後之ヲ切斷シ其令書若クハ告知書ハ之ヲ納人へ還付ス

第七十四條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副上納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正書ニハ納濟月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ正書ニ據リテ帳簿ニ記入シ副書ハ規則第六十八條ニ據リ即日前條ノ令書若クハ告知書ヲ發シタル處へ送付ス

第七十五條 戸長ヨリ税金ノ内納ヲナス爲メニ分納書ヲ添へテ現金ヲ納付スルトキハ金庫ハ徵稅令書ノ裏面ニ第一號書式第二例ノ如ク内納ノ金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上之ヲ戸長ニ還付ス

第七十六條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後ハ分納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正副接續ノ處ニ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役

所へ送付シ正書ニヨリテ帳簿ニ記入ス

第七十七條 戸長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未完納ニ至ルトキハ金庫ハ第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ最後領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戸長ニ還付ス

第七十八條 戸長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未徵稅令書ノ金額ヲ完納シ難キトキ其旨ヲ報告シ來ルトキハ金庫ハ第一號書式第三例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ朱書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ金庫ノ印ヲ捺シ不納報告書ト接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戸長ニ還付ス

第七十九條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後不能報告書正副書接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所へ送付ス

第八十條 不納處分中上納ノ税金ヲ戸長ヨリ納付シ來ルトキハ金庫ハ第一號書式第三例ノ末ニアル雛形ニ據リ領收證箋ヲ製シ領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ徵稅令書ノ下端ニ書式ノ如ク貼付シ契印ヲ捺シテ之ヲ戸長ニ還付ス幾回ニモ右ノ如キ收納アルトキハ都テ領收證箋ヲ徵稅令書ノ下端ニ併貼シ餘地ナキニ至レハ徵稅令書裏面ノ餘白ニ貼付ス

第八十一條 前條ノ手續ヲ終ル後分納書取扱ノ手續キハ第七十六條ニ同シ

第八十二條 金庫ハ現金取扱ノ主任官ヨリ現金ノ納付ヲ受タルトキ規則第二十九條但書ニ據リ第五號書式ノ如ク納付書ノ正書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ副書ニハ納濟ノ年月日ヲ記入シ

共ニ金庫ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シテ正書ハ之ヲ納付人ヘ還付シ副書ニハ金庫印ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ之ニ據リテ帳簿ニ記入ス

第八十三條 順序第十九條若クハ第五十四條ノ納額告知書ト共ニ現金ヲ領收シタル場合ニ於テハ金庫ハ順序第七十三條第七十四條ノ手續キニ據リテ之ヲ取扱ヒ其上納副書ハ該告知書ヲ配付シタル處ヘ送付ス

徵稅傳令書雛形 (寸法用紙適宜)

第何號	何ノ	誰	納
一金何圓何錢			
明治何年第何期分地租			
右明治何年何月何日限リ上納			
年月日	戸長何ノ誰印		

第何號	地租
一金何圓何錢	
右正ニ領收候也	

年月日	戸長何ノ誰印
何ノ誰殿	

歳入取扱順序中改正 大藏省令第二號 (明治二十年三月三十日)

明治十九年大藏省令第四號歳入取扱順序中第六條第二十九條本年四月一日ヨリ左ノ道改正ス

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ大藏省ヨリ既納金拂戻ノ認可ヲ受クルトキハ會計主務官ニ命シ支拂切符ヲ郡區長ニ交付シ其支拂案内書ハ國庫出納所ヘ送付セシメ其旨大藏省ヘ報告スヘシ

第二十九條 收支命令官ハ大藏省ヨリ既納金拂戻ノ認可ヲ受クルトキハ第六條ノ順序ニ據リ執行ス

次ニ歳出取扱順序ノ要領ヲ説明スレハ左ノ如シ

第一 各廳普通ノ經費

一 支出月額及仕譯書 主管廳ノ收支命令官ハ毎年豫算額ニ基キ支出月額ヲ定メ仕譯書ヲ製シ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘキコトハ前ニ掲ケタル支出條規ニ同シ

二 支拂順序

(一) 普通ノ順序 各廳ニ於テ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ會計主務官又ハ其代理官ハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ認許ヲ受ケ仕拂切符元帳ニ記帳ノ上仕拂切符ヲ發シテ受取人ニ交付シ其領收證ヲ徵シ同時ニ金庫ヘ案内書ヲ發スヘシ

各廳所在地外ニ經費金ノ送付ヲ要スルトキハ會計主務官ハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地

ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發シ受取人ノ住所氏名竝ニ現金送送ヲ請求スル旨ヲ裏書シ金庫
ヘ送付ス金庫ハ之ニ對シ送金手形ヲ交付スルカ故ニ會計主務官ハ之ヲ受取人ヘ交付シ其
領收證ヲ徴スヘシ

尙ホ過渡金ヲ追徴スルニハ返納告知書ヲ發シ返納人ヲシテ現金ヲ添ヘテ金庫ニ納付セシ
ム若シ整理期限後ナルトキハ歳入徴收ト同一ノ手續ニヨリ納額告知書ヲ發スルモノトス
(二) 例外ノ順序 外國又ハ交通不便ナル土地ヘ送金ヲ要スルトキハ各主管應ノ收支命令官
ハ送金請求書ヲ大藏省ヘ送付スヘシ而シテ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ當該官應ノ出納
主任官ハ領收證書ヲ大藏省ヘ送付シ收支命令官ノ認可ヲ受ケ必要ニ應シテ之ヲ支出ス又
行軍及航海費ヲ受取り及之ヲ支出スルノ順序ハ前ニ同シ唯領收證ヲ金庫ニ送付スルノ差
アルノミ

其他各省所管ノ府縣費、國債、恩給、年金等ノ支拂ニ付テハ多少手續ヲ異ニスルモノアルモ支
拂ノ順序ハ右ニ異ナルナシ

第二 金庫

- 一 現金ノ交付 支拂切符ニヨリ現金ノ交付ヲ請求スルモノアルトキハ金庫ハ之ヲ案内書ト
對照シ之カ支拂ヲナスヘシ
- 二 案内書ノ異議 金庫ハ會計主務官ヨリ仕拂案内書ヲ受クルトキハ大藏省ノ命令額ニ對照
シ若シ之ニ超過スルトキハ即時案内書ヲ返付シ仕拂ニ應シ難キ旨ヲ通知スヘシ
- 三 仕拂切符ノ異議 金庫ハ左ノ場合ニ於テハ直ニ支拂ヲナスコトヲ得ス

(一) 仕拂期限ヲ過キタルトキ 此場合ニ於テハ切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ持參人ニ告ク
ヘシ

(二) 仕拂切符ニシテ成規ニ違フトキ
(三) 仕拂切符ト案内書ト符合セザルトキ

右(二)(三)ノ場合ニ於テハ持參人ニ預リ證書ヲ交付シ且即時其事由ヲ詳記シ照會書ヲ發シ會
計主務官ニ於テ切符ノ正當ヲ保證セハ之ヲ支拂ヒ若シ其切符ヲ持參人ニ返付センコトヲ
請求セハ預リ證書ト引換ヘ之ヲ還付スヘキモノトス

四 返納金 現金ノ返納アルトキハ其告知書ニ接續シタル領收證ニ年月日ヲ記入シ記名捺印
ノ上之ヲ返納人ニ交付スルモノトス

歳出取扱順序 大藏省令第五號 (明治十九年)

第一章 各廳普通ノ經費

- 第一條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第三十七條ニ據リ毎年達セラレタル豫算額ニ基キ經費ノ
支出月額ヲ定メ仕拂場所ヲ區別シ第八號書式ニ據リ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第二條 大藏大臣ノ承認ヲ得タル支出仕譯書中ニ於テ規則第三十八條ニ據リ月額又ハ仕拂場
所ヲ改訂セントスルトキハ第九號書式ニヨリ訂正仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第三條 支出期節ノ豫定シ難キモノニシテ其期節竝ニ仕拂場所ノ定マルトキハ第十號書式ニ
據リ追仕譯書ヲ製シテ規則第三十九條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第四條 各廳ニ於テ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ會計主務官又ハ其代理官ハ支出スヘキ金額事由

ヲ具シテ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フ

第五條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ裁可ヲ得タルトキハ第十一號書式ニヨリ仕拂切符元帳ニ金員事由ヲ記載シ仕拂切符ニ番號金員要用ナレハ貸仕拂場所受取人姓名切符發行ノ年月日等ヲ記入シ記名捺印シ案内書ニハ番號所屬年度科目金員要用ナレハ貸受取人姓名切符發行ノ年月日ヲ記入シ記名捺印シ元帳仕拂切符案内書ト接續ノ所ヘ割印シ之ヲ切斷シテ案内書ハ金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ受取人ニ交付シテ其領收證ヲ徵ス

第六條 會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行セントスルトキハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地方ナレハ會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ手續ニヨリ其地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ製シ同時ニ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ之ヲ受取人ヘ送付シテ其領收證ヲ徵ス

第七條 規則第五十八條ニ據リ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ニ經費金ヲ送付セントスルトキハ仕譯書ヲ以テ豫メ承認ヲ得難キ場合ニ於テハ會計主務官又ハ其代理官ハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行シ切符ノ裏面ニ受取人ノ住所姓名並ニ現金ノ遞送ヲ請求スル旨ヲ記載シテ該金庫ヘ送付ス

第八條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ請求ヲナシ金庫ヨリ送金ノ手形ヲ交付セラレタルトキハ之ヲ以テ受取人ヘ送付シ其領收證ヲ徵ス

第九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第六條第七條第八條ノ手續キニ據リ仕拂切符ヲ發行スルトキハ仕拂切符元帳ニヨリ帳簿ニ登記ス

第十條 金庫ヨリ仕拂切符ノ書式等成規ノ如クナラサルカ又ハ案内書ト符合セサルコトアルカヲ通知スルトキハ該切符ヲ發シタル會計主務官又ハ其代理官ハ其理由ヲ審査シ該切符若シ證書ノ效力ヲ失ナフニ至ラサル場合ナルカ又ハ案内書ノ誤謬ナレハ其切符ノ正當ナル保證書ヲ金庫ヘ送付シテ仕拂ヲ請求シ該切符若シ證書ノ效力ヲ有シ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ金庫ニ報シテ仕拂切符ヲ持參人ヘ返付セントコトヲ請求シ其偽造變造ニ係ルトキハ法ニ據リテ取扱ハシム

第十一條 前條金庫ヨリ受取人ニ仕拂切符ヲ返付シタル場合ニ於テ其所有者ヨリ該仕拂切符ノ書換ヲ請求スルトキハ會計主務官又ハ其代理官ハ書換ヲナスヘキ正當ノ理由アリト見認ルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十二條 仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ノ書換ヲ請求セラルトキハ會計主務官又ハ其代理官ハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十三條 會計ノ整理期限内ニ於テ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ仕拂切符簿大藏省ヨリ交付シタル仕拂切符元帳仕拂切符案内書ノ用紙ニ於テ通常仕拂切符發行ノ手續キニヨリ仕拂切符並ニ案内書ヲ製シ元帳ニハ朱書ヲ以テ金額事由等ヲ記入シ割印シテ之ヲ切斷ス但金額ノ更正ヲ要スル場合ニ於テハ本文ノ手續ニ據ラス

第十四條 會計ノ整理期限ヲ經過シテ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ過年度支出トシテ更ニ通

常ノ手續ニヨリ仕拂切符ヲ發行ス

第十五條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第十二條第十三條ニヨリ仕拂切符ヲ再發シテ交換シタルトキハ舊仕拂切符ニ消印ヲナシ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ之ヲ證明ス

第十六條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限前ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキハ第十六號書式ニヨリ返納告知書ニ番號、金員、事由、納期日、返納場所、返納人ノ姓名、年月日ヲ記入シ、記名捺印シ、返納元帳ニハ番號、金員、事由、納期日、返納人ノ姓名告知書發付ノ月日ヲ記入シ、元帳ト告知書ト接續ノ處ヘ割印ヲナシ切斷シテ之ヲ返納人ヘ交付シ、返納人ヲシテ返納告知書ニ現金ヲ添テ金庫ヘ納付セシム

第十七條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限後ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキハ歳入ヲ徵收スルト同一ノ手續ニヨリ納額告知書ヲ發シテ之レヲ返納人ヘ交付シ、返納人ヲシテ通常ノ歳入ト同一ノ手續ニヨリ現金ヲ金庫ヘ納付セシム

第十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ返納ノ通知ヲ得タルトキハ返納元帳ニ返納濟ノ記入ヲナス

第十九條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十一條ニヨリ送金ヲ請求セントスルトキハ第十二號書式ニ據リ送金請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十條 前條ノ請求ニヨリ經費金ノ送付ヲ受タル出納主任官ハ即時第十三號書式ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十一條 前條ノ出納主任官ハ該經費金ノ支出ヲ要スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命

令官ノ裁可ヲ請フテ之ヲ支出ス

第二十二條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十五條ニヨリ經費金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニヨリ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十三條 前條ノ請求ニ因リ經費金ノ交付ヲ受ケタル出納主任官ハ即時第十三號書式ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ金庫ヘ送付ス

第二十四條 前條ノ出納主任官ハ其交付セラレタル現金ノ支出ヲ要スルトキハ該經費金ノ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請テ之ヲ支出ス

第二十五條 規則第三十六條ニ據リ現金ヲ受取ントスルトキハ主管廳ノ收支命令官ハ第十四號書式ニ準シ請求書ヲ製シテ之ヲ具シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十六條 前條ニ因リ現金ノ交付ヲ受クルトキハ出納主任官取扱ノ手續キハ總テ第二十三條第二十四條ニ準ス

第二十七條 規則第五十七條ニ據リ仕拂ヲ請求セントスルトキハ主管廳ノ收支命令官ハ第十五號書式ニ據リ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十八條 前條請求ノ承認ヲ得タルトキハ收支命令官ハ通常支出ノ手續ニ據リ會計主務官ヲシテ仕拂ヲ執行セシム

第二十九條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ歳入歳出ノ現金ヲ合セテ取扱ヒタルトキハ第二十二號甲書式ニ據リ歳出ノ取扱タルトキハ第二十二號丙書式ニ據リ報告書ヲ製シ規則

第七十五條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

- 第三十條 規則第三十五條第一項第七項ニ屬スル經費金ヲ取扱ヒタル出納主任官ハ毎年度支出ノ後殘金アルトキハ之ヲ監守シ大藏省ノ指揮ニ從テ之ヲ處分ス
- 第三十一條 收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十一條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第三十二條 分任收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十二條若クハ第七十三條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ主管廳ヘ送付ス
- 第三十三條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閲ノ後之レニ記名捺印シ規則第七十四條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第三十四條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ其任拂フヘキ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十七條ニ據リ第二十四號書式ノ會計年度内歳出未済報告書ヲ製シ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第三十五條 收支命令官ハ會計ノ整理期限内ニ於テ其任拂フヘキ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十八條ニ據リ第二十四號書式ノ會計整理期限内歳出未済報告書ヲ製シ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第三十六條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算ヲ以テ支出シタル經費ノ精算未済ノモノアルトキハ規則第八十條ニ據リ第二十五號書式ノ精算未済報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付ス
- 第三十七條 收支命令官ハ大藏省ヘ歳出ノ報告ヲ送付シタル後金額ヲ改メテ再度任拂切符ヲ發行セシメタルトキ又ハ會計ノ整理期限ヲ過キ任拂切符ヲ再發シ之ヲ交換セシメタルトキハ既ニ發送シタル歳出報告中其事項ノ取消書ヲ毎月ノ歳出報告書ト共ニ大藏省ヘ送付ス
- 第三十八條 收支命令官ハ出納閉鎖ノ期ヲ過キテ任拂切符ノ任拂請求ナキ報告ヲ金庫ヨリ受タルトキハ十五日以内ニ前年度ノ歳出報告中其事項ノ取消書ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第二章 各省所管ノ府縣費
- 第三十九條 府知事縣令ハ經費所管廳ノ長官ヨリ費額ノ令達ヲ受クルトキハ順序第一條ノ手續ニ據リ任譯書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス
- 第四十條 規則第三十八條第三十九條ノ場合ニ於テハ順序第二條又ハ第三條ノ手續キニ據リ訂正譯書又ハ追任譯書ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス
- 第四十一條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ任譯書ヲ受ルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第四十二條 府知事縣令ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十一條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス
- 第四十三條 府知事縣令ハ分任收支命令官ヨリ順序第三十二條ノ歳出報告ヲ受クルトキハ査閲ノ後之ニ記名捺印シテ經費所管ノ廳ヘ送付ス
- 第四十四條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第四十五條 順序第三十四條第三十五條ニ屬スル報告書及順序第三十七條第三十八條ノ取消

- 第五編 國庫出納 第三章 出納方法
- 六〇一

- 書ハ府知事縣令ヨリ其經費所管廳へ送付ス
- 第四十六條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ報告書又ハ取消書ヲ受タルトキハ査閱ノ後捺印シテ之ヲ大藏省へ送付ス
- 第四十七條 府縣ノ會計主務官ハ順序第三十六條ノ手續キニヨリ精算未濟報告書ヲ大藏省及會計検査院へ送付スルトキハ同時ニ副書一通ヲ經費所管廳へ送付ス
- 第四十八條 府知事縣令ハ規則第三十六條ニヨリ現金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニ準シ事由ヲ具シテ之ヲ經費所管ノ廳ニ請求ス
- 第四十九條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ査閱シ至當ノ請求ニシテ規則第三十六條ニ適合スルモノト見認ルトキハ請求書末ニ其旨ヲ副書シテ大藏省ニ請求ス
- 第五十條 府知事縣令ハ神社常務ノ經費ノ豫算定額ヲ十二分シ毎月順序第五條ノ手續キニヨリ會計主務官ヲシテ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ受取人へ交付セシム
- 第五十一條 前條ニヨリ仕拂ヲ執行シ難キモノアルトキハ府知事縣令ハ事由ヲ具シ該經費所管ノ廳ニ特別ノ處分ヲ請求ス
- 第五十二條 神社費所管ノ廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ其當否ヲ審査シ請求ノ至當ナルモノハ更ニ之ヲ大藏省ニ請求ス
- 第五十三條 本章各條ニ歷舉シタル手續キノ外ハ總テ第四條ヨリ第二十一條マテ第二十六條ヨリ第三十條マテノ手續キニヨル

第三章 國 債

- 第五十四條 國債元金償還ノ當籤ヲ大藏省ヨリ公布スルトキハ北海道廳長官府知事縣令ハ第八號書式ニ準シ其管内ニ於テ仕拂フヘキ金額ヲ定メ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省へ送付ス
- 第五十五條 國債利子及賦金ノ定期仕拂ニ係ルモノハ規則第六十條ニ據リ其支出金額ヲ豫定シテ大藏省ヨリ北海道廳長官府知事縣令ニ達ス
- 第五十六條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受クルトキハ第八號書式ニ準シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省へ送付ス
- 第五十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ大藏省ヨリ順序第五十四條第五十六條ノ仕譯書ニ據リ仕拂ノ令達ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支應ニ於テ支出ヲ要スルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨ヲ支應ノ分任收支命令官ニ達ス
- 第五十八條 支應ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス
- 第五十九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第五十七條若クハ第五十八條ノ命令ヲ受クルトキハ順序第五條ノ手續キニヨリ仕拂ヲ執行ス
- 第六十條 仕譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セザル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ仕拂切符ヲ發スルトキハ該地方ノ郡區役所ニ仕拂切符ヲ送付シテ之ヲ受取人ニ交付セシメ同時ニ案内書ヲ該金庫へ送付ス
- 第六十一條 國債元金ヲ償還スルトキハ公債證書ニ對シテ仕拂切符ヲ交付シ利子ノ仕拂ヲナ

ストキハ利札ニ對シテ仕拂切符ヲ交付シ賦金ノ支拂ヲナストキハ賦札ニ對シテ仕拂切符ヲ交付ス但記名公債證書及利札賦札ノ亡失等ニ罹リ定期ヲ過キテ元金利子若クハ賦金ヲ仕拂フトキハ其事由金額種類記號番號等ヲ詳記シタル領收證書ヲ徴シテ仕拂切符ヲ交付ス

第六十二條 國債元金利子若クハ賦金ノ仕拂額事故解融又ハ調査期限後轉入ノ爲メ大藏省ヨリ令達シタル金額ニ超過スルトキ及事故解融ノ爲メ會計ノ整理期限後ニ於テ元金利子若クハ賦金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ北海道廳長官府知事縣令ハ其事由ヲ具シ支出ノ請求書（從來ノ書式ニ據ル）ヲ製シ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第六十三條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其仕拂ヲ達ス

第六十四條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ第五十七條ヨリ第六十一條マテノ手續ニ據リ仕拂ヲ執行セシム

第六十五條 起業公債金引換無記名公債中仙道鐵道公債外國公債ノ元利金ハ規則第六十條ニ據リ其支出額ヲ定メテ大藏省ヨリ各其取扱銀行ヘ現金ヲ交付シ其仕拂ヲ執行セシム

第六十六條 本章各條ニ歷舉スルモノ、外ハ總テ第十條ヨリ第十六條マテ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七條第三十八條ノ手續キニ據ル

第四章 年金恩給諸祿

第六十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ年金恩給（一時賜金）若クハ諸祿ノ交付期節毎ニ其支出スヘキ金額及仕拂場所ヲ取調ヘ第八號書式ニ準シ其仕譯書ヲ製シ内譯明細書ヲ添付シ交付期月ノ三十日前ニ之ヲ大藏省ヘ發送ス

第六十八條 大藏省ハ前條仕譯書ニヨリ北海道廳長官府知事縣令ニ年金恩給若クハ諸祿ヲ交付スヘキ令達ヲナス

第六十九條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支應ニ於テ支出ヲ要スルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨ヲ支應ノ分任收支命令官ニ達ス

第七十條 支應ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條ノ令達ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス

第七十一條 會計主務官又ハ其代理官ハ第六十九條若クハ第七十條ノ命令ヲ受クルトキハ第五條ノ手續ニヨリ仕拂ヲ執行ス

第七十二條 仕譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ仕拂切符ヲ發スルトキハ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ヲ該地方ノ郡區役所ニ送付シテ之ヲ受取人ニ交付シ其領收證書ヲ徴セシム

第七十三條 仕拂切符ヲ受取人ニ交付スルトキハ年金ノ仕拂切符ナレハ年金證書ヲ檢閲シ恩給ノ仕拂切符ナレハ恩給證書及生存證書ヲ檢閲ス

第七十四條 恩給中一時賜金ハ其支出ヲ要スル毎ニ主管廳ノ收支命令官ヨリ第十五號書式ニ準シテ請求書ヲ製シ仕拂ノ場所ヲ記入シ本人ノ履歷書ヲ添付シ其支出ヲ大藏省ニ請求ス

第七十五條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其正當ナルトキハ即時承諾ノ旨ヲ通知ス

- 第七十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ通知ヲ受クルトキハ其任拂ヲ會計主務官ニ命ス但支部局ニ於テ任拂ヲ要スルモノハ其任拂ヲナスヘキ旨ヲ分任收支命令官ニ達ス
- 第七十七條 分任收支命令官ハ前條ノ令達ヲ受クルトキハ其任拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス
- 第七十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第七十六條若クハ第七十七條ノ命令ヲ受ルトキハ第七十一條ノ手續ヲナス
- 第七十九條 年金ノ交付主管廳ハ出願期限後ニ年金受領者ノ奉職地ヲ轉シタルカ爲メ主管廳轉換願ヲ届ケタルトキハ其姓名新任地並ニ交付スヘキ金額ヲ詳記シ之ヲ大藏省及新主管廳ヘ報告ス
- 第八十條 大藏省ハ前條ノ報告ニヨリ新主管廳ニ該年金交付ノ令達ヲナス
- 第八十一條 新主管廳ハ前條ノ令達ヲ受クルトキハ第六十九條第七十條第七十一條ノ手續キヲナス
- 第八十二條 本章各條ニ歷擧スルモノ、外ハ第十條ヨリ第十九條マテ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七條第三十八條ノ手續キニ據ル
- 第五章 金庫 大藏省金庫局其出張所現金仕拂所
- 第八十三條 金庫ハ任拂切符ノ所有者ヨリ任拂切符ヲ持參シテ現金ノ任拂ヲ請求セラレタルトキハ即時之ヲ彙ニ其發行廳ヨリ送付ヲ受ケタル案内書ニ照合シ記帳ノ後直ニ任拂切符表面ノ金額ヲ交付ス

- 第八十四條 金庫ハ前條ノ任拂ヲ終ルトキハ即時引上タル任拂切符及案内書ノ表面ニ任拂濟ノ印ヲ捺ス
- 第八十五條 金庫ニ於テ任拂金ノ記帳ヲナスハ任拂切符ニヨリ其所屬年度及科目ハ案内書ニ據テ判別ス
- 第八十六條 金庫ハ會計主務官又ハ其代理官ヨリ任拂ノ案内書ヲ受ルトキ豫テ大藏省ヨリ命令セラレタル金額ニ超過スルトキハ即時其案内書ヲ返付シテ任拂カタキ旨ヲ通知ス
- 第八十七條 金庫ハ任拂期限ヲ經過シタル任拂切符ヲ以テ現金ノ任拂ヲ請求セラル、トキハ其任拂ヲ謝絶シ任拂切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ該切符持參人ニ告ク
- 第八十八條 金庫ニ於テ任拂ノ請求ヲ受クルトキハ規則第四十九條ニヨリ任拂ヲナシ難シト見認ルトキハ該切符持參人ニ事由ヲ告ケ其任處姓名ヲ尋問シ該切符ノ金員番號記名者ノ姓名及ヒ預リ日限ヲ記載シタル預リ證書ヲ交付シテ其任拂切符ヲ留置ク
- 第八十九條 金庫ハ前條ノ手續キニヨリ任拂切符ノ留置ヲナストキハ即時其事由ヲ詳記シタル照會書ヲ該任拂切符ニ記名ノ會計主務官又ハ其代理官ヘ發ス
- 第九十條 金庫ハ前條照會ニヨリ會計主務官又ハ其代理官ヨリ該切符ノ正當ナルヲ保證シ任拂ヲ請求セラレタルトキハ直ニ之カ任拂ヲナシ若シ該切符ヲ持參人ニ返付センコトヲ請求セラレタルトキハ前日交付シタル預リ證書ニ引換ヘ之ヲ還付ス
- 第九十一條 任拂切符ノ任拂期限ヲ經過シテ尙任拂ノ請求ナキトキハ金庫ハ豫テ受入レタル案内書ヲ一箇月三回ニ取纏メ其送付シタル廳ヘ還付ス但會計主務官又ハ其代理官ノ請求ア

ルトキハ其都度案内書ヲ返付ス

第九十二條 金庫ハ已ニ仕拂タル現金ノ返納ヲ受クルトキハ返納告知書ニ接續シタル領收證書用紙ニ第十六號書式ノ如ク領收金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シ返納告知書ト接續ノ處ヘ割印シ之ヲ切斷シテ領收證書ハ返納人ヘ交付ス

第九十三條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後返納告知書ノ裏面ニ領收ノ年月日ヲ記入シ金庫印竝ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ記帳ノ上毎日取纏メ翌日迄ニ該返納告知書ヲ發シタル會計主務官又ハ其代理官ヘ送付ス

歳出取扱順序中改正

一 明治二十年三月大藏省令第二號

明治十九年大藏省令第五號歳出取扱順序中第十六條第九十二條第九十三條本年四月一日ヨリ左ノ通改正ス

第十六條中「接續ノ處」ノ五字ヲ削除ス

第九十二條 金庫ハ既ニ支拂フタル現金ノ返納告知書ニ接續シタル返納書用紙ニ第十六號書式ノ如ク領收金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シ返納告知書ト接續ノ處ヘ割印シ之ヲ切斷シテ返納告知書ハ返納人ヘ交付ス

第九十三條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副返納告知書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正書ニハ納濟年月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處ヘ割印シ之レヲ切斷シ正書ニ依リテ帳簿ニ記入シ副書ハ即日告知書ヲ發シタル處ヘ送付ス

二 明治二十年四月一日大藏省令第七號

第二章各條ヲ削除ス

三 明治二十一年十二月十三日同省令第十一號

一 第十三條ヲ削除ス

一 第十四條ヲ左ノ通り改ム

仕拂切符ノ書換ヲナストキハ更ニ通常ノ手續ニヨリ仕拂切符ヲ發行ス但會計ノ整理期限ヲ經過シテ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ過年度支出ノ手續ヲ履ミ之ヲ發行ス

一 第十五條中第十二條第十三條トアルヲ第十一條第十二條ト改ム

一 第三十七條中金額ヲ改メテ再度仕拂切符ヲ發行セシメタルトキ又ハ會計ノ整理期限ヲ過

キヲ三十四字ヲ削除ス

明治十九年十二月二十七日大藏省訓令第六十號 大藏省所管經費諸拂戻及ヒ缺損金ニ係ル支出方ハ従前ノ

如ク計算書ヲ付シテ大藏省ニ請求シ認可ヲ得テ會計主務官ニ其支出ヲ命令シ支拂切符ヲ發付ス但本費支出ニ係ル報告ハ歳入歳出出納規則第七十一條ニ照準セシム

明治二十年二月三日閣令第二號ヲ以テ歳入歳出出納規則第五條中國庫金取扱所現金仕拂所ハ本年四月一日ヨリ國庫金出納所ト改稱シ第十一條及第七十六條現金仕拂所トアルヲ金庫ト改ムル旨各官廳ニ令セリ次テ三月四日國庫金支出命令傳票取扱手續ヲ定メ四月一日ヨリ施行ス其順序タルヤ主計局ニ於テ支出命令要傳票原議書ノ欄外ニ要傳票ノ印ヲ捺シテ出納局ニ送付ス出納局ハ原議ノ仕譯書等ニ據リ支出金庫ヲ定メテ原議書ノ欄外ニ朱記シテ支出命令簿ニ登記シ傳票課ニ回付ス傳票課乃チ支出命令書ヲ調製シ大臣ノ押印ヲ得テ東京及大阪金庫支出ニ係ルモノハ金庫局ニ各地國庫金出納所支出ニ係ルモノハ日本銀行ニ送付シ原議書ニハ傳票既了ノ年月日ヲ記入

シテ出納局ニ送付ス而シテ金庫局ニ於テ支出命令書ヲ得タル時ハ記帳ノ後支出ノ順序ヲナスハ舊規ニ仍ル日本銀行ニ於テハ記帳ノ後命令書ハ各地國庫金出納所ニ傳達ス出納局ニ於テハ傳票既了ノ原議書ヲ得テ支出命令簿ニ對照シ出納局複閱ノ印ヲ捺シ即日主計局ニ送付ス而シテ主計局記帳ノ順序ハ舊規ニ依ルモノトシ四月二十一日大藏省令第七號ヲ以テ歳出取扱順序第二章各省所管ノ府縣費ニ係ル各條ヲ刪除ス

明治二十年九月大藏省令第十四號ヲ以テ支拂切符再發行手續ヲ規定セリ蓋シ歳出金ヲ拂出サント欲セハ必ス歳入歳出々納規則ニ基キ支拂切符ニ依ルニ非サレハ之ヲ支拂フコトヲ得ス故ニ一度切符ヲ發行シタル後盜難紛失等ノ場合ニハ之カ再發行ヲ爲サルヘカラサルニヨル今先ツ其大要ヲ述ヘ竝セテ其規定ヲ掲クヘシ

一 紛失届出 支拂切符所持者ニシテ切符ヲ喪失シタルトキハ直ニ切符ヲ發行シタル官廳竝ニ其切符ニ指定シタル金庫ニ其旨ヲ届出ツヘキモノトス而シテ金庫ニ於テハ其届出ニ對スル承諾證書ヲ交付スヘク若シ届出前已ニ其切符ニ據テ支拂ヲナシタルトキハ届出ヲ受理セス其旨切符發行ノ官廳ヘ通知スヘキモノトス

二 金庫ノ責任 紛失届出ニ對シ承諾證書ヲ交付シタル後支拂切符ヲ以テ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ故障アル旨ヲ持參人ニ告ケ該切符ヲ留メ置キ届出人ノ氏名住所ヲ記入シタル預リ證書ヲ交付シ同時ニ持參人ノ氏名住所ヲ届出人ニ通知スヘキモノトス
届出人承諾證書及支拂切符ヲ持參スルカ又ハ切符持參人ト届出人ト連署シタル支拂請求書ヲ差出スニアラサレハ支拂ヲナス可カラズ若シ此ニ違背シテ支拂ヲナシタルトキハ金庫ハ

其支拂ヲ以テ届出人ニ對抗スルコトヲ得ス

三 再發行 紛失届出アリタル切符ニシテ振出ノ日付ヨリ九十日ヲ過クルモ尙ホ該切符發見セラレサルトキハ當該官廳ハ届出人ノ請求ニ由リ支拂切符ヲ再發行シ同時ニ最初ノ支拂切符ヲ無効トス

支拂切符再發行手續 (明治二十年九月十七日 大藏省令十四號)

第一條 支拂切符ヲ失フタルトキハ右切符所有者ヨリ直ニ其旨ヲ切符面ニ指定ノ金庫竝ニ該切符ヲ振出シタル官廳ニ届出ヘシ

本條ノ届出人ハ其届出ニ對スル承諾證書ヲ金庫ヨリ受取ルヘシ

第二條 前條ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 支拂切符ノ番號
- 一 金符面ノ金額
- 一 切符面ニ指定ノ金庫
- 一 受取人ノ氏名
- 一 振出シタル官廳ノ名稱及會計主務官氏名
- 一 振出ノ日付
- 一 切符ヲ失フタル場所竝日付但明瞭ナラサルトキハ其旨ヲ記スヘシ

第三條 金庫ニ於テ第一條ノ届出ノ切符ニ對シ既ニ現金支拂濟ナルトキハ其旨ヲ届出人ニ告ケ届出書ヲ返付シ切符發行ノ當該廳ヘ通知スヘシ

第四條 金庫ニ於テ第一條ノ届出アリタル後該切符ヲ持參シ支拂ヲ請求スル者アルトキハ右切符ニ付テハ支拂故障ノ届出アル旨ヲ持參人ニ告ケ該切符ヲ留置キ預リ證書ヲ持參人ニ交付スヘシ

右切符預リ證書面ニハ第一條ノ届出人住所氏名ヲ記入スヘシ

金庫ニ於テハ切符持參人ノ族籍住所姓名年齢ヲ帳簿ニ記シ置キ同時ニ之ヲ第一條ノ届出人ニ通知スヘシ

第五條 第一條ノ届出アリタル切符ハ届出人若クハ其代理者自ラ切符ヲ持參シ第一條第二項ノ承諾證書ヲ返納スルニアラサレハ金庫ニ於テ支拂ヲナスヘカラス第四條ノ第一項ニヨリ留置キタル切符ハ該切符持參人ト第一條ノ届出人ト連署ノ支拂請求書ヲ差出スニ非サレハ金庫ニ於テ支拂ヲナスヘカラス

第六條 第四條ノ切符持參人失踪シタルトキ若クハ住所姓名ヲ詐稱シタルトキハ直ニ第一條ノ届出人ヨリ其事ヲ金庫ニ證明スヘシ然ルトキハ金庫ニ於テ事實調査ノ上切符面ノ金額ハ右届出人ニ仕拂フヘシ

第七條 金庫ニ於テ第一條第二項ノ承諾證書ヲ發シタル後第五條ニ反シテ切符ノ仕拂ヲナシタルトキハ切符面ノ金額ハ金庫ヨリ第一條ノ届出人ニ辨償スヘシ

第八條 第一條ノ届出アリタル支拂切符振出ノ日付ヨリ起算シ九十日ヲ過クルモ尙失フタル切符ヲ發見セサルトキハ届出人ヨリ切符再發行ノ請求書ヲ振出シタル官廳ニ差出ス可シ然ルトキハ該官廳ハ歳入歳出出納規則第四十八條ニヨリ更ニ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交

付スルモノトス

第九條 第一條ノ届出ヲ爲ストキ失フタル支拂切符振出ノ日付ヨリ既ニ九十日ヲ經過シタルモノナレハ同時ニ前條ノ手續ヲ爲シ切符再交付ヲ受クヘシ

第十條 支拂切符ノ再發行ヲ請求スルモノト最初該切符ノ拂出ヲ受ケタル本人ト別人ナルトキハ第八條ノ請求書ニハ右兩人連署スヘシ

第十一條 本會ノ手續ニ從ヒ支拂切符ヲ再發シタルトキハ最初ノ支拂切符ハ全ク無効ノモノトス

(書式略ス)

上來述フルカ如ク明治十五年ノ會計法發布以來我國ノ財務行政ハ豫算條規出納規則等ノ制定發布ニヨリ著シク變革進歩シタルヲ以テ同會計法中ノ條項ハ多クハ空文ニ屬スルニ至リシノミナラス明治二十二年ハ帝國憲法制定ノ機運ニ際會セシヲ以テ政府ハ十九年末ニ於テ會計法取調委員ヲ設ケ從來ノ會計法ヲ基礎トシ廣ク歐米ノ會計法ヲ參酌シテ新ニ會計法ヲ起草セシメ政府ハ極メテ慎重ナル審議ヲ盡シテ漸ク案ヲ得タリ即チ此ヲ樞密院ノ議ニ付シ同院ハ更ニ修正加除スル所アリ勅裁ヲ經明治二十二年二月憲法發布ト共ニ法律第四號ヲ以テ會計法ヲ公布スルニ至リ今左ニ其出納ニ關スル部分ノミヲ摘録セン

- 一 仕拂命令發行ノ方法ヲ嚴ニシ而シテ現金前渡ノ方法ノ餘地ヲ與ヘタルコト
- 二 金錢及物品ヲ取扱フ處ノ官吏ノ責任身元保證ノ制ヲ設ケタルコト
- 三 仕拂命令官ト現金取扱官トノ職務區分ヲ嚴ニシタルコト

四 國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ委託スルコトヲ明ニシタルコト

次テ同年四月會計規則ヲ定メ會計法ノ施行ニ關スル手續ヲ規定セリ

一 收入

收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ而シテ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但外國及金庫ノ設ナキ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ムヘシ

二 支出

經費ヲ支出セントスルトキハ仕拂命令官ハ仕拂命令ヲ發行シ證憑書類ヲ添ヘテ之ヲ會計主務官ニ交付ス而シテ會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ヲ受取人ニ交付シ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ送付シ受取人ヲシテ金庫ニ就キテ仕拂命令ト引換ニ現金ノ交付ヲ受ケシム

三 出納吏員

出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ケ其責任ニ屬スル會計ニ付一切ノ責任ヲ負フヘキモノトシ會計検査院ニ對スル關係及身元保證ニ付テ規定スル所アリタリ
金庫出納役ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テ金庫ノ出納ヲ掌ルモノニシテ日本銀行總裁之ニ當リ會計検査院ノ検査判決ヲ受クルコト出納官吏ノ場合ト同シ
明治二十二年七月勅令第八十九號ヲ以テ各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ所管定額ノ仕拂命令ヲ

發スルヲ得ルコト、セリ蓋シ歳出ハ仕拂命令ニ依ルニ非サレハ之ヲ拂出スコトヲ得サルモノニシテ其仕拂命令ハ各省大臣之ヲ發スヘキコトハ會計法ノ規定スル所ナリ然レトモ各部局ノ仕拂一ニ大臣ニ於テ命令スルハ事實上其不便甚シケレハナリ而シテ委任ノ場合ニ於テハ仕拂豫算額ヲ定メテ委任シ其委任ヲ受ケタル仕拂命令官ハ委任ノ範圍内ニ於テハ仕拂命令ニ付責任ヲ負フヘキモノトス

仕拂命令委任規程 勅令第八十九號 (明治二十二年七月二十二日)

第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則

第十一條ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條 委任ヲ受ケタル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

又同月勅令第九十五號ヲ以テ會計年度開始前現金支出規則ヲ定メタリ蓋シ會計年度ハ四月一日ヨリ開始スルカ故ニ年度開始前ニ於テハ其年度ニ屬スル現金ヲ支出スルコトヲ得サルハ固ヨリ當然ナリ然リト雖モ會計法第十五條ニヨレハ一定ノ經費ニ限リ國務大臣ハ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ルニヨリ其經費ニ對シテハ年度開始前ニ現金ヲ支出シ以テ其前渡ヲナサル可ラサレハナリ而シテ該規程ニヨレハ各省大臣ハ年度開始前ニ於テ一定經費ノ前渡ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ計算書ヲ作り大藏大臣ニ送付シ大藏大臣ニ於テ現金前渡ヲ正當ナリト認メタルトキハ初メテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ルモノトス而シテ仕拂命令發行ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ノ定ムル所ニ準據スヘキナリ

會計年度開始前現金支出規則 勅令第九十五號 (明治二十二年七月二十二日)

第一條 各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未タ開始セザルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 大藏大臣前條ノ計算書ヲ檢視シ現金前渡ヲ正當ト認メタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三條 前各條ニ定メタルモノ、外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ニ依ル

支出規則中更正 (明治二十六年十一月三號)

第一條 中(大藏大臣ノ檢視ヲ受ケヘシ)ヲ(大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ)ト改ム

第二條 大藏大臣前條計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ合達スヘシ

抑モ支拂ハ金額確定シ且期限到來シタルモノニ付テノミ之レヲ爲スヘキナリ然レトモ經費ノ性質ニヨリ此原則ヲ確守スル能ハサルノミナラス却テ不便ナル場合アリ是レ概算渡及前金渡ノ制ヲ認ムルノ必要アル所以ニシテ會計法ニ於テモ亦此例外ヲ承認シタリ而シテ如何ナル經費ニ對シテ概算渡及前金渡ヲナシ得ルヤニ付テハ明治二十二年十一月勅令第二百一號ヲ以テ之ヲ規定シ内國及外國出張旅費若クハ府縣警察費連帶支辨金ハ豫算ニヨリ概算渡ヲナスコトヲ得而シテ外國留學生ノ學資金及手當ハ期限到來ノ以前ニ於テ前金渡ヲナスコトヲ得ルモノトセリ前述ノ如ク概算渡竝ニ前金渡ヲナシタル場合ニ於テハ精算ノ上過剩又ハ不足ヲ生スルハ勢ヒ免レサル所ナルヲ以テ之ヲ追給シ又ハ返納セシメサル可ラス故ニ會計法第二十三條ニ於テ返納金ハ之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、ヲ得ルコト、セシカ明治二十二年十二月之カ取扱規則

ヲ規定セリ即チ定額戻入ヲ要スル場合ニハ仕拂命令返納人ニ對シ返納告知書ヲ發シ返納人ハ其告知書ニ現金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ拂込ミ領收證ヲ得ルモノトス而シテ返納了リタルトキハ仕拂命令官ハ本屬大臣ニ定額戻入ノ要求ヲナスヘシ尤モ返納金ニシテ定額戻入ヲ要セサルモノハ通常歲入金ノ取扱手續ニ依ルヘキナリ

旅費其外概算渡前金渡ノ件 勅令第二百一十一號 (明治二十二年十一月二十日)

第一條 内國及外國出張ヲ命シタル者ノ旅費ハ旅行ノ見積リ行程日數ニ依リ概算渡ヲナスコトヲ得

第二條 外國留學ヲ命シタル者ニ支給スル學資金及ヒ諸手當ハ給額半箇年分以内ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

第三條 地方税ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費連帶支辨金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第三條 府縣税又ハ地方税ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費連帶支辨金府縣傳染病豫防費痘種検査費國庫補助金及北海道沖繩縣ニ於ケル區村間切傳染病豫防費國庫補助金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得 (明治三十一年勅令第九十號ヲ以テ本條ノ如ク改正)

第四條 本令ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

前金渡概算ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程

第一條 前金渡概算ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要スルモノアルトキハ仕拂命令官ヨリ返納人ニ對シ返納告知書ヲ發スヘシ

第二條 返納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ其返納告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込ミ金庫ノ別符付領收證ヲ得直ニ領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシ

第三條 仕拂命令官金庫ノ領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シタルトキハ定額戻入ノ要求ヲナサンコトヲ本屬大臣ニ申出ヘシ

第四條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要セサルモノハ通常歳入金取扱手續ニ依リ返納人ヲシテ金庫又ハ收入官吏ニ納入セシム

第五條 本規定ニ依リ發スル返納告知書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ

(書式略ス)

右取扱規程中改正

大藏省令第二十六號 (明治二十六年十一月十三日)

- 一 第一條中「返納告知書ヲ發スヘシ」トアルヲ「返納告知書ヲ發シ同時ニ通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ」ト改ム
- 一 第二條中「拂込ミ金庫ノ別符付領收證ヲ得直ニ領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシ」トアルヲ「拂込ムヘシ」ト改ム
- 一 第三條ヲ左ノ通改ム
 - 金庫ハ現金ヲ領收シタルトキハ其領收證書ヲ返納人ニ交付シ其通知書ハ直ニ當該支拂命令官ニ送付スヘシ

明治二十二年十二月十一日勅令第二百二十六號ヲ以テ金庫規則(本編第一章)ヲ制定シ二十三年四月一日ヨリ會計法ト共ニ實施スル事トセリ由テ從來國庫金ノ取扱ハ金庫局及國庫金出納所ニ於テ處理シ來リシモ此ニ至リ新ニ金庫ヲ設ケ中央金庫、本金庫、支金庫ノ制ヲ立テ國家ノ收入ハ收入官

吏ノ手ヲ經テ之ニ納付シ其支出ハ總テ需用ニ應シテ金庫ヨリ拂出ス事トナリ會計法ノ規定ニヨリ國務大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ收メ直ニ之ヲ使用スルヲ許サス其所管定額ヲ使用スル爲メニハ國庫ニ向ヒ仕拂命令ヲ發スルコト、シ國庫出納ノ統一ヲ計ルコトヲ得タリ而シテ金庫出納事務ニ就テハ同月二十日金庫出納事務規程ヲ定メ金庫事務ヲ歲入、歲出、雜部ノ三部ニ分ケ其他現金運轉帳簿計算報告及決算整理ニ關シ規定スル所アリタリト雖モ金庫ニ就テハ既ニ第一章第三節ニ詳述シタルヲ以テ茲ニハ之ヲ略ス

從來仕拂切符ヲ喪失セシ場合ニ際シテハ仕拂切符再發行手續ニヨリテ再ヒ之カ發行ヲナシ來リタルモ會計法ノ改正實施セラル、ニ當リ該規程ハ歲入、歲出、取扱規則ト共ニ廢滅ニ歸シタルヲ以テ更ニ其手續ヲ設ケサル可ラス是ニ於テカ大藏省ハ明治二十三年七月省令第十八號ヲ以テ仕拂命令其他ノ證書ニシテ盜難ニカ、リ若クハ亡失シタル場合ニ關スル取扱手續ヲ定メタリ即チ仕拂命令仕拂請求書若クハ領收證書其他仕拂切符竝ニ引出切符等ニシテ盜奪セラレ又ハ紛失シタル場合ニハ記名者ヨリ其旨ヲ金庫ニ届出ツヘシ若シ金庫ニ於テ其書面ニ對シ仕拂濟ナルトキハ届書ヲ返付スヘク仕拂未濟ナルトキハ届書ノ受取證ヲ交付シ届書ハ之ヲ會計主務官ニ送付シ且金庫ニ保存スル對照書類ニ仕拂故障ノ旨ヲ符箋シ主務官ノ通知ヲ待ツ可シ而シテ主務官ニ於テ正當ナリト認ムルトキハ其旨ヲ届書ニ記入シ署名捺印ノ上之ヲ金庫ニ還付シ金庫ハ之ニ依テ仕拂ヲナスモノトス

仕拂命令其他ノ證書盜難若クハ亡失ニ關スル取扱手續

(明治二十三年七月二十六日大藏省令第十八號)

第一條 仕拂命令仕拂請求書又ハ領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)仕拂切符引出切符ヲ盜取セラレ又

ハ亡失シタルトキハ記名者ヨリ其旨ヲ署名捺印シタル書面ヲ以テ仕拂命令仕拂請求書領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)仕拂切符引出切符ニ指定シタル金庫ニ届出ヘシ
届書ニハ其種類ニ從ヒ左ノ事項ヲ記スヘシ

一 仕拂命令仕拂請求書ナルトキハ金額番號年度科目振出日付仕拂命令官會計主務官氏名仕拂フヘキ金庫名受取人氏名住所

二 領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)ナル時ハ金額番號(仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號トモ)年度支拂フヘキ金庫名用紙ヲ交付シタル官廳名受取人氏名住所

三 仕拂切符ナルトキハ金額番號年度科目振出日付會計主務官氏名仕拂フヘキ金庫名受取人氏名住所

四 引出切符ナルトキハ番號金額振出日付出納官吏ノ氏名仕拂フヘキ金庫名受取人氏名届書ニ押捺スル印章ハ前ニ仕拂命令官又ハ會計主務官ニ差出シタル請求書又ハ受取證書ニ押捺シタル印章ト同一ナル印章ヲ用フ可シ

第二條 金庫ニ於テ前條ノ届書ヲ受ケタルトキ既ニ仕拂濟ナルトキハ其旨ヲ届出人ニ告ケテ届書ヲ返付スヘシ

仕拂以前ナルトキハ案内仕拂命令案内仕拂請求書又ハ氏名表若クハ案内書案内引出切符ニ仕拂故障アル旨ヲ付箋シ届書ハ會計主務官ニ送付スヘシ但届出人ニ對シテハ届書ノ受取證書ヲ渡スヘシ

第三條 會計主務官金庫ヨリ届書ノ送付ヲ得タルトキハ之ヲ調査シ正當ナリト認ムルニ於テ

ハ其旨ヲ届書ニ記入シ署名捺印シテ金庫ニ還付スヘシ

第四條 金庫ニ於テ會計主務官ヨリ届書ノ返付ヲ受ルトキハ債主ニ通知シテ仕拂ヲナスヘシ
右取扱規程中改正

大藏省令第二十九號 (明治二十六年十一月十三日)

明治二十三年當省令第十八號中左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

- 一 省令文中「仕拂請求書又ハ」トアル下ニ「仕拂命令官ヨリ交付シタル通知書ノ十五字ヲ加フ
- 一 第一條第一項中「仕拂命令仕拂請求書又ハ」トアル下ニ「其旨ヲ署名捺印シタル書面ヲ以テ仕拂命令仕拂請求書トアル下ニ通知書ノ各三字ヲ加ヘ第二項第一號ノ次ヘ左ノ一號ヲ加ヘ從前ノ第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下ケ第三項中「會計主務官」トアル下ニ「出納官吏」ノ四字ヲ加フ
- 一 通知書ナルトキハ金額番號仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號共年度仕拂フヘキ金庫名ハ通知書ヲ交付シタル官廳並ニ仕拂命令官氏名受取人氏名住所
- 一 第二條第二項中「案内仕拂請求書」トアル下ニ「仕拂命令仕拂請求書」ノ九字ヲ加フ
- 一 第二條第三條第四條中「會計主務官」トアル下ニ「仕拂命令官又ハ出納官吏」ト改ム

尙ホ同年十月出納官吏現金取扱規則ヲ定メ金庫所在地ノ出納官吏ハ其取扱ニ係ル現金ヲ保管スルタメ其地ノ金庫ニ委託スヘク又金庫ノ設置ナキ土地ニ於テハ出納官吏ハ堅固ナル函ヲ備ヘ以テ其保管スル現金及帳簿ヲ藏置スヘキモノトセリ

大藏省令第十三號 (明治二十二年十月四日)

出納官吏現金取扱規則

第一章 義務委託

- 第一條 金庫所在地ノ出納官吏ハ其取扱フ所ノ現金ヲ保管ノ爲メ其地ノ金庫ニ委託スヘシ
- 第二條 前條ニ據リ委託ヲ爲サントスルトキハ出納官吏ハ其資格氏名ヲ記シタル印鑑二通ヲ大藏大臣ニ送付シ同時ニ其旨ヲ金庫ニ申込ムヘシ
- 第三條 出納官吏ヨリ保管金ノ拂込ヲナストキハ金庫ハ其保管證書ヲ製シ現金ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ
- 第四條 大藏大臣ハ第二條ノ印鑑送付ヲ受ルトキハ出納官吏ノ資格ヲ調査シ一通ノ印鑑ヲ金庫ニ送付シ同時ニ其旨ヲ出納官吏ニ通知スヘシ
- 第五條 金庫ハ大藏大臣ヨリ出納官吏ノ印鑑送付ヲ受ルトキハ保管金引出用紙ヲ出納官吏ニ交付スヘシ
- 第六條 出納官吏ハ保管金ノ仕拂ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ總テ引出切符ヲ以テスヘシ
- 第七條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ト同種ノ貨幣ヲ以テ仕拂ヲ請ハントスルトキハ拂込ノ際特ニ之ヲ金庫ニ求ムヘシ拂込ノ際特別ノ請求ナキモノハ總テ有台ノ通貨ヲ以テ仕拂フヘシ
- 第八條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ヲ以テ收入又ハ返納ノ爲メ金庫ニ拂込ヲナサントスルトキハ引出切符ヲ以テ拂込ヲナスヘシ
- 第九條 金庫ハ毎年三月三十一日ニ於テ其年度中ニ委託セラレタル保管金額ヨリ仕拂タル金額ヲ控除シ其殘金額ニ對シ更ニ保管證書ヲ製シ同年度中ニ交付シタル保管證書ト引換フヘシ

第十條 陸海軍隊費ニシテ現金仕拂ヲ要スル場合及應中雜費工事費ニシテ小口ノ現金仕拂ヲ要スル場合ニ於テハ金庫所在地ニアリテモ所要ノ金額ヲ限リ本規則第二章ニ據リ現金ヲ保管スルコトヲ得

前項所要ノ金額ハ仕拂命令官之ヲ定ム

第二章 隨意保管

第十一條 金庫ノ設ナキ場所ニ於テ現金ヲ保管スル所ノ出納官吏ハ堅牢ナル函ヲ備ヘ之ニ其保管ニ係ル現金及出納ノ帳簿ヲ藏置スヘシ

二人以上共同責任ヲ以テ現金ヲ保管スル場合ニ於テハ二個以上ノ鎖鑰ヲ有スル堅牢ノ函ヲ備ヘ出納官吏其鎖鑰ヲ分管スヘシ

出納官吏現金ヲ携帯シテ旅行スル場合ニ於テハ前二項ニ據ラス相當ノ保護法ヲ設クルコトヲ得

第十二條 出納官吏ノ保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スルヲ得ス

第十三條 出納官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ其現金ヲ官金ト同一ノ函中ニ藏置スルコトヲ得

第十四條 出納官吏ハ第十一條ニ據リ現金保管ヲナシ難キ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ確實ナル銀行又ハ身代ノ確實ナル一人ノ私人ニ其保管スヘキ現金ノ保管ヲ託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ私金ト區別シ其計算ヲ混スヘカラス

第十五條 金庫所在地ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ毎日之ヲ取纏

メ拂込書ヲ添ヘテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘシ但收入金額五十圓未満ナルトキハ每一箇月取纏メ金庫ニ拂込ムコトヲ得

第十六條 金庫ノ設ナキ地方ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ拂込ムヘシ但次條ニ定メタル場合ハ此限ニアラス

第一 收入金高百圓未満ハ 毎十日

第二 同 三百圓未満ハ 毎五日

第三 同 三百圓以上ハ 翌日限

第十七條 外國及運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合ニ於テ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ毎月其金額ヲ取調ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報告シ同時ニ其金額ノ監守證ヲ製シテ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ送付スヘシ

第十八條 金庫ハ前條ノ場合ニ於テ收入官吏ト同場所又ハ其場所ト爲替送金ノ便アル地方ニ於テ任拂フヘキ仕拂命令ヲ受ルトキハ收入官吏ノ監守證ニ別符付ノ領收證ヲ添ヘテ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

第十九條 收入官吏ハ前條ノ受取人ヨリ監守證ヲ以テ現金ノ拂渡ヲ請求セラル、トキハ其監守證ト引換ニ現金ヲ交付シテ金庫ノ領收證ヲ受クヘシ

雜則

第二十條 本規則ハ收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏特別會計ニ係ル官金出納官吏ニ適用ス

第二十一條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス

出納官吏現金取扱規則中加除改正

一 明治二十三年五月十七日大藏省令第十三號

第十六條左ノ通修正追加ス

第一 收入金高五十圓未満ハ 每一箇月 従前ノ第一ヲ第二トシ以下順次繰下ク

二 同年十二月十六日同省令第四十一號

左ノ通り改正ス

第二條 前條ニ據リ委託ヲ爲シタルトキハ出納官吏ハ其資格氏名ヲ記シタル印紙ヲ金庫ニ送付スヘシ

第三條 出納官吏ヨリ保管金ノ拂込ヲナストキハ金庫ハ其保管證書ヲ製シ保管金引出切符用紙ヲ添ヘ現金ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ送付スヘシ

第四條 出納官吏ノ職務ヲ任命シタル當該官ハ其義務委託ヲナスヘキ出納官吏ノ資格氏名ヲ金庫ヘ通知スヘシ但陸軍省海軍省ノ出納官吏ノ資格氏名ハ其所屬長官ヨリ通知スヘシ

第五條 金庫ハ前條出納官吏資格氏名ノ通知ヲ受クルニ非サレハ現金ノ仕拂ヲナスヘカラス

第十七條 外國及運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合ニ於テ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ其金額ノ監守證ヲ製シ最近便ヲ以テ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ送付スヘシ

三 明治二十六年十一月同省令第二十五號

左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

- 一 第九條ヲ削除ス
- 一 第十七條中「外國及」トアル三字ヲ削ル
- 一 第十八條中「別符付ノ」トアル四字ヲ削ル

四 明治三十一年^{六月二十二日}大藏省令第六號

第十條ヲ第九條トシ左ノ一箇條ヲ追加ス

第十條 出納官吏在勤地外ニ於テ取扱フ所ノ現金ハ本章ニ準シ便宜其他ノ金庫ニ委託スルコトヲ得

五 明治三十三年^{三月二日}同省令第四號

第十八條ニ左ノ但書ヲ加ヘ及第十九條ヲ改正ス

第十八條但書

但仕拂命令ノ金額ニシテ監守證ノ金額ヨリ少額ナルトキハ領收證金額ノ右方ニ何年何月何日第何號監守證金額何圓ノ内ト附記シ受取人ニ送付シ監守證ノ金額盡キタルトキニ其監守證ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

第十九條 收入官吏ハ前條ノ受取人ヨリ監守證ニ領收證ヲ添ヘ若クハ但書ノ領收證ヲ以テ現金ノ拂渡ヲ請求セラルトキハ之ト引換ニ元金ヲ交付スヘシ

六 明治三十四年^{三月十日}同省令第二十號

第十五條第十六條及第十七條ヲ左ノ通改正ス

第十五條中「現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スル」トアルヲ「租稅其他ノ收入金ヲ領收シタル」ト改ム

第十六條 金庫ノ設置ナキ地方ノ收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收シタルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘテ其在勤地ヲ出納區域トスル金庫若クハ歳入徵收官ノ指

定シタル金庫ニ拂込ムヘシ但次條ニ定メタル場合ハ此限ニアラス

第一 收入金高五十圓未満ハ 每一箇月

第二 收入金高百圓未満ハ 每十日

第三 同 三百圓未満ハ 每五日

第四 同 三百圓以上ハ 翌日限

金庫所在地ノ收入官吏ニシテ金庫設置ナキ地方ニ於テ租稅其他ノ收入金ヲ領收シタル場合ハ前項ニ準ス

第十七條 運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合ニ於テ收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收シタルトキハ其金額ノ監守證ヲ作り最近便ヲ以テ其在勤地ヲ出納區域トスル金庫ニ送付スヘシ但外國ニ於テ領收シタル收入金ノ監守證ハ中央金庫ヘ送付スヘシ

明治二十四年六月勅令第五十五號ヲ以テ差押命令ヲ受ケタル場合ノ手續ヲ規定シ二十六年十二月更ニ之ヲ改正シ翌二十七年二月大藏省令ヲ以テ支拂停止仕拂執行及供託ニ關スル手續ヲ定メタリ蓋シ民事訴訟法ニ依レハ金錢ヲ目的トスル債權ノ強制執行ハ差押命令ヲ以テスヘク而シテ政府ノ支拂フヘキ債務ニ關シテハ政府自ラ第三債務者トシテ差押命令ヲ受クルコトアルヘキヲ以テナリ今左ニ其規定ノ概要ヲ説明セントス

第一 差押

一 政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ此ノ勅令ノ規定ニ從ヘハ仕拂命令官ニ宛テ、之ヲ發スヘキモノトス尤モ其例外トシテ仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル後ナルトキハ其前渡ヲ受ケタル官吏ニ宛テ記名公債元利ニ對シテハ其支拂ヲナス銀行ニ宛テ其他預金保管金供託金ニ對シテハ金庫出納役本支金庫ニ在テハ出納役代理

人)ニ宛ツヘシ

二 差押ヲ受ケタル債務ニ就テハ其仕拂命令及案内仕拂命令又ハ仕拂請求書竝ニ案内仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ傍記シテ其命令若クハ請求書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ而シテ其債務ノ一部ヲ差押ヘラレタルトキハ仕拂命令又ハ請求書ヲ各別ニ發行スヘシ

現金前渡ヲ受ケタル官吏銀行ニ於テハ適宜ニ領收證ヲ徴シ其金額ヲ差押債權者ニ支拂ヒ金庫出納役又ハ其代理人ニ於テハ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ差押債權者ニ支拂フヘキモノトス其一部ニ係ルトキハ差押債權者ヲシテ拂渡證書又ハ保管證書分割ノ手續ヲナサシム

第二 仕拂停止

一 差押債權者ニシテ差押命令送達ノ通知ヲ受ケタル時緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂停止ヲ求ムルコトヲ得而シテ金庫ハ已ニ仕拂濟ナルトキハ其請求書ヲ返付ス

二 仕拂命令官又ハ現金前渡ヲ受ケタル官吏已ニ仕拂命令仕拂請求書引出切符ヲ記名者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ直ニ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付シ其仕拂命令請求書引出切符ノ提出ヲ待テ更ニ差押者ニ仕拂ノ手續ヲナスヘキモノトス

第三 供託

債權ニ付配當要求ノ送達ヲ受ケタル場合若クハ債務者カ執行ヲ免ル、爲メ第三債務者カ供託ヲナスヘキ場合ニ於テハ其命令ヲ受ケタルモノハ供託ノ手續ヲナスヘシ而シテ供託金ノ

拂渡ハ配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求其他裁判所ノ命令ニ依ル

勅令第五十五號 (明治二十四年六月十八日)

政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタル場合ニ於ケル會計上ノ規程

- 第一條 第三債務者トシテ政府ノ仕拂フヘキ金額ニ對スル差押命令ハ仕拂命令官ニ宛テ之ヲ發スルモノトス
- 第二條 仕拂命令官ハ一廉ノ負債全額ニ對シ差押命令ヲ受ケタル場合ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記シ國庫ヲシテ差押債權者ニ對シ仕拂ヲ爲サシムルノ手續ヲナスヘシ
- 第三條 仕拂命令官ハ負債額ノ一部分ニ對シ差押命令ヲ受ケタル場合ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ分割シ差押ヲ受ケタル金額ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記シ國庫ヲシテ差押債權者ニ對シ仕拂ヲ爲サシムルノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 繼續收入ノ差押命令ヲ受ル前仕拂命令官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタルトキハ其命令ハ次期以後ノ仕拂ニ對シテ其效ヲ失ハス
- 第五條 仕拂命令官既ニ通常仕拂命令又ハ仕拂請求書及集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ會計主務官ニ向テ差押命令ヲ發スヘシ
- 仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スヘシ但記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ之ヲ發スヘシ

第六條 會計主務官ハ差押命令ヲ受ルトキハ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ金庫ニ送付スヘシ

其差押金額仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ全額ニ及ハサルトキハ差押ニ係ル金額ハ別ニ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シ之ヲ記名者ニ交付シ又ハ金庫ニ送付シ尙金庫ニ於テ差押金額ヲ受取ルヘキ證票ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタルトキハ本文ノ證票ヲ交付セス

第七條 會計主務官仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ記名者ニ交付シ又ハ金庫ニ送付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキ未タ金庫ニ於テ仕拂了セサル場合ニ於テハ金庫ノ仕拂ヲ停止シ其仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ提出ヲ待テ更ニ前條ノ手續ヲナスヘシ

第八條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受タルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第九條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳ヲ變更スルトキハ甲仕拂命令官ノ受ケタル差押命令ハ乙仕拂命令官ニ於テ之ヲ繼續スルモノトス

第十條 債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル場合ニハ會計主務官ノ指定ニ依リ金庫ニ於テ債務額ヲ供託スヘシ但現金前渡ヲナシタル金錢ノ債權ニ關スルトキハ現金前渡ヲ受ケタル官吏又ハ銀行ニ於テ債務額ヲ供託スヘシ

第十一條 民事訴訟法第六百七條ノ命令ニ依リ債務額ノ供託ヲ要スルトキハ前條ノ手續ニ準

據スヘシ

第十二條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本規則ヲ準用ス

大藏省令第十六號 (明治二十四年六月十六日)

政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタルトキ仕拂手續左ノ通り定ム

第一條 明治二十四年勅令第五十五號第二條及第三條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記スルハ朱書ヲ以テ仕拂命令又ハ仕拂請求書書式中何之誰渡トアル傍ニ於テスヘシ

第二條 明治二十四年勅令第五十五號第三條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ分割スルトキ其官吏遺族扶助法納金ノ差引ヲ要スルモノハ政府ノ債權者ニ交付スル仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ於テスヘシ

第三條 仕拂命令官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ其發行濟ノ旨ヲ當該執行裁判所ニ通知スヘシ

第四條 明治二十四年勅令第五十五號第五條二項ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ差押命令ヲ受ケタルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書(公債元利ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ)ヲ徴シ其差押金額ヲ仕拂フヘシ但債權者ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタルトキハ其差押金額ヲ供託シ其旨ヲ當該執行裁判所ニ通知スヘシ前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法第六百二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ差押債權者ノ要求額ヲ差押債權者ニ仕拂ヒ又ハ供託シ其超過額ハ政府ノ債權者ヨリ民事訴訟法第六百二條ノ

通知書ヲ示シ請求シタルトキ適宜ノ領收證書ヲ徴シ之ヲ仕拂フヘシ

第五條 明治二十四年勅令第五十五號第六條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入セントスルトキハ其裏面ニ表面ノ金額(又ハ内何程)差押債權者何ノ誰ヘ仕拂フヘシト記入スヘシ但集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ニ係ルトキハ右ノ外債主ノ金額氏名表中當該債主氏名ノ上ニ其旨ヲ記入スヘシ

第六條 明治二十四年勅令第五十五號第六條ニ依リ差押債權者ニ交付スヘキ證票ハ書式一號ニ依ルヘシ

第七條 前條ノ證票ヲ持參シ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ金庫ハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ對照シ差押債權者ヲシテ該證票ニ書式第一號ノ如ク領收ノ旨ヲ記入セシメタル上之ト引換ニ仕拂ヲナスヘシ

第八條 明治二十四年勅令第五十五號第六條一項及二項但書ノ場合ニ於テ會計主務官ハ書式第二號ノ供託通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第九條 金庫ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ對照シ其金額ヲ拂出シ供託ノ手續ヲナシ其旨ヲ會計主務官ニ通知スヘシ

第十條 明治二十四年勅令第五十五號第七條ニ依リ會計主務官ニ於テ金庫ノ仕拂ヲ停止セントスルトキハ書式第三號ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ金庫ニ於テ前項ノ通知書ヲ受ケタルトキ其既ニ仕拂濟ナルトキハ通知書ヲ返付シ又仕拂未濟ナルトキハ書式第四號ノ

承諾書ヲ會計主務官ニ送付スヘシ

金庫ハ本條ニ依リ仕拂停止ノ承諾書ヲ會計主務官ニ送付シタルトキハ會計主務官ヨリ仕拂停止解除ノ通知ヲ受クルニアラサレハ仕拂ヲナスヘカラス

第十一條 明治二十四年勅令第五十五號第八條ニ依リ差押債權者ニ於テ仕拂ノ停止ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ書式第五號ノ仕拂停止請求書ヲ金庫ニ差出スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキ其既ニ仕拂濟ナルトキハ請求書ヲ返付シ又仕拂未濟ナルトキハ書式第六號ノ承諾書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但差押命令送達通知書ハ同時ニ之ヲ返付スルモノトス

金庫ハ本條ニ依リ仕拂停止ノ承諾書ヲ差押債權者ニ交付シタルトキハ會計主務官又ハ差押債權者ヨリ仕拂停止解除ノ通知ヲ受クルニアラサレハ仕拂ヲナスヘカラス

第十二條 明治二十四年勅令第五十五號第七條ノ場合ニ於テ政府ノ債權者ハ速ニ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ會計主務官ニ提出シ該勅令第六條ノ手續ヲ受クヘシ

第十三條 明治二十四年勅令第五十五號第九條ノ場合ニ於テハ甲仕拂命令官ヨリ即時ニ其旨ヲ乙仕拂命令官ニ通知シ差押命令ノ引繼ヲナスヘシ

(書式略ス)

勅令第二百六十一號 (明治二十六年十二月二十六日)

明治二十四年勅令第五十五號左ノ通改正ス

第一條 政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ左ノ二項ニ掲クルモノ、外仕拂命令官ニ宛テ發スルモノトス

仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スルモノトス

但記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ發スルモノトス

預金保管金供託金ニ對スル差押命令ハ中央金庫ニ係ルモノハ金庫出納役本支金庫ニ係ルモノハ關係ノ金庫出納役代理人ニ向テ發スルモノトス

第二條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳又ハ金庫ニ變更アルトキハ甲官吏又ハ甲金庫ノ受ケタル差押命令ハ乙官吏又ハ乙金庫ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス

第三條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第四條 仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書及ヒ現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令官又ハ現金前渡ヲ受ケタル當該官吏ハ速ニ金庫ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ

第五條 差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ要スルトキハ當該仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル當該官吏銀行又ハ金庫ニ於テ仕拂ノ手續ヲナスヘシ

第六條 配當要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル當該官吏銀行又ハ金庫ニ於テ供託ノ手續ヲナスヘシ

第七條 差押金額ノ仕拂停止仕拂執行又ハ供託ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

大藏省令第二號 (明治二十七年二月七日)

政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止仕拂執行及供託ニ關スル手續左ノ通相定ム

第一條 仕拂命令官ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書並ニ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニ何之誰ノ差押債權者何之誰渡ト記入シ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第二條 政府カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ其仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ各別ニ發行シ差押債權者ニ交付スヘキモノハ前條ノ如ク記入スヘシ

第三條 第二條ノ場合ニ於テ官吏遺族扶助法納金及製艦費納金ノ差引ヲ要スルモノハ政府ノ債權者ニ交付スル仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ於テスヘシ

第四條 現金前渡ヲ受ケタル官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書(公債元利拂ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ)ヲ徴シ其差押金額ヲ仕拂フヘシ

第五條 金庫出納役又ハ其代理人ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル預金保管金供託金ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ明治二十六年大藏省令第十九號第九條ノ領收證書

(差押債権者之ヲ調)及預金通帳又ハ同年大藏省令第二十號第十條ノ保管證書第十二條ノ拂渡證書又ハ同年大藏省令第二十一條第十條ノ請求書及受領證等ヲ提出セシメ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ其差押金額ヲ仕拂フヘシ

第六條 金庫出納役又ハ其代理人カ差押債権者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ差押ヘラレタル保管金ノ一部ナルトキハ明治二十六年大藏省令第二十號第十二條第十五條ノ順序ニ準據シ差押債権者ヲシテ拂渡證書又ハ保管證書分割ノ手續ヲ爲サシメタル上其差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第七條 差押債権者明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ金庫ニ向テ仕拂ノ停止ヲ請求セントスルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止請求書ヲ金庫ニ差出スヘシ

第八條 金庫ニ於テ第七條ノ請求書ヲ受ケ其金額ノ既ニ仕拂濟ナルトキハ直チニ請求書竝ニ差押命令送達通知書ヲ返付スヘシ但仕拂未濟ナルトキハ差押命令送達通知書ノミ返付スルモノトス

第九條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏既ニ仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書又ハ現金引出切符ヲ政府ノ債権者ニ交付シ若クハ金庫ニ送付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ直チニ第二號書式ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ
第十條 金庫ニ於テ前條ノ仕拂停止通知書ヲ受ケ其金額ノ仕拂濟ナルトキハ直チニ其旨ヲ附箋シテ通知書ヲ返付スヘシ

第十一條 仕拂停止ノ通知ヲ爲シタル後差押ノ解除アリタルトキハ仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏直チニ第三號書式ノ仕拂停止解除通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十二條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏裁判所ノ命令ニ據リ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債権者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債権者ニ交付シアル仕拂命令仕拂請求書通知書(明治二十六年大藏省訓令第四十號附屬第一號書式ノ以下同シ)又ハ現金引出切符ヲ差押債権者ヨリ提出セシメ之ニ同書式中何之誰渡トアル渡ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ其下ニノ差押債権者何之誰渡通知書ノ場合ニハ何某殿トアル何殿ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ何某ノ差押債権者何之誰ト記入シ差押債権者ニ交付スヘシ

第十三條 第十二條ノ場合ニ於テ差押債権者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ裏面ニ表面ノ金額内何程別ニ差押債権者何之誰ニ仕拂フヘシト記入シ之ヲ政府ノ債権者ニ交付シ尙ホ第四號書式ニ據リ金庫ニ於テ差押金額ヲ受取ルヘキ證券ヲ調製シ之ヲ差押債権者ニ交付スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ手續ヲ爲スニ當リ既ニ現金引出切符ノ無効トナリタルトキハ更ニ現金引出切符ヲ發行シ差押債権者ニ交付スヘシ

第十五條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏第十二條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第五號書式第十三條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ仕拂通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十六條 第七條第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ニ對シ金庫ハ仕拂命令官現金前渡ヲ受ケ

タル官吏ヨリ第十一條ノ仕拂停止解除ノ通知又ハ第十五條ノ仕拂通知アルニアラサレハ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 金庫ハ第十二條第十三條ノ記入アル仕拂命令仕拂請求書現金引出切符又ハ證券ヲ以テ仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通仕拂ニ關スル順序ヲ爲シタル上第十五條ノ通知書ニ對查シ仕拂ヘシ

第十八條 明治二十六年勅令第二百六十一號第六條ニ據リ仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ仕拂命令仕拂請求書現金引出切符又ハ現金ニ明治二十六年大藏省令第二十一號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送付シ其旨執行裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ當該仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ保管シ若クハ裁判所ニ送付ヲ要スルトキハ之ヲ該裁判所ニ送付シ其領收證書ヲ徵スヘシ

第十九條 第十八條ノ供託スヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令仕拂請求書又ハ現金引出切符ヲ各別ニ發行シ第十八條ノ手續ヲ爲スヘシ
第二十條 差押金額ヲ供託シタル仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 仕拂命令官現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ノ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ取消通知書ヲ金庫及政府ノ債權者ニ送付シタル上

第十八條第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 銀行又ハ金庫ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ其現金ニ明治二十六年大藏省令第二十號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘテ金庫ニ送付シ其旨執行裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ其銀行又ハ金庫ニ保管シ若クハ執行裁判所ニ送付ヲ要スルトキハ之ヲ該裁判所ニ送付シ其領收證書ヲ徵スヘシ

第二十三條 差押金額ヲ供託シタル銀行又ハ金庫ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ第四條第五條差押金額仕拂ノ例ニ據リ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ

(書式略ス)

明治二十六年十一月ニ至リ大藏省訓令第四十號ヲ以テ仕拂命令及仕拂請求書發付手續ヲ規定シタリ之ニヨレハ凡ソ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニヨリ金庫ニ於テ現金ヲ仕拂フニハ案内ニ基カサル可ラサルヲ以テ仕拂命令官ハ臨時至急ヲ要スルモノヲ除クノ外仕拂切符交付ノ前日ニ其案内ヲ金庫ニ送付シ領收證書ヲ徵スヘシ而シテ之ト同時ニ受取人ニ通知書ヲ交付スヘク受取人ハ領收ノ旨裏書ヲナシ之ト引換ニ現金ヲ金庫ヨリ受領スルモノトス然レトモ受取人外國ニ在ルトキ又ハ電信爲替ニ依ル場合ニハ通知書ヲ要セサルナリ而シテ仕拂期日ノ特ニ一定スルモノ及臨時至急ヲ要スルモノヲ除クノ外毎月二十八日(於二月及十二月ニ限リ仕拂命令及仕拂請求書ヲ發スヘシ蓋シ毎月ノ計算整理ニ便ナレハナリ

大藏省訓令第四十號

(明治二十六年十一月二十五日)

仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令及集合仕拂請求書發行等ニ關スル取扱手續左ノ通相定メ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

第一條 仕拂命令官仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ成ルヘク其交付ヲ爲サントスル日ノ前日ニ其案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ヲ金庫ニ送付スヘシ但臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第二條 仕拂命令官集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ本訓令附屬第一號書式ノ通知書ヲ各受取人ニ交付シ受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨裏書ヲ爲シ之ト引換ニ現金ヲ金庫ヨリ受取ラシムヘシ

第三條 仕拂命令官金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令又ハ仕拂請求書及集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ通知書ヲ各受取人ニ送付シ現金領收ノ際受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨裏書ヲ爲シ之ヲ金庫ニ差出サシムヘシ但在外國受取人ヘノ送金及電信爲替ニ依リ送金スル場合ニハ本條ノ通知書ヲ送付スルニ及ハス

第四條 仕拂命令官仕拂命令仕拂請求書ヲ債主ニ交付シ若クハ集合仕拂命令集合仕拂請求書又ハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ各其領收證書ヲ徴スヘシ

前項ノ領收證書ハ支出ノ證憑トシテ會計規則第五十二條第三項ノ計算書ニ添付スルモノトス

第五條 仕拂命令官仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書ヲ發行シタル後科目ニ

誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ本訓令附屬第二號書式ノ科目訂正書ヲ當該金庫ニ送付スヘシ

第六條 毎月ノ計算整理ノ爲メ仕拂命令又ハ仕拂請求書及集合仕拂命令集合仕拂請求書ヲ受取人ニ交付シ又ハ金庫ニ送付スルハ毎月二十八日(二月二十六日)限リトス但法規上仕拂期日ノ定マレルモノ及臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第七條 仕拂命令官ハ毎月二十八日(二月二十六日)以後ノ送付ニ係ルモノニシテ其月中ニ交付スルニ至ラサルモノアルトキハ末日ニ於テ本文ノ手續ヲナスヘシ

第八條 仕拂命令官金庫出納事務規程作業及鐵道會計金庫出納事務規程ニ據リ金庫ヨリ歲出金月計對照表歲出仕拂未濟繰越金支出月計對照表ニ證憑書類ヲ添ヘ送付ヲ受ケタルトキハ其仕拂命令受領濟額竝ニ仕拂請求書受領濟額ハ仕拂命令仕拂請求書發行額ニ其現金仕拂額ハ證憑書類ニ對照シ相違アルトキハ速ニ其事由ヲ付シテ之ヲ返付シ相違ナキトキハ甲號表ハ之ヲ留置キ乙號表ニ書面ノ金額調査候處相違無之ニ付證明シ證書何枚及返却候也ト記入署名捺印シ證憑書類ト共ニ三日以内ニ之レヲ金庫ニ返付スヘシ

明治二十三年法律第十一號第十條ニ據リ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シタル仕拂切符竝ニ同年當省訓令第二十七號第二條第二項ニ據リ中央金庫及本支金庫ニ於テ引繼ヲ受ケタル雜部金ニ對シ金庫ニ於テ現金仕拂ヲ爲シタル分ニ係ル月計對照表ノ送付ヲ金庫ヨリ受ケタルトキ前項ニ準シテ取扱フヘシ

前各項ニ據リ證明ヲ爲シタル後該證明ニ就キ誤謬ヲ發見シタルトキハ其理由ノ説明書ヲ作

リ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第九條 仕拂命令官ハ照較ノ用ニ供セシムル爲メ其印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ
(書式略ス)

仕拂命令仕拂請求書發行手續中改正

一 明治二十七年^{三月}七月^{三日}大藏省訓令第四十號

第四條第二項ヲ左ノ通改正ス

前項ノ領收證書ハ金庫ヨリ會計検査院へ提出ノ爲メ仕命令官へ送付アルヘキ第二條第三條ノ現金交付濟通知書及第三條但書ノ場合ニ於テ受取人ヨリ徴シタル領收證書ト共ニ會計規則第五十二條第三項ノ計算書ニ添付シ提出スヘシ

二 明治三十一年^{四月}十四日^{四月}同省訓令第二十七號

第八條中「甲號表ハ之ヲ留置キ乙號表ニ」十三字ヲ削除ス

三 明治三十三年^{六月}四月^{六日}同省訓令第二十三號

第二條第三條第四條第二項及附屬第一號書式ヲ左ノ通り改正ス

第二條 仕拂命令官集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ本訓令附屬第一號書式ノ通知書ヲ各受取人ニ交付シ受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨等ヲ記入シ署名捺印シテ之ト引換ニ現金ヲ金庫ヨリ受取ラシムヘシ

第三條 仕拂命令官金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令仕拂請求書又ハ集合仕拂命令集合仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シタルトキハ通知書ヲ各受取人ニ送付シ現金領收

ノ際受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨等ヲ記入シ署名捺印シテ之ヲ金庫ニ差出サシムヘシ但在外國受取人へノ送金及電信爲替拂ノ場合ニハ本條ノ通知書ヲ送付スルニ及ハス單ニ其旨ヲ通知スルモノトス

第四條 (第二項前項ノ領收證書ハ會計規則第五十二條第三項ノ計算書ニ添付シ提出スヘシ

(第一號書式略ス)

四 同年^{五月}一日^{五月}同省訓令第四十號

第八條第一項ヲ左ノ通改正ス

仕拂命令官金庫出納事務規程^(特別會計)ニ據リ金庫ヨリ歳出金月計對照表歳出仕拂未濟繰越金支出月計對照表仕拂命令受領濟額報告書及仕拂請求書受領濟額報告書ニ證書類ヲ添へ送付ヲ受ケタルトキハ證書類ニ對照^(受領濟額報告書ハ)シ相違ナキ場合ハ式ノ如ク證明スト記入シ署名捺印ノ上證書類ト共ニ三日以内ニ之ヲ金庫ニ返付シ相違アル場合ハ速ニ其事由ヲ付シテ返付スヘシ

又國庫出納上一時遊金ヲ生スルコトアル場合ニ於テ徒ニ之ヲ庫中ニ埋藏シ置クハ國家經濟上策ノ得タルモノニアラスシテ一朝市場ノ金融閉塞スルコトアルニ當リテハ之ヲ放銀シテ以テ其救濟ヲ圖ラサルヘカラス又出納上一時不足ヲ來タス場合ハ大藏省證券發行ノ途アリテ敢テ不便ヲ感セサルカ如シト雖モ元來證券ハ其支拂期限ニ一定ノ制限ヲ付スルカ故ニ僅少日子ノ場合ニ於テモ亦其期限ニ從ハサル可ラス假令其期限ノ伸縮ヲ自在ナラシムルトスルモ一時ノ緩急ニ應センカ爲メ之カ發行ノ手續ト費用トヲ要スルノ不利アリ依テ明治二十七年六月法律第十六號

ヲ以テ國庫金運轉上相當ノ利子ヲ徴シテ之ヲ當座預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預入レ又ハ相當ノ利子ヲ付シ同銀行ヨリ借入ヲ爲スヲ得ヘキノ制ヲ設ケタリ

明治三十年四月勅令第百十八號ヲ以テ特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル手續ヲ定メ特別會計ノ豫算中ニ設ケタル第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ豫算ヲ所管スル主務大臣ニ於テ會計規則第十八條ノ勅令ニ基キ支出ヲナシ其金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ニ通知シ大藏大臣ハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘキモノトセリ

第二款 管守金錢出納

管守金ノ制度ハ大藏省ニ於テ各廳ノ經費現金ヲ管守スルモノニシテ明治九年院省廳現金納拂規則ヲ設ケ院省廳各定額現金ノ納拂ヲ取扱ヒシモ明治十五年會計法ヲ改正スルニ當リ各廳ニ於テ出納スヘキ現金ハ總テ大藏省之ヲ管守シ後歲入歳出納規則ヲ制定スルニ及ヒテ大ニ收支ノ順序ヲ改正シ各廳ノ現金ハ派出金錢取扱方ヲシテ之ヲ取扱フモノトセシカ明治二十二年金庫規則ヲ發布シ翌二十三年四月ヨリ之ヲ實施スルニ當リ國庫ニ於テ保管出納スル現金ハ總テ金庫ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコト、シ日本銀行ヲシテ之ニ當ラシムルニ至レリ以下序ヲ逐フテ其沿革ヲ述ヘントス

抑、院省廳ノ定額金ハ從來月割ヲ以テ現金ヲ交付シ院省廳ハ之ヲ爲替方ニ預ケ置キ月給旅費其ノ他用度ノ仕拂ヲ要スル毎ニ爲替方ヲシテ支拂ハシメ若シ殘餘アルトキハ爲替方ノ預證書ヲ以テ返納シ來リシモ現金運轉ノ不便ナルハ言ヲ俟タサルヲ以テ豫算ニ依リ月額ヲ定メ現金支拂ハ一

切出納寮ニ於テナスコト、シ明治九年二月二十三日院省廳現金納拂規則ナルモノヲ制定セリ而シテ先ツ正院元老院及內務大藏兩省ヨリ施行シ他ノ省廳ハ姑ク舊ニ仍リ漸ヲ以テ施行セシム

- 一 院省廳ノ定額現金納拂ヲ爲スカ爲メ大藏省出納寮ニ一局ヲ設ケ出納頭其責ニ任シ又其費用ハ大藏省定額金ヨリ支給ス
- 二 該局ニ於テハ傳票ヲ以テ出納寮ヨリ院省月額ノ內渡ヲ受ケ本人持參ノ拂渡切符ト案内切符トヲ照合シ該院省月額ヲ目途トシテ納拂ヲナス而シテ其拂渡切符ハ已ムヲ得サル事故アルノ外其受領翌日ヨリ三日間有效トセシカ後七月ニ至リ有効期間ヲ十日ト改ム又該局ハ毎月請取金ノ差引帳及拂濟切符ヲ添ヘ院省廳ニ報告シ請取書ヲ取り糞ニ本寮ヘ入置キタルモノト交換スヘシ
- 三 院省廳ニ於テハ現金ヲ受取ルヲ要セス切符ヲ以テ納拂ヲ爲スヘシ但月額金ヲ超過スルトキハ一般ノ成規ニ準シ豫メ大藏卿ノ認可ヲ經ヘシ故ニ該局ニ於テハ特ニ大藏卿ノ命令ナキ限リハ定額ニ超ユルモノハ之ヲ支拂フヲ得ス從テ甲省ノ餘金ヲ以テ乙省ノ不足金ニ相互融通スルコトヲ得サルモノトス
- 四 院省廳ニ於テ拂渡ス可キ金額ハ豫メ大藏省ヨリ交付セル甲乙二通ノ切符ニ金額受取人ノ姓名及番號事由等ヲ記載シ甲ハ受取人ニ交付シ乙即チ案内切符ハ當日其渡シタル枚數ヲ一綴ニシテ即日該局ニ送致ス可シ
- 五 洋銀ノ仕拂ヲ要スルトキハ該院省廳ニ於テハ其高ニ當ル金額ノ仕拂切符ヲ製シテ該局ニ送付シ該局ニ於テハ國債寮ヨリ引換ヲ受ケ仕拂ヲナスモノトス又特ニ金銀貨ヲ要スルモノ

ハ其種類ヲ切符ニ記載スヘシ

六 院省應ニ於テハ既ニ仕拂切符ヲ請取人ニ交付シタル後ハ其切符ト通貨ノ交換ニ關シテ何等ノ責ヲ負ハサルモノトス

七 院省應常用必需ノ物品代ハ月末ニ至リ其總額ヲ支拂切符ニ記載シ又官員月給旅費等數人ヘ給與スヘキ金額ハ一院或ハ一局毎ニ一纏メニナシ切符ニ記載スヘシ又旅費等ノ如ク豫算ヲ以テ假渡セシ金額ハ後日精算ノ上過不足トモ該局ヘ納拂ノ手續ヲナスヘシ

八 院省應ヨリ他方ヘ遞送スヘキ金額ハ仕拂切符ニ送リ先其他ノ事項ヲ記載シテ該局ヘ送リ該局ハ記帳ノ上爲替又ハ現金遞送ノ手續ヲナスヘシ但シ爲替打歩現金遞送費ハ院省應ノ負擔トス

大政官達第十八號 (明治二十九年三月二十三日)

院 省 廳

從來定額金月割ヲ以相渡候處自今月給旅費其他用度品等總テ定額現金ノ納拂ハ大藏省出納寮ニ於テ取扱候條本年三月一日ヨリ別紙規則ノ通可取計此旨相達候事

但此際先ツ正院元老院內務大藏兩省ヨリ致施行候條其他各省廳ノ儀ハ暫ク從前ノ通可相心得尤大藏卿ヨリ通達次第本文ノ通遵行可致事

(別紙) 院省應現金納拂規則

院省應月給旅費其他需用品等定額金ヲ以テ納拂スヘキモノハ大藏省ニ於テ出納頭大藏卿ノ命ヲ奉シ現金納拂ノ取扱ヲナス其規則左ノ如シ

第一條 大藏省出納寮ニ於テハ院省應ノ定額ニ於ケル現金ノ納拂ヲナス爲メ更ラニ專務ノ一

局ヲ置キ出納頭之ヲ管理ス故ニ該局ノ官員或ハ雇入レノ者等ニ不正ノ事アレンハ出納頭其責ニ任スヘシ而テ該局ノ諸費用ハ大藏省ノ定額金ヲ以テ支給ス

第二條 該局ニ於テハ院省應ヨリノ案内切符第四圖甲ニ切符ト其納拂ヲ要スル本人持參ノ切符第四圖乙ニ照シ現金ヲ納拂スルモノニシテ其納拂ノ得失當否ニ關與スルコトナシ

第三條 該局ニ於テハ前條ノ仕拂ヲナス爲メ適宜ニ該院省應月額ノ幾分ヲ傳票ヲ以テ屢次出納寮ヨリ請取リ置キ第十條ノ通り差支ナク渡シ方ヲナスヘシ尤此請取金ハ都合ニヨリ何箇度ニ請入ルトモ院省應ノ月額ヲ超ユヘカラス

第四條 前條ノ請取金ハ素ヨリ該院省應ノ額金タルヲ以テ毎月月末其月請取タル總計第一圖ニ第二圖ノ差引帳及ヒ拂濟切符ヲ添ヘ該院省應ヘ報告スヘシ院省應ニ於テハ此報告ニ對シ第三圖成規ノ請取書此請取書ヲ以テ勅ヲ製シ該局ニ送致スヘシ該局ニ於テハ彙ニ本寮ヘ差入置タル請取書ト交換スヘシ但該局ニ於テハ毎月請取高ト拂渡シノ高ト差引殘金アルトキハ翌月ノ預ニ立ヘシ

第五條 院省應ニ於テハ定額金ヲ現ニ受取ヲ要セス既ニ該局ニ存在スルコト、見做シ仕拂ヲ要スル毎ニ該局ニ照管セハ直ニ用ヲ辨シ得ル者ナリ仍テ一箇年ノ定額ヲ十二箇月割其一月分ヲ其月仕拂ビ得ヘキ金額ノ用途トナシ費用ヲシテ右金額ニ超過スルコトナカラシムヘシ然レトモ已ムヲ得サルノ費用アリテ其月額前月仕拂殘金並ニ返納金及ヒ月割ノ額ト合算ハ超過ノ金員ヲ要スルトキハ一般ノ成規ニ準シ豫メ大藏省ヘ照管シ大藏卿ノ承可ヲ經ヘシ

第六條 該局ニ於テハ前條ノ如ク該院省應ノ月額ヲ用途トシ之カ仕拂ヲナシ其額ニ超ユルモ

ノハ別ニ大藏卿ノ命令アラサルヨリハ一切仕拂ハサルヘシ故ニ甲院ノ餘金ヲ以テ乙省ノ不足金ニ融通スル等ノコトアルヲ許サス但本文大藏卿ノ命令ニヨリテ仕拂タリト雖モ尙ホ毎月末第十五條ノ月計表ヲ以テ定額金ニ超過スルヤ否ヲ同卿ヘ申明スヘシ

第七條 各院省廳ニ於テ拂渡スヘキ金錢ハ兼テ大藏省ヨリ渡置タル第四圖甲乙號ノ切符ヘ金員竝渡シ人主受取 姓名及ヒ番號事由等詳細ニ記入シ甲ハ請取主ニ渡シ乙切符内ハ當日渡シタル丈ケノ枚數ヲ一綴ニシテ即日該局ニ送致スヘシ尤至急ノ渡シヲ要スル分ハ受取主ニ渡スヘキ甲號ノ切符案内切符後同ノ印ヲ捺シ持參セシムヘシ該局ニ於テハ案内切符送致ナキ内ハ金額渡サ、ルヲ則トスト雖モ案内切符後同ノ捺印アル分ハ渡シ方ヲナスヘシ

第八條 該局ニ於テハ傳票ノ手續ヲ了シ受取タル金員ハ院省廳ノ元帳ニ記載シ置キ院省廳ヨリ送致セシ案内切符ニ照ラシ受取主ノ持參セル切符ト交換スヘシ但本文現金ノ取扱ヒ及ヒ眞價鑑定ヲナサシムル爲メ適宜人員ヲ定メ銀行ニ命シ之レヲ雇入ルヘシ依テ右給料トシテ毎月金五十圓出ス積リ宛銀行ヘ下付スヘシ故ニ右雇入レタル手代共ニ於テ不正或ハ他ノ不都合等之アルトキハ其責ハ銀行ニ歸シ損失ハ固ヨリ之レヲ辨償セシメ且其次第ニヨリテハ取糺ノ上尙至當ノ法ニ處スルコトアルヘシ

第九條 該局ニ於テハ右受取主ヘ渡シタル金員ト院省廳ノ案内切符ト照會シテ元受金ト日々差引計算ヲナシ日計表ヲ製シ差違ナキヲ檢シテ局長ノ證印ヲ捺シ現金ハ之レヲ金庫ニ藏置スヘシ但日計表ハ毎翌日本寮ニ出シ出納頭ノ檢印ヲ受クヘシ

第十條 受取主ニ於テハ院省廳ヨリ其受取ヘキ金高ヲ記載セシ第四圖甲號ノ仕拂切符ヲ領受

シ右切符ヲ定日限中該局ヘ持參シ現金ト交換ヲ乞フヘシ該局ニ於テハ右切符ノ金高番號等ヲ精査シ案内切符及院省廳ヨリ豫テ差出シ置ケル印鑑ニ照シ直ニ現金ト交換シ右切符ハ渡濟ノ印ヲ捺シ院省廳毎ニ番號ヲ逐テ之レヲ貫括シ散逸ノ憂ナカラシムヘシ

第十一條 該局ニ於テ現金拂渡シハ大藏省休暇ヲ除クノ外毎日午前八時ヨリ午後三時迄渡シ方ヲ爲スヲ則トス尤請取方ハ切符ヲ領受セシ翌日ヨリ休暇ヲ除キ三日ノ間タルヘシ故ニ切符ヘ右ノ趣裏書シ受取主ニモ其旨申渡スヘシ若シ日限超過スル切符ヲ持參シ現金ヲ乞フトモ該局ニ於テハ日限後ノ切符ハ廢物ト見做シ現金ヲ渡サ、ルヘシ但水火盜難等已ヲ得サルノ事故アル時ハ此限ニアラス故ニ事故アルトキハ其由速ニ該局ヘ申出該局ニ於テハ追テ其此證書ヲ持出シトモ現金渡サ、ルヘシ其次第ニヨリ且該院省廳ヘ申明シ更ニ請取方ノ手續ヲ爲スヘシ院省廳ニ於テハ其證據ヲ審ニシ其事故相違無キニ於テハ更ニ其切符ニ日限後渡ノ印ヲ捺シ或ハ切符紛失スルモノハ更ニ同日日同番號ノ切符ヲ製シ紛失再渡ノ印ヲ捺シ請取主ニ下付シ且其由ヲ該局ヘ通知スヘシ

第十二條 仕拂金切符用紙ハ大藏省ニ於テ之ヲ製シ各院省廳ヘ渡スヘシ而シテ右切符ニ調印スルハ院省廳ノ用度或ハ會計課長ノ印鑑ニ葉ヲ豫メ該局ニ差出スヘシ此内一葉ハ局長ニ留置キ一葉ハ切符用紙雜形ヲ添照會ノ爲メ銀行ニ下付スヘシ

第十三條 洋銀ノ仕拂ヲ要スルトキハ該院省廳ニ於テ豫メ國債券ヘ引換方及相場等ヲ問合セ其高ニ當ル金額ノ仕拂切符洋銀ノ額ヲ本行ニ置キ製シ該局ニ送致スヘシ然ルトキハ該局ニ

於テ洋銀ヲ交換シテ之レヲ仕拂ト雖モ預金ハ通貨ヲ以テ差引ヲナスヘシ其餘外國各種ノ貨幣ヲ仕拂フモ總テ右ニ準スヘシ但外國人給料等ニテ金銀貨ヲ要スルモノハ拂切符ヘ金種類ヲ記載スヘシ

第十四條 切符上ノ番號ハ乃チ拂出シ金ノ順序ナレハ精々差謬ナキ様注意シ且月末悉皆拂濟スヘキ止ムヲ得サル金額アルトキハ翌月ノ第一號トナシ都テ翌月ノ部ニ組入ルヘシ且各所遞送金モ第何號ニテ拂止メノ旨本文ト共ニ通知スヘシ

第十五條 該局ニ於テハ右拂止メノ通知ヲ以テ受拂ノ帳簿ニ照シ速ニ月計表二葉ヲ製シ切符ト共ニ出納頭ノ檢印ヲ要シ一葉ハ局中ニ留置キ一葉ハ大藏卿ニ呈スヘシ尤其月仕拂フヘキ案内切符ノ内未拂ノ分之レアルトキハ其金員ハ拂濟ト見做シ月計表ニ登記シテ計算スヘシ

第十六條 院省廳ニ於テ既ニ拂切符ヲ請取主ニ渡セシ上ハ全ク請取主ト該局ノ直引合ニ屬スルヲ以テ切符ト通貨ヲ交換スル上ニ於テ後日何等ノ苦情ヲ生スルトモ院省廳ニ於テハ一切關係ナカルヘシ

第十七條 該局ハ只管切符ノ員數ニ據リ現金ノ納拂ヲ爲スノミニシテ院省廳ノ勘定仕上等ニハ固ヨリ關係セサルヘシ故ニ勘定帳ハ院省廳ニ於テ一般ノ成規ニ遵ヒ之レヲ調製スヘシ

第十八條 錢厘等瑣數ノ金額ヲ其都度ニ拂出スハ雙方ノ手數ハ勿論請取主ニ於テモ不便タルヲ以テ院省廳ニ於テ紙油等常用必需ノ物品ハ豫メ通帳ヲ製シ月末ニ至リ其總額ヲ拂切符ニ掲ケ請取主ニ渡シ第九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 右ノ如ク院省廳常用必需ノ品ハ都テ通帳ニ綴リ月末ニ至リ拂渡ノ手續ヲナスト雖モ勘定帳錯雜セサル爲メ豫メ注意シ臨時入用ノ品ニシテ他ニ類似無キ物品ハ假令鎖數ト雖モ其都度拂渡シノ手續キヲ爲スヘシ

第二十條 官員月給旅費其外數人ヘ給與等ノ金額ハ第四圖仕拂切符ヲ以テ一院省或ハ一寮局一纏メニ之ヲ請取該院省廳ニ於テ分配スヘシ

第二十一條 大藏省退省後又ハ休暇日或ハ夜中ニ當リ非常ノ事故アリテ萬一差延ヘ難キ即時必用ノ金額アルトキハ院省廳ニ於テ第四圖甲號切符非常渡(案内切符後同)ノ印ヲ捺シ請取人ニ渡スヘシ請取人ハ何時ニ限ラス之レヲ該局ヘ持參シ宿直ノ者ヘ對シテ現金請取方ヲ乞フヘシ但本文金額非常渡シ方ノ順序ハ大藏省ニ於テ適宜ノ方法相定メ置ヘシ

第二十二條 院省廳ヨリ他方ヘ遞送スヘキ金額アルトキハ仕拂切符ヲ製シ其送り先其他即日又ハ何日渡或ハ現金遞送等ノ旨ヲ明細ニ記載シ第六圖ノ書面ヲ副ヘ該局ヘ送致スヘシ該局ニ於テハ右切符ヲ檢査シ夫々記帳ノ上便宜ニ任セ爲替或ハ現金遞送ノ手續キヲ爲スヘシ而シテ其送り先ヨリ受取證書到着スルトキハ後日ノ證トシテ該局ニ留メ置ヘシ

第二十三條 爲替取扱ノ者ヘハ百圓以下ノ金額ハ明治八年乙第二十二號大藏省達ニ照準シ爲替打歩ヲ給スヘシ百圓以上ノ分ハ土地ノ難易及其時ノ相場ニヨリ臨時其額ヲ定メ爲替打歩ヲ給スヘシ但現金遞送ノ分ハ相當ノ運輸賃ヲ拂渡スヘシ

第二十四條 爲替打歩現金遞送費ハ該院省廳ノ失費タルヘシ故ニ爲替或ハ現金遞送等取扱ノ者ヨリ爲替打歩又ハ遞送費等請取ルヘキ員數書ヲ一旦該局ヘ差出サセ該局ニ於テ精査シ金

員其外不相當之レ無キ上ハ右書面へ局長檢印シ請取主へ下付シ該院省廳へ持參セシムヘシ
院省廳ニ於テハ該局ノ檢印ヲ查覈シ且爲替或ハ遞送金高ニ對照シ仕拂切符ヲ製シテ請取主
ニ渡シ而シテ通常仕拂ノ手續キヲ爲スヘシ

第二十五條 院省廳ニ於テ旅費其外一時豫算ヲ以テ假渡セシ金額追テ仕上精算ノ上不足アル
トキハ其不足金ハ前條ノ手續ヲ以テ請取方ヲ爲スヘシ若シ渡シ過アルトキハ其金員事由及
ヒ納主姓名等ヲ詳記シ該局ニ通知シ而シテ後其金額ハ本人直ニ該局へ持參スヘシ該局ニ於
テハ之ヲ請取第七圖院省廳宛テノ預リ證書ヲ製シ返納人ニ相渡シ此金額ハ院省廳ヨリノ預
リ金ト見做シ月額ニ合併シテ仕拂ノ元ニ立ルト雖モ大藏省ヨリノ元受金ニ混淆セサル様簿
記ヲ區別スヘシ但預リ書ハ一纏メニ月末第二圖差引帳送達ノ時之ヲ返却スヘシ

第二十六條 該局ニ於テ用フル所ノ帳簿ハ第一現金受拂簿第二日記帳第三原簿第四日記帳第
五現金類別帳ノ五種ニシテ外ニ日計表現金類別表ヲ限トス而シテ右五種帳簿ノ外妄ニ帳簿
ヲ製スルヲ得ス故ニ右帳簿製方及ヒ記載方法並事務取扱ノ順序ハ別ニ大藏省ニ於テ相定ム
ヘシ

第二十七條 前各條相定ルト雖モ實際ニ臨ミ不都合ノ廉之レ有トキハ改正増補スルコトアル
ヘシ

(書式略ス)

院省廳現金納拂規則中改正太政官達第三十二號 (明治二十九年三月二十九日)

第二條中案内切符ノ下割書甲號ノ切符ハ乙號切符ノ誤リ本人持參ノ切符ノ下割書乙號切符

ハ甲號切符ノ誤リ且其割書ノ下ニ或ハ第二十五條納入通知ノ十一字ヲ加入ス

第四條成規ノ受取書ノ下割書勘定帳元受ニ立ツヘシハ勘定帳ノ受取高ニ立ツヘシノ誤リ

第十一條中故ニ切符へ右ノ趣裏書シノ下ニアレハノ三字ヲ加入ス

第十八條中受取主ニ渡シノ下第九條ハ第十條ノ誤

第二十二條中其送り先其他ノ下即日又ハ何日渡ハ爲替送ノ誤

第一圖及第三圖中金種類ノ内譯書ハ刪除ス

第四圖甲號切符線上第六條三井組渡ハ第二十一條非常渡ノ誤リ線中銀行拂ノ印ハ非常渡ノ
印ナリ

諸圖中出納寮實金局首長ハ出納寮預リ金出納課首長トアルハ總テ出納寮現金納拂局首長ト
改ム

太政官達第七十七號 (明治二十九年八月一日)

院 省 廳

本年第十八號ヲ以テ相達候院省廳現金納拂規則第四條第十條第十一條第十二條並第四圖甲
號切符裏面ノ文字ヲ改正シ第八條第十二條但書ヲ刪除候條此旨相達候事

院省廳現金納拂規則

第四條 前條ノ請取金ハ素ヨリ該院省廳ノ額金タルヲ以テ毎月其月請取タル總額第一圖ニ第
二圖ノ差引帳ヲ添へ該院省廳へ報告スヘシ該院省廳ニ於テハ此報告ニ對シ第三圖成規ノ請
取書此請取書ノ金高ヲ勘ヲ製シ該局ニ送致スヘシ該局ニ於テハ曩ニ本寮へ差入置タル請取
書ト交換スヘシ(但書從前ノ通)

第十條 受取主ニ於テハ院省廳ヨリ其受取ヘキ金高ヲ記載セシ第四圖甲號ノ仕拂切符ヲ領受シ右切符ノ金高番號等ヲ精査シ案内切符及院省廳毎ニ番號ヲ逐テ之ヲ貫括シ仕拂切符竝案内切符トモ該局ニ備置ヘシ

第十一條 該局ニ於テ現金ノ拂渡シハ大藏省休暇及ヒ毎日退散ノ後ハ渡シ方ヲ爲サ、ルヲ則トス尤請取方ハ切符ヲ領受セシ翌日ヨリ休暇ヲ除キ十日ノ間タルヘシ若シ日限超過スル切符ヲ持參シ現金交換ヲ乞フトモ該局ニ於テハ日限後ノ切符ハ廢物ト見做シ現金ヲ渡サ、ルヘシ(但書從前ノ通)

第十二條 仕拂金切符用紙ハ大藏省ニ於テ之ヲ製シ各院省廳ヘ渡スヘシ而シテ右切符ニ調印スル院省廳ノ用度或ハ會計課長ノ印鑑ヲ製シ該局ニ差出シ置クヘシ

此ノ如ク中央官廳ノ經費ハ現金ヲ以テ交付シ來リシモ明治九年二月ニ至リ現金納拂規則ヲ定メ現金ノ納拂ハ總テ之ヲ大藏省出納寮ニ於テ取扱フコト、セリ然レトモ年ヲ逐フテ事務上ニ變遷ヲ來セシヲ以テ各條ニ多少ノ差支ヲ生シ條ヲ逐テ修正ヲ加フルトキハ却テ繁雜ニ涉リ且現金納拂掛ヲ改メテ主金部ト稱スルノ必要アリシヲ以テ明治十三年十一月二十日出納局現金納拂掛ハ上申案ヲ具シテ大藏卿ニ請議シ此ニ於テ翌十四年四月八日大藏卿ハ更ニ達案ヲ具シテ太政官ニ稟申スル所アリタリ

各廳定額金納拂規則改正之儀ニ付上申

出納局於而取扱候各廳定額金納拂規則之儀ハ明治九年二月第十八號ヲ以御達相成候處取扱上差支之儀有之同年八月第七十七號ヲ以修正之儀御達相成候得共追年實際之事務整理スルニ隨

ヒ差支之廉モ不少候間別冊之通り改正相成度且現金納拂掛名稱ノ儀ハ自今主金部ト改稱致シ度御達案相添此段上申仕候也

追而名稱改正之儀ハ別冊御達後當省ヨリ向々へ通知可致候也

然ルニ右改正ノ議ハ遂ニ太政官ノ決裁ヲ見スシテ止ミタリト雖モ當時ニ於ケル出納方法ノ趨勢ヲ知ルニ足ルヲ以テ左ニ其要旨及ヒ該達案ヲ掲ケテ參考ニ資ス

一 主金部

出納局ニ於テ各廳經費ニ屬スル現金ノ納拂事務ヲ掌ルモノヲ主金部ト稱シ各廳ハ一箇年ノ經費豫算決定セハ年度ノ首ニ主金部へ報告シ主金部ハ各廳ニ代テ傳票順序ヲ了シ假受取證書ヲ以テ成規ニ依リ現金ヲ受領シ以テ仕拂ヲナスヘキモノトス

二 預リ證書及受取證書

主金部ニ於テ現金ヲ受取リタルトキハ預リ證書ヲ添へ其廳ニ報告シ其廳ハ受取證書ヲ製シ主金部ニ送り主金部ハ之ヲ假請取證ト交換スヘシ

三 受拂差引帳

主金部ニ於テハ毎月初旬前月中ノ受拂差引帳ヲ製シ各廳ニ回付シ各廳ハ預リ證書ト對照ノ上差引帳ヲ還付スヘシ而シテ主金部ニ於テハ受拂ノ殘金ハ翌月ノ預リニ立ツヘキモノニシテ甲廳ノ剩餘金ヲ以テ乙廳ノ不足金ニ流用スルヲ許ナス

四 出納順序

(一) 切符 當初二枚接續セル切符ヲ主金部ヨリ各廳ニ配付シ置キ各廳ニ於テ仕拂ヲ要スル

トキハ金額氏名等ヲ記載シ甲切符ヲ受取人ニ乙切符ヲ主金部へ回付スヘシ而シテ主金部ニ於テハ甲乙切符ヲ對照シテ現金ヲ交付スルモノナレハ乙切符ノ送致ナキ間ハ仕拂ヲナサルモノトス

(二) 切符ノ失效 仕拂切符ノ有効期間ハ其振出シタル翌日ヨリ休暇ヲ除キ十日間トシ其日數ヲ過クレハ效力ヲ失スルモノトス尤水火盜難等已ムヲ得サル事故アルトキハ振出應ノ證明ヲ得テ交付スルモノトス

(三) 送金 各廳ヨリ他方へ送金ヲ要スルトキハ其送り先等ヲ記載シタル書面ニ仕拂切符ヲ添へ主金部へ廻付シ主金部ハ右金額ノ預リ證書ヲ其廳ニ差出シ置キ爲替又ハ現金ヲ以テ送金ヲナシ受取證書ヲ得タル上先ニ差出セル預リ證書ト交換スヘシ

(出納局上申案)

各廳現金納拂規則案

第一條 大藏省出納局ニ於テハ各廳ノ經費ニ於ケル現金ノ納拂ヲナスニヨリ更ニ專務ノ一部ヲ置是ヲ主金部ト稱シ出納局長之ヲ管理ス故ニ此部ノ官員或ハ雇入ノ者等ニ不正ノ事アレハ出納局長其責ニ任スヘシ而シテ此部ノ諸費用ハ大藏省定額金ヲ以テ支辨スヘシ
第二條 各廳ニ於テ一箇年ノ經費金豫算決定高ヲ以テ年度ノ首ニ主金部へ報告シ置クヘシ尤其期節ニ臨ミ受入ヲ要スルモノハ其都度報告スヘシ
第三條 主金部ニ於テハ前條ノ報告ニヨリ各廳ニ代リ傳票順序ヲ了シ假請取證書ヲ以テ成規ニヨリ何箇度ニモ出納局ヨリ請取置キ仕拂金ニ差支ナカラシムヘシ

第四條 前條ノ金員ハ素ヨリ各廳ノ金員タルヲ以テ主金部ニ於テハ出納局ヨリ現金ヲ取タル時々第一圖ノ預リ書ヲ造リ其廳へ報告スヘシ其廳ニ於テハ此報告ニ因リ第三圖ノ如ク成規ノ受取證書ヲ製シ主金部ニ送致スヘシ而シテ主金部ニ於テハ該ニ出納局へ差入レ置キタル假請取證書ト交換スヘシ

第五條 主金部ニ於テハ毎月各廳ノ其受金ト仕拂金トヲ差引殘金アルトキハ翌月ノ預リニ立ヘシ尤モ毎月初旬第二圖ノ如ク前月ノ受拂差引帳此差引帳ハ甲乙二冊ヲ製シ置キ毎月彼是交換スヘシヲ製シ各廳ニ報告スヘシ各廳ニ於テハ前月中受領シタル預リ書ノ金高差引帳ノ元受高トヲ照在シ差違ナキニ於テハ此預リ書ト俱ニ一冊甲或ハ乙ヲ主金部へ返却スヘシ

第六條 各廳ニ於テハ現金ヲ請取ラスト雖モ仕拂ハ總テ主金部ニ於テ用辨スルモノナレハ其月額金ヲ以テ一箇月仕拂得ヘキ金額ノ目的トナシ費用ヲシテ右金額ニ超過スルコトナカラシムヘシ然レトモ已ムヲ得サルノ費用アリテ其月額金竝ニ前月ノ仕拂殘金暨ヒ返納金等ヲ合セ猶不足ヲ生スルトキハ一般ノ成規ニ準シ豫メ大藏卿へ照會シ月額線上ノ承可ヲ經ヘシ

第七條 主金部ニ於テハ前條ノ如ク各廳ノ月額竝ニ前月ノ仕拂殘金及ヒ返納金等ヲ合セタル金額ヲ目的トシテ仕拂ヲナスモノナレハ若シ此額ニ超過スル時ハ別ニ大藏卿ノ命令アラサルヨリハ一切仕拂ヲナスヘカラス故ニ甲廳ノ餘金ヲ以テ乙廳ノ不足金ニ融通スル等ノコトアルヲ許サス

第八條 各廳ニ於テ仕拂スヘキ金錢ハ主金部ヨリ相渡ス第四圖ノ切符地紙へ金員暨ヒ番號ヲ記載一金員ノ文字ハ捺捺削除ハ籍ヒ字等ヲナスヘカラス萬夫々證印ノ後載切シテ甲印ノ切

符ハ其仕拂簡ニ相渡シ乙印ノ切符ハ當日拂渡シタル丈ノ版數ヲ一ト綴リニシテ即日主金部ニ送致スヘシ乙印切符送致ナキ内ハ現金ノ支拂ヲナサス故ニ至急ノ渡方ヲ要スル分ハ別段差廻スヘシ尤モ乙印ノ切符ハ現金拂渡ヲナス證據タルニヨリ甲印ノ切符ト共ニ主金部ニ留存シテ各廳ヘハ返却セサルヘシ但各廳トモ仕拂切符ニ調印スル用度或ハ會計局長ノ印鑑ハ主金部ヘ差出シ置ヘシ

第九條 主金部ニ於テハ第三條ノ手續ヲ以テ受入タル月額竝ニ返納金等ハ總テ該廳ノ元受ニ記載シ置キ乙印ノ切符ヲ受領セハ直ニ其廳ノ元受金ヲ拂出シ其拂出シタル金員ハ未拂金トシテ別帳ニ轉記ス故ニ各廳ニ於テハ一旦振出シタル切符ハ變換或ハ取消ヲナスヘカラス但止ムヲ得サル事故アリテ金額ヲ受取シ上過剩ノ分ヲ返納ニ相立不足ナレハ其不足丈ケノ切符ヲ振出スヘシ

第十條 現金受取人ニ於テハ各廳ヨリ其受取ヘキ金高ノ記載アル甲印切符ヲ請取り定日限中主金部ニ持參シ現金ト引換フヘシ主金部ニ於テハ彙ニ各廳ヨリ送致アル乙印切符ニ照シ符合スルトキハ記帳シテ現金ヲ仕拂フヘシ尤日限超過スル切符ハ廢物ト看做シ現金ノ仕拂ヲナスヘカラス但水火盜難等止ムヲ得サル事故アルトキハ其由ヲ切符切出タル廳ニ申出處分ヲ請フヘシ其廳ニ於テハ其證據ヲ審ニシ其次第明白ナルトキハ更ニ同月日同番號ノ切符ヲ製シ紛失再渡ノ印ヲ甲乙丙切符ヘ捺シ甲ハ請取人ニ渡シ乙ハ其事由ヲ記シタル書面ト共ニ主金部ニ送致スヘシ

第十一條 錢厘等鎖數ノ金額ヲ其都度ニ拂出スハ雙方ノ手數ヲ煩シ不都合タルヘキニヨリ各廳ニ於テ日用雜品ノ買入ハ豫メ通帳ヲ製シ置キ月末ニ至リ其總額ヲ仕拂フヘシ然リト雖モ臨時入用ノ物品買入ノ代價ハ假令鎖數ト雖モ仕拂ヲ爲シ勘定帳ノ編纂錯雜ニ涉ラサル様注意スヘシ且官員月給等數人ヘ給與スル金員ハ一廳或ハ一局一課等可成一ト纏メニ請取り其廳ニ於テ分配スヘシ

第十二條 各廳ニ於テ一時豫算ヲ以テ仕拂セシ金員旅費ノ類追テ精算ノ上不足アルトキハ通常ノ手續ヲ以テ仕拂ヲナシ若シ仕拂過アルトキハ第七圖ノ書面ヘ金員事由ヲ記載シ納人ヘ相渡スヘシ納人ハ此書面ヘ現金ヲ添ヘ主金部ヘ持參スヘシ主金部ニ於テ之ヲ請取第一圖其廳宛ノ預證書ヲ製シ納人ニ相渡シ此金額ハ其廳ノ基受金ニ立ツヘシ

第十三條 主金部ニ於テ現金ノ拂渡大藏省休暇及ヒ毎日退散後ハ渡方ヲナサス尤請取方ハ切符ヲ振出シタル翌日ヨリ休暇ヲ除キ十日間タルヘシ

第十四條 大藏省退散後又ハ休暇日或ハ夜中ニ當リ非常ノ事故アリテ差延シ難キ必要ノ金額アルトキハ各廳ニ於テ甲印切符ヘ非常渡シノ捺印ヲナシ猶其用度或ハ會計局長證印シテ現金ヲ請取ルヘキ者ヘ渡スヘシ請取人ハ何時ニ限ラス之ヲ出納局ヘ持參シ宿直ノモノヘ對シテ現金ヲ請取ルヘシ尤乙印切符裏面ヘ非常渡シ仕拂切符ヲ振出シタルコトノ明文ヲ記載シテ速ニ主金部ヘ送付スヘシ但此非常渡シ方ノ順序ハ大藏省ニ於テ適宜ノ方法ヲ定メ置クヘシ

第十五條 主金部ニ於テハ現金受取人ヘ仕拂ヒタル金額ト未拂金ト毎日差引計算ヲナシ現金ハ金庫ヘ藏置シ毎翌日殘高表ヲ製シ部長之ヲ檢シ出納局長ニ出スヘシ

第十六條 仕拂切符ノ番號ハ拂出金ノ順序ニ記載スヘシ而シテ月末悉皆拂濟ニ至レハ第何號ニテ拂止メノ旨即日第五圖ノ如ク主金部へ通知スヘシ尤モ右通知ノ後至急拂出スヘキ止ムヲ得サル金額アルトキハ翌月ノ第一號トシ都テ翌月ノ部ニ組入ルヘシ

第十七條 主金部ニ於テハ右拂止メノ通知ヲ以テ受拂ノ帳簿ニ照シ誤謬ナキト認ムルトキハ月計表ヲ二葉ヲ製シ出納局長ノ検査ヲ經テ一葉ハ主金部ニ存シ一葉ハ大藏卿ニ呈スヘシ若其月仕拂フヘキ乙印切符ノ内未拂ノ分アルモ其金員ハ仕拂濟ト見做シ計算スヘシ尤モ此未拂金ハ別ニ帳簿ヲ設ケ明瞭ニ受拂ヲ爲スヘシ

第十八條 各廳ニ於テ仕拂切符ヲ振出シタル後チ現金仕拂上ニ於テ後日何等ノ苦情ヲ生スルトモ受取人ト主金部ノ直引合ナレハ各廳ハ素ヨリ關係ナカルヘシ

第十九條 主金部ニ於テハ各廳ヨリ振出シタル切符第四圖甲印乙印ノ切符ヲ云フヲ證トシテ現金ノ渡方ヲナスノミナレハ其拂金ノ得失當否ニ關與セス故ニ勘定帳ハ各廳ニ於テ一般ノ成規ニ遵ヒ調製スヘシ

第二十條 各廳ヨリ他方へ遞送スヘキ金額アルトキ其送り先キ等ヲ明細ニ記載シタル第六圖ノ書面ニ仕拂切符ヲ添へ主金部へ送致スヘシ主金部ニ於テハ右金額預リ證書ヲ其廳ニ差出シ置キ成規ヲ以テ夫々記帳ノ上便宜ニ任セ爲替取組ムカ或ハ現金ヲ遞送スヘシ而シテ其遞送嚮キ請取人ヨリ受取證書到著スルトキハ差出シ置キタル證書ト交換スヘシ

第二十一條 右遞送金ハ出納局出張所在金或ハ諸縣預金ヲ以テ可成丈無手数料ノ爲替ヲ爲スト雖モ時ニヨリ差支止ムヲ得サルトキハ有手数料ノ爲替則チ便利ノ銀行へ申付ル歟又ハ郵

便爲替ヲ以テスル歟或ハ現金ヲ遞送スル歟臨機ノ取計ヲ爲スヘシ

第二十二條 右爲替手数料或ハ現在遞送貨ハ素ヨリ其廳ノ失費タルヘシ尤一時出納局ニテ繰換拂ヲ爲シ追テ其取扱人ヨリ差出シタル證書ヲ添へ其廳へ通知スヘシ然ルトキハ其金員ノ仕拂切符ヲ製シ以テ主金部へ返却スヘシ

第二十三條 各廳ニ於テ金銀貨或ハ洋金銀ヲ要スルトキハ第八條甲乙切符へ其種類ヲ記載スヘシ尤洋銀等ノ如キ時價アルモノト雖モ主金部ニ於テハ現貨ノ受拂ヲ爲スノミニシテ損益勘定ニハ一切關係セス且此等ノ正貨幣ハ該廳ニ於ケル定額ノ外ハ決シテ交付セサルヘシ
第二十四條 主金部ニ於テ用ユル帳簿製表及記載方法竝ニ事務取扱ノ順序ハ別ニ大藏省ニ於テ相定ムヘシ

(舊式略ス)

中央官廳所屬ノ支出ハ現金納拂規則ニ依リ明治九年以來出納局ニ於テ現金ヲ支拂ヒ來リシカ明治十五年一月ニ至リ改正發布セラレタル會計法第二十一條ニ於テ各廳ニ於テ出納スヘキ現金ハ大藏省ニ於テ管守スヘキモノトシ大藏省ハ便宜之ヲ各廳ニ委託スルヲ得ヘシトセリ然ルニ大藏省ハ五月十八日ニ至リ會計法第二十一條ニヨリ各廳經費現金當省ニ於テ管守可致處十五年度中ハ便宜ヲ以テ及委託候尤委託規則ノ儀ハ追テ可相達候得共豫メ此旨相達候事ト府縣ニ令達セリ六月十六日會計法第二十一條ニ依リ各廳現金管守順序竝ニ各廳現金委託順序ヲ定メタリ左ニ其大要ヲ説明セン

第一 各廳現金管守順序

一 出納主任者

各廳現金ノ出納ニ付テハ東京ニ於テハ出納局主任書記官大阪ニ於テハ出納支局長各地方ニ於テハ大藏省爲替方ヲ以テ主任者トス故ニ授受ノ證書ハ各其署名ヲ以テスヘキモノトス

二 支拂基金

凡ソ現金ヲ支拂フニハ其支拂ニ供スル基金ナカル可カラズ然ルニ納入機關ハ國庫金取扱所ナルカ故ニ支拂基金ハ相當ノ手續ヲ經テ大藏省ヨリ之カ供給ヲ受クルモノトス
大藏省ヨリ直接ニ現金ヲ受取ルモノハ出納局主任書記官トス故ニ各廳ニ於テハ先經費請求書ヲ大藏省ニ送致シ書記官ハ其廳ニ代リ假受取證書ヲ以テ之ヲ受取り管守證書ヲ其廳ニ送付ス而シテ其出納支局又ハ爲替方ニ於テ收支スヘキモノハ現金ヲ便宜遞送ス
支拂基金ハ各廳獨立トシ決シテ相互ニ流用スルコトヲ許サズ又現金ハ經費ノ科目ニ拘ハラズ各廳毎ニ計算整理スヘシ

三 支拂順序

各廳ニ於テ現金ノ支拂ヲ要スルトキハ甲號支拂切符ハ受取人乙號切符ハ案内トシテ出納局又ハ爲替方ヘ送致ス而シテ各廳ハ支拂切符ヲ交付セシ以後ハ受取人ト關係ナキモノトス

第二 各廳現金委託順序

前陳セル各廳現金管守順序ニヨレハ各廳ニ於テ出納スヘキ現金ハ大藏省ニ於テ之ヲ管守シ出納局出納支局又ハ爲替方ヲシテ直接之カ支拂ノ任ニ當ラシメ各廳ハ大藏省ニ向テ支拂ヲ請求スルモノトス從テ現金ハ支拂金トシテ大藏省ニ於テ管守シ各廳ハ何等ノ責任アルモノ

ニアラス約言スレハ大藏省ハ各廳ノ委任ヲ受ケテ其經費金ヲ管守スルナリ之ニ反シ各省カ大藏省ノ委託ヲ受ケテ現金ヲ管守スルコトアリ即チ會計法ニ所謂便宜ノ方法ニシテ各廳現金委託順序ハ此場合ニ於テ各廳ハ其責任ニ於テ收支事務ヲ處理スル關係ヲ定メタルモノナリ

此ノ如ク根本ノ觀念ヲ異ニスル結果トシテ委託ヲ受ケタル各廳ニ於テ經費ヲ請求スルニハ請求書ヲ大藏省ニ送付シ出納局主任書記官ハ拂出切符又ハ管守證ヲ其廳ニ交付ス仍テ各廳ハ拂出切符ニ付テハ之ニ指名セル場所ニ就キ現金ヲ引換ヘ又管守證ニ對シテハ出納局ヨリ現金ノ回送ヲ受クルモノトス

大藏省達第十六號 (明治十五年六月十六日)

府

縣

會計法第二十一條ニ據リ現金管守順序並委託順序別冊ノ通り相定本年七月ヨリ施行候條此旨相達候事

但委託及ヒ候廳ニ於テ其現金ノ出納ハ銀行又ハ會社ニ命シ取扱シムルヲ得ルト雖モ之ヲ命スルハ當省ノ認可ヲ經候儀ト可相心得候事

(別冊) 各廳現金管守順序

第一條 各廳現金ハ東京ニ於テ出納スルモノハ出納局主任書記官大阪ニ於テ出納スルモノハ出納支局長各地方ニ於テ出納スルモノハ大藏省爲替方ヲシテ之ヲ取扱ハシム故ニ授受ノ證書ハ各其署名ヲ以テス

第二條 出納本支局又ハ大藏省爲替方ニ於テ收支スル現金ハ經費ノ科目ニ關セス一應一途ニ

之ヲ計算ス且ツ甲廳ノ餘金ヲ以テ乙廳ノ不足ニ流用スルヲ得サルモノトス

第三條 各廳ニ於テ經費ヲ請求スルハ通例ノ請求書ヲ大藏省ニ送致スヘシ然ルトキハ出納局主任書記官其廳ニ代リ假受取證書ヲ以テ之ヲ受取第一圖ノ管守證書ヲ其廳ニ送付ス其廳ハ之ヲ得テ出納局長ニ宛タル例規ノ受取證書ヲ送致ス出納局主任書記官ハ其受取證書ヲ得テ彙ノ假受取證書ト交換スルモノトス

第四條 各廳及支廳ノ經費ニシテ出納支局又ハ各地大藏省爲替方ニ於テ收支スヘキモノハ第三條ノ順序ヲ了シ其現金ハ出納局ヨリ便宜遞送ヲ爲シ仕拂ニ供ス尤各支廳經費若クハ諸省ヲ經由シテ交付スル府縣經費(土木營繕費)ハ出納局管守證書ヲ以テ其本廳ヨリ交付ノ順序ヲナスヘシ

第五條 各廳ニ於テ繰換假渡又ハ過渡等ノ如キアリテ之ヲ返納セントスルトキハ第二圖甲號ノ返納證書ヲ納人へ渡シ之ヲ納付セシム納人ニ於テ現金ト共ニ出納本支局又ハ大藏省爲替方ニ持參スルトキハ之ヲ領收シテ第二圖乙號ノ如ク契書證印ヲナシテ之ヲ返戻シ其金額ハ重複受入トシ再ヒ現金ニ加算シ而シテ其廳へ管守證書ヲ送付スヘシ

第六條 各廳ニ於テ現金ノ仕拂ヲ要スルトキハ出納本支局又ハ大藏省爲替方ヨリ回付シアル第三圖ノ切符用紙へ金員及番號年月日等ヲ記載シ會計主務官吏之ニ證印シ其仕拂切符甲號ハ受取人へ渡シ乙號ハ案内トシテ出納本支局又ハ大藏省爲替方へ送致スヘシ

第七條 各廳ニ於テ仕拂切符ヲ交付セシ以後ハ現金受取人ト關係ナキモノトス故ニ出納本支局又ハ大藏省爲替方ニアツテハ乙號案内切符ヲ得テ帳記上各廳部ヲ拂出シ更ニ未渡部ノ科

目ヲ設ケテ之ニ移シ置後日甲號切符ヲ得ルニ及ンテ其未渡部ヲ拂出シ決算ヲ了ス

第八條 出納本支局又ハ大藏省爲替方ニ於テ甲號切符ヲ受取タルトキハ印鑑並乙號切符ニ照シテ後現金ト交換スヘシ萬一持參ノ切符ニ付事故有之トキハ出納局長之カ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 出納本支局共休日ヲ除ノ外毎日出廳時限ヨリ退廳時限マテ現金ノ拂渡ヲナスヘシ(大藏省爲替方拂渡時限モ之ニ準ス)萬一休日又ハ退廳後ニ於テ非常至急ヲ要スル仕拂金アルトキハ其廳ニ於テ甲號切符(非常渡)ノ印ヲ捺シ會計主務官吏證印ヲ捺シテ受取人へ渡スヘシ然ルトキハ出納本支局大藏省爲替方共時限ヲ問ハス現金ヲ拂渡スヘシ

第十條 各廳現金ノ收支ハ出納本支局ニ於テ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル第五圖ノ如キ決算書ヲ製シ七月三十一日迄ニ各廳ニ送致シ其殘高アルトキハ之ニ對シ更ニ第六圖ノ管守證書ヲ送付スヘシ大藏省爲替方ニ於テ收支ヲ取扱タルモノモ亦出納局ヨリ決算書ヲ送付ス但決算濟ニ至ラハ仕拂切符ハ便宜出納局ニ於テ斷裁スヘシ管守證書ハ各廳ニ於テ便宜之ヲ消却スヘシ

第十一條 各廳經費金殘餘アリテ還納セントスルトキハ其現金出納本支局ニ管守スル分ハ仕拂切符ヲ送付シテ更ニ假納證書ヲ得之ヲ以テ還納ノ順序ヲナスヘシ大藏省爲替方ニ管守スル分ハ仕拂切符ヲ送付シテ更ニ其爲替方ノ預リ證書ヲ得還納ノ順序ヲナスヘシ

第十二條 各廳現金中金銀貨幣及洋銀ハ管守證書ニ其種類ヲ明記スルモノトス故ニ各廳ニ於テ仕拂ヲナストキモ亦其仕拂切符ニ種類ヲ明記スヘシ其他ノ通貨ハ單ニ金ト稱シ種類ヲ明

記セサルモノトス

第十三條 各廳ニ於テ他方へ遞送スヘキ金額アルトキハ其現金ヲ管守スル出納本支局又ハ大藏省爲替方へ仕拂切符ヲ送致シ其遞送ヲ要求スルモノトス尤海外へ遞送スヘキモノハ外國費金渡方規則ニ據ルヘシ

(書式略ス)

各廳現金委託順序

第一條 各廳現金ハ出納局主任書記官ヲシテ之ヲ取扱ハシム故ニ受授スル證書ハ之カ署名ヲ以テスヘシ

第二條 委託ヲ受ケタル各廳ニ於テ經費ヲ請求スルハ通例ノ請求書ヲ大藏省ニ送致スヘシ然ルトキハ出納局主任書記官其廳ニ代リ假受取證書ヲ以テ之ヲ受取リ而シテ其拂出切符(出納局又ハ各縣委託大藏省爲替方)又ハ第一圖ノ管守證書(送スヘキ現金ヲ受取更ニ同)ヲ其廳ニ送付ス其廳ハ之ヲ得テ出納局長ニ宛タル例規ノ受取證書ヲ送致ス出納主任書記官ハ其受取證書ヲ得テ裏ノ假受取證書ト交換スルモノトス

第三條 各廳ニ於テ拂出切符若クハ管守證書ヲ得ルトキハ其拂出切符ハ指名セシ場所ニ就キ現金ト引換ヘシ(出納本支局或ハ各廳ノ便宜ニヨ)其管守證書ニ對スル現金ハ更ニ出納局ヨリ各廳へ回送スヘクニ付各廳ハ之ヲ得テ管守證書裏面へ第二圖ノ如ク記載證印シテ之ヲ返戻スヘシ但出納局ノ都合ニヨリ其管守證書ニ對シ現金ヲ遞送セス更ニ他ノ爲替券又ハ拂出切符ニ換ヘテ回送スルコトアルヘシ

第四條 各廳通常ノ經費ハ大藏省現金配賦ノ都合ニヨリテハ既ニ送付シアル管守證書ニ對シ其金員ヲ兩三度ニ分割シテ遞送スルコトアルヘシ

第五條 大藏省ニ於テ各廳ノ支廳經費ヲ直接ニ其支廳へ委託スルコトアルヘシ然ルトキハ其本廳ニ於テハ第二條ノ順序ヲ了シ更ニ其拂出切符又ハ管守證書ヲ以テ交付ノ順序ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ニ於テ繰換假渡過渡等ノ如キ還納金アルトキハ重複受入トシテ再ヒ現金ニ加算スヘシ

第七條 各廳ニ於テハ第三圖ノ切符用紙ヲ製シ置經費仕拂ヲ要スルニ臨ミテ之ニ金員及番號年月日等ヲ記載シ會計主務官吏之ニ證印シ其仕拂切符甲號ハ受取人へ渡シ乙號ハ案内トシテ現金取扱掛若クハ爲替方へ送致スヘシ但切符ヲ以テ經費ヲ拂出シタルモ未タ引換了ラサル現金ハ未渡金トシテ別ニ之ヲ計算スヘシ

第八條 現金取扱掛若クハ爲替方ニ於テ甲號切符ヲ受取人ヨリ受取タルトキハ其印鑑及乙號切符ニ記照シテ後現金ト交換スヘシ萬一持參ノ切符ニ付事故有之トキハ各廳ニ於テ之レカ處分ノ手續ヲナスヘシ但現金渡濟ノ切符ハ甲乙共直ニ渡濟ノ印ヲ捺スヘシ其渡濟捺印未濟ノ乙號切符ハ則未濟金ニ屬スルモノトス

第九條 委託ヲ受タル各廳ハ其現金ノ受拂ヲ計算スル爲メ第五圖ノ如キ現金差引簿(現金シト限リ之ヲ拂出スヘシ)及未濟金差引簿(乙號切符ヲ以テ受入ニ立テ甲號切符ヲ以テ之ヲ拂出スヘシ)ヲ設ケ之ヲ整理シ而シテ毎月第六圖ノ如キ報告表(出納局ヨリ直接ニ委託セ

支應共ニ委託セシ各ヲ作り翌月二日迄ニ其應ヲ發シ出納局長へ差出スヘシ尙又毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル年計表二通ヲ製シ七月三十一日迄ニ其應ヲ發シ出納局長へ差出スヘシ出納局長ハ之ヲ精査シ其一通へ第七圖ノ如ク裏書ヲナシテ返戻シ之ヲ以テ委託現金ノ決算ヲ了シタルモノトス但諸省ヲ經由シテ交付スル府縣經費(土木營繕費)ハ其府縣ニ於テ通常經費金ト併テ之ヲ計算スヘシ

第十條 第五條ニ依リ其支應へ直接ニ委託セシ分ハ總テ前條ノ順序ニ異ナルコトナシ尤本廳ト共ニ委託アル支應ニ於テハ各帳簿ヲ設ケ毎月第八圖ノ如キ報告表ヲ作り翌月二日迄ニ其應ヲ發シ便宜出納局長へ直ニ差出スヘシ年表ノ如キモ亦之ニ準ス

第十一條 各廳經費金殘餘アリテ大藏省へ還納セントスルモノハ出納局へ其現金ヲ假納シ東京外ニアル各廳ハ其廳下大藏省爲替方へ納メ其領收證ヲ得テ通例ノ如ク本納ノ順序ヲナスヘシ管理ノ諸省へ還納スヘキモノモ亦其現金ハ前回同様假納ヲナシテ其省へ還納ノ順序ヲナスヘシ

(書式略ス)

第二十九號 (明治二十六年五月二十一日)

府

縣

客年六月第十六號ヲ以テ相達候各廳現金管守順序並委託順序中別紙ノ廉々改正候條來ル七月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

各廳現金管守順序中改正

管守順序中爲替方トアルヲ現金取扱方ト改ム

第二條 中現金ハ、下年度及ノ三字ヲ加フ

第五條 中返納ノ二字ヲ收入トシ返納證書ノ四字ヲ納付證書ト改ム

第十一條 中大藏省以下四十五字ヲ大藏省現金取扱方ニ管守スル分ハ仕拂切符ニ納金證書ノ添へ送付シテ大藏省爲替方へ預入ノ爲サシメ其納金證書へ領收ノ證印ヲ得之ノ以テ還納ノ順序ヲナスヘシト改ム

第十二條 中及洋銀ノ三字ヲ刪除ス

第十三條 中尤ノ下出納本支局又ハ大藏省現金取扱方所在地内ニ於テ甲廳ヨリ乙廳ヘノ送金ハ便宜各廳ニ於テ取扱フヘシ但ノ四十七字ヲ加フ

第二圖 中甲印但書返納ノ二字ヲ納付ト改ム

第五圖 中洋銀ノ二字ヲ刪除ス

各廳現金委託順序中改正

第二條 中爲替券ノ三字ヲ送金手形ト改ム

第五條 本文ヘ左ノ但書ヲ加フ

但本廳ヲ經テ委託セシ支應モ之ニ準ス

第六條 中還納ノ二字ヲ收入ト改メ重複受入トシノ六字ヲ刪除ス

第七條 但書ヲ刪除ス

第八條 但書中其渡濟以下二十五字ヲ刪除ス

第九條 中委託ヲ受タル各廳ハノ下年度及經費ノ科目ニ關セスノ十二字ヲ加ヘ現金差引簿ノ下

割注乙號切符ニ依リノ七字ヲ現金ヲ拂渡セシトキトシ拂出スヘシノ下尤爲替方ヲ置キタル各
ノ七字並同上ノ下割註及報告表ノ下割註ヲ刪除シ作りノ下之ニ第八圖ノ如キ内譯表ヲ添ヘノ
十四字ヲ加フ

第十條 中直轄ノ下「三」ノ字ヲ刪除シ「又ハ本廳ヲ經テ」ノ七字ヲ加ヘ毎月ノ下第六圖及ノ四字ヲ加
フ

第十一條 中假納シノ下假納證書ヲ得之ヲ以テ本納ノ順序ヲナスヘシノ二十字ヲ加ヘ其下ノ
三字ヲ其現金ニ納金證書ヲ添ヘトシ其領收證書ヲ得ノ通例ノ如クノ十二字ヲ其納金證書ヘ領
收ノ證明ヲ得テト改ム

明治十五年七月十八日太政官達第四十三號ヲ以テ院省廳現金納拂規則ハ同年六月限り廢止セリ
明治十六年三月三日大藏省ハ經費ノ管守ヲ十六年度モ尙府縣ニ委託セリ

降テ明治十九年三月六日ニ至リ歲入歲出出納規則ヲ定メ歲入歲出ニ係ル現金ノ收納仕拂ハ總テ
大藏大臣之ヲ管理シ又各廳ノ收支命令官ハ其徵收ヲ監理シ現金ハ直ニ金庫ニ收納シ現金ノ仕拂
ハ其所管金庫ニ於テ之ヲ執行スルモノトス而シテ現行法規中該規則ニ抵觸スル條項ハ總テ之ヲ
廢止セリ仍テ各廳現金管守順序及委託順序ハ自ラ消滅セリ

府縣委託金ハ明治二十三年三月勅令第六十六號ヲ以テ之ヲ地方經濟ニ移セリ

府縣委託金ヲ地方經濟ニ移スノ件 勅令第六十六號 (明治二十三年三月二十七日)

第一條 從來府縣廳ニ存在スル府縣委託金及之ニ屬スル財產ハ明治二十三年三月三十一日ノ

現況ヲ以テ其府縣ノ地方經濟ニ下付スヘシ

第二條 府縣委託金ニ關シ從前府縣知事ニ於テ契約シタルモノハ其契約ヲ繼續シ從前府縣知
事ヨリ發シタル命令ハ之ヲ履行スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ內務大藏農商務三大臣ノ認許
ヲ經ルニ非サレハ之カ命令ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條 元金ハ務メテ之ヲ保存スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ內務大藏農商務三大臣ノ認許ヲ
經ルニ非サレハ之ヲ支消スルコトヲ得ス

第四條 元金ヨリ生スル利子ハ府縣會ノ議決ニ依リ公共ノ勸業費途ニ充用シ又ハ之ヲ蓄積ス
ルコトヲ得

第五條 府縣委託金中獻金又ハ寄附金ヨリ成立ツモノニシテ當初使用ノ途ヲ指定シタルモノ
ハ將來ト雖モ其使用ノ途ヲ變スルコトヲ得ス

第六條 府縣委託金ノ種類ハ大藏大臣之ヲ府縣ニ達スヘシ

第三款 收入

第一項 租稅收入

明治元年八月七日府藩縣ニ令シテ租稅ハ姑ク舊慣ニ依ラシム其令達ニ曰ク諸國稅法之儀其土風
ヲ篤ト不相辨新法相立候テハ却テ人情ニ戻リ候間先一兩年ハ舊慣ニ仍リ可申若苛法弊習又ハ無
餘儀事件等有之候ハ、一應會計官ヘ同之上處置可有之事ト後府縣ニ於テハ東京ニ出張所ヲ設ケ
テ常ニ官吏ヲ出張セシメ以テ地方中央兩官廳ノ聯絡ヲ謀レリ

後明治八年一月三十一日租税金納入順序ヲ定ムルニ及ヒ二月一日ヨリ東京出張所ヲ廢止シ人民ヨリ納付スル租税ハ府縣ヲシテ爲替又ハ現金ヲ以テ大藏省ニ納入セシムルコト、セリ今左ニ該規程ノ大要ヲ述ヘン(租税ノ徵之)

- 一 毎納期人民ヨリ徵收シタル租税タルト便宜ノ爲メ内納セシメシモノトヲ問ハス地方長官ハ爲替又ハ現金ヲ以テ之ヲ租税寮ニ上納スヘシ
- 二 租税金送納ノ際ハ爲替手形ヲ以テスルモ又現金ヲ以テスルモ一定ノ書式ニヨリ遲滞ナク之ヲ届出サル可カラス
- 三 現金ヲ遞送シ東京ニ到着シタル場合ニハ護衛官吏ハ直ニ該金ヲ第一國立銀行ニ預ケ同銀行ノ預リ證書ヲ以テ出納寮ヘ假納シ同寮ノ預リ證書ニ其府縣長官ノ納證書ヲ添ヘ之ヲ租税寮ヘ納入スヘシ而シテ大阪ニ回送シタル現金ニ就テハ同所第一國立銀行ノ預リ證書又ハ紙幣寮ノ預リ手形等ヲ以テ之ヲ東京ニ差立ツルコト、セリ
- 四 若シ土地ノ便宜ニヨリ爲替ヲ以テ租税金ヲ納ムルトキハ其地ノ爲替方ニ現金ヲ下付シテ爲替券ヲ受領シ之ニ添ユルニ其府縣長官ノ上納證書ヲ以テシ之ヲ東京ニ郵送ス
- 五 租税金ノ上納完了セハ現金進送ノ場合ハ領收證書ヲ護衛官吏ニ交付シ爲替ニヨル場合ハ之ヲ郵送ス

同年六月十五日租税金收納順序ヲ定メ收納ニ關スル順序手續及帳簿ノ記入方法等ヲ詳示ス蓋シ租税收入ノ方法未タ一定セス往々錯雜ヲ生スル虞アルヲ以テナリ

- 一 府縣ニ於テ租税金ヲ收納スルニハ先ツ上納者ヨリ上納證書ヲ差出サシメ主務員検査シテ

其金額ニ捺印シ收入簿及收入日計簿ニ登記シテ上納證書ヲ返付ス

- 二 上納者ハ證書ノ檢印ヲ受ケタル後租税金預リ人アル地方ニ於テハ現金ヲ預リ人ニ交付シテ預リ切符ト交換シ預リ人ナキ地方ニ於テハ現金兩替座等ノ檢封ヲ受ケ上納者モ亦封印シ検査終了ノ上納證書ヲ添ヘテ其廳ニ差出ス於此主務官ハ領收證書ヲ上納者ニ下付スルモノトス

- 三 地租米ノ正納ハ各村ノ上納場所ヲ決定シ主任官吏出張シテ之ヲ受領シ回漕米ハ船員ニ交付シ終リタル後領收證書ヲ各村ニ附與ス而シテ府縣預ケ米ニ充ツヘキ虞所納米ハ毎時領收證書ヲ各村ニ交付ス

明治十一年十二月二十八日國税金領收順序ヲ定メ國税納入ニ關スル手續ヲ規定セリ蓋シ是ヨリ先キ七月二十二日郡區町村編制法ヲ發布シ次テ府縣官職制ニヨリ郡區長ヲシテ徵稅並地方稅徵收及不納處分ノ事ヲ掌ラシムルコト、セシニ因ルナリ今其要領ヲ摘記セン

- 一 徵稅前ノ手續 郡區役所ニ於テ納稅切符ヲ製シ戶長ニ令達シ戶長ハ之ヲ各納稅人ニ達シ納付セシム
- 二 徵稅ノ機關 徵稅機關ノ主腦ハ郡區長ニシテ戶長ハ之ヲ補助シ此他尙ホ收稅委員及税金預リ人ナルモノアリ而シテ收稅委員ハ大藏省租稅局ヨリ各地方ニ派遣セラレ税金徵收ノ實況ヲ監視シ郡區長ノ徵收セル税金ヲ税金預リ人ノ預切符ニヨリ直チニ領收スルコトヲ掌リ税金預リ人ハ大藏省ニ於テ各地方適宜ノ場所ヲ擇ヒ税金預所ヲ設ケ其預リ人ヲ命スルモノニシテ戶長ニ於テ取纏メタル税金(現金)ヲ領收スルモノナリ

三 徵稅上ノ順序 戶長ハ其徵收シタル現金ヲ一次又ハ數次ニ税金預リ人ニ渡シ税金完納ノ上其預リ切符ヲ以テ郡區長ヘ納メ郡區長ハ其預リ切符ヲ收稅委員ニ交付シ領收證書ヲ得之ニ依テ決算ヲナスモノトス

明治十四年八月各地方ヘ大藏省租稅局出張所ヲ設ケ大藏省達ヲ以テ國税金領收順序ヲ更正シ收稅委員出張所ヲ廢止シタリ

次テ明治十七年六月十九日ニ至リ國税金領收順序ヲ廢シ更ニ國税金收納順序ナルモノヲ定メ租稅局出張所ニ代ユルニ收稅長ヲ以テセリ今其順序ノ大要ヲ述ヘン

一 收稅機關 (一)郡區長ハ收納ニ關スル主動的ノ機關ナリ戶長ニ向テ其所轄町村内ノ徵稅ヲ命シ徵收ノ後之ヲ收稅長ニ納致シ收稅長ハ之ヲ大藏省ニ納付スルモノトス而シテ戶長ヲ置カサル地方ニアリテハ郡區長自ラ税金ヲ徵收ス(二)戶長ハ郡區長ノ命令ニ依リテ各箇人ヨリ税金ヲ領收シ其現金ハ之ヲ國庫金取扱所又ハ大藏省爲替方ニ預ケ其預リ證書ヲ以テ郡區長ニ上納スルモノトス

二 收稅手續 郡區長ハ納稅期日十五日以前ニ甲乙接續セル納稅切符ヲ製シ一町村ノ納高ヲ記載シ以テ戶長ニ徵稅ヲ命ス戶長ハ其命令ニ依テ各人ヨリ税金ヲ徵收シ納稅切符ニ現金ヲ添ヘテ國庫金取扱所又ハ大藏省爲替方ヘ預ケ入レ乙號納稅切符ニ證印ヲ得之ニ依リテ郡區長ヘ上納スルモノトス

郡區長ハ戶長ヨリ上納セル甲乙納稅切符面ノ金額ト納稅元帳ヲ照查シ乙號ハ郡區役所ニ留メ甲號ハ之ヲ戶長ニ送付シテ以テ租稅皆納ノ證トナサシム一部ノ納付ニ係ルモノハ其時々

領收證書ヲ交付ス

郡區長ハ戶長ヨリ上納シタルモノヲ十日毎ニ取纏メ上納證書ヲ添ヘテ之ヲ收稅長ニ送付スヘク收稅長ハ之ニ對シ領收證書ヲ交付ス而シテ收稅長ハ各郡區長ヨリ送付シタルモノヲ十日毎ニ取纏メ上納證書其他ノ書類ヲ添ヘ主稅官長ニ納付スルモノトス是ニ至テ收納ノ手續全ク終了スルナリ

次テ八月三十日右國稅收納順序ニ屬スル郡區役所及戶長役場諸帳簿ノ書式ヲ定ムルト共ニ明治八年制定ノ租稅收納順序ヲ廢止セリ

明治十九年一月官制ノ大改革アリ從ツテ繁文縟禮ノ弊ヲ去リ冗費ヲ節約スルコトニ力メタルヲ以テ同年三月歲入歲出々納規則ヲ制定シ同月十八日更ニ歲入取扱順序ヲ設ケ租稅收納ノ方法ヲ定メタリ

此ノ如ク國稅徵收法規ハ從來一般歲入歲出ニ關スル規定中ニ網羅セラレタリシカ明治二十二年二月憲法ノ制定ト共ニ會計法ノ改正公布セラル、ヤ國稅徵收法モ亦獨立ノ一法規トシテ同年三月十三日法律第九號ヲ以テ發布セラル、ニ至レリ而シテ同法ハ三十年三月二十六日ニ至リ改正ヲ加ヘラレタル結果租稅收入ノ手續ハ一層完備スルヲ得タリ後三十五年三月ニ至リ更ニ其一部ヲ修正セラル今左ニ同法ノ要旨ヲ摘録セン

一 徵收機關 地租ハ當然ニ地租以外ノモノハ勅令ノ指定スルモノニ限り市町村之ヲ徵收スルモノトシ其事務ヲ全然市町村ノ公共事務トナスノミナラス之レカ徵收ニ付テモ責任ヲ負ハシム故ニ過誤怠慢ニ因リ徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スヘキハ勿論假設避ク可カ

ラサル變災ニ因ル場合ト雖モ大藏大臣ニ請願シ其決定ニ依テ始メテ辨償責任ヲ免除セラ
ルモノトセリ

二 徴收手續 前項已ニ略述シタルカ如ク徴收手續ハ市町村ヲ經由スルモノト之ヲ經由セサ
ルモノトノ二途アリ其市町村ヲ經由スルモノハ知事ヨリ市町村ニ對シ徴稅令書ヲ發シ市町
村長ハ各納稅人ニ徴稅傳令書ヲ交付ス其市町村ヲ經由セサルモノハ知事ヨリ直接ニ納稅人
ニ對シ徴稅令書ヲ發スルモノトス而シテ明治三十年改正法ニ於テハ收稅官吏又ハ市町村ヨ
リ金額納期及場所ヲ告知スルモノトセリ納稅人徴稅傳令書ヲ受クルトキハ稅金ヲ市町村收
入役ニ拂込ミ其領收證ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅義務ヲ了リ市町村長ハ收入役ノ受領シ
タル稅金ヲ金庫ニ拂込ミ其領收證ニ收入官吏ノ檢印ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス又直接ニ徴
稅令書ヲ受ケタルトキハ稅金ヲ金庫ニ拂込ミ其領收證ニ收入官吏ノ檢印ヲ得テ納稅義務ヲ
了ルモノトス而シテ徴稅傳令書及徴稅令書ハ明治三十年改正法ニヨリ之ヲ納稅告知書トス
納期日ヲ過キ稅金ヲ完納セサルモノハ滯納處分法ニ依リ之ヲ強徵ス

三 先取特權 納稅義務ノ既ニ確定シタル國稅ニ付テハ納稅人カ他ノ公課ニヨリテ滯納處分
ヲ受ケ又他ノ債務ニヨリ強制執行若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ニ至
ラサルモ他ノ債權ニ先チテ之ヲ徴收スルヲ得但國稅ノ納期前一箇年ニ於テ設定シタル質權
及抵當權ノ目的物ニ對シテハ先取權ヲ行フヲ得サルモノトス而シテ明治三十年ノ改正法ニ
ヨレハ此等權利ノ設定ハ公正證書ニヨリ之ヲ證明セサル可カラス

四 時効 國稅ニ關シテハ一般納金ニ比シテ特別ナル短期消滅時効ヲ定メ徴稅令書若クハ徴

稅傳令書ヲ發行セサルトキハ納期限ノ翌日ヨリ起算シ三年ニシテ納稅義務ヲ免カル、モノ
トス一般納金ニ付テハ五年トス

時効ノ進行ハ徴稅令書又ハ徴稅傳令書ノ發布ヲ以テ之ヲ中斷スルモノトス而シテ凡ソ時効
ヲ中斷シタル後ニ於テハ新ニ時効期間ヲ起算スヘキモノナルカ故ニ時トシテハ幾十年ノ長
キニ至ルモ尙ホ義務ヲ免除セラレサル事アルヘシ之レ短期時効ヲ定メタル主旨ニ戻ルヲ以
テ其中斷前後ノ日數ヲ通算シ五年ヲ過クルトキハ假令復タ中斷アリタルニ拘ハラズ納稅人
ハ時効ノ利益ヲ受クルコト、セリ

三十年改正法ニ依レハ時効ニ關スル總テノ規則ヲ削除セリ是レ會計法ニ於ケル一般規程ニ
準據スルノ主旨ニ出ツルナリ

尙租稅收納ニ關シテハ租稅ノ部ニ詳説スヘキヲ以テ茲ニハ其大要ヲ示シタルノミ

第二項 稅外收入

第一 諸收入

稅外收入ニ就テハ一般租稅及返納金等ト同シク從來各管轄廳ニ於テ之ヲ銀行ニ寄託シ其預リ手
形ヲ得テ之ヲ管守シ追テ本納ノ手續ヲ終ルノ制度ナリシモ明治七年十二月二十日ニ至リ假納順
序ヲ定メ管轄廳ハ銀行預リ手形ニ副書シテ直ニ出納寮ニ假納シ尋テ本納ノ順序ヲ履行セシメタ
ルカ降テ明治十二年五月七日ニ及ヒ國稅金領收順序ニ準據シテ之ヲ納付ス可キモノトシ更ニ明
治十四年九月十六日其上納順序ヲ改正シ納者ハ納金證書ニ現金ヲ添ヘテ大藏省爲替方ニ寄託シ

其領收證書ヲ得テ管轄廳へ納付シ管轄廳ハ該證書ニ納付證書ヲ添ヘテ直ニ本納ノ手續ヲナスモノトセシコトハ既ニ金錢出納ノ項ニ於テ述フルカ如シ

次テ明治十五年六月三十日雜收入金上納順序ヲ定メ雜收入ヲ分テ經常及臨時ノ二種トシ納人ハ納金證書ニ現金ヲ添ヘテ大藏省爲替方へ預入レ其證印ヲ得テ府縣廳又ハ郡區役所ニ納付スヘキモノトシ郡區長ハ該納金證書ヲ取纏メ府縣廳ニ送付シ府縣廳ハ郡區長若クハ納人ヨリ上納セシ納金證書ヲ收束シ上納證書ヲ添ヘテ大藏省ニ送付スルモノトセリ

大藏省達第二十一號 (明治十五年六月三十日)

府

縣

雜收入金上納順序ノ儀十五年度分以降別紙ノ通改定候條此旨相達候事

(別紙) 雜收入金上納順序

- 一 雜收入ハ森林收入、官有物貸下料、開港市場官地貸下料ヲ以經常雜收入トシ官有物拂下代雜入ヲ以臨時雜收入トス
- 一 納人ハ第一號書式ノ納金證書ニ現金ヲ添ヘ大藏省爲替方エ預ケ入其領收ノ證印ヲ得テ府縣廳(本人ヨリ直ニ府縣廳ニ納付スルモノトス)若クハ郡區役所(郡區役所ノ分)エ上納スルモノトス
- 一 郡區長ハ納人ヨリ上納セシ納金證書ヲ一句日毎ニ取纏メ遅クモ三日以内ニ之ヲ送納スヘシ
- 一 府縣廳ハ郡區長若クハ上納人ヨリ上納セシ納金證書ヲ一箇月毎ニ取纏メ第二號第三號書式ノ上納證書ヲ添ヘ之ヲ大藏省エ送付スヘシ
- 一 府縣廳ハ納金證書ヲ大藏省エ送付以前過納ヲ發見シタルトキハ其現金預ケ入ノ月日納入

ノ姓名等ヲ爲替方へ通知シ納金證書ハ納人ニ下戻スヘシ納人ハ該證書ヲ爲替方エ持參シテ現金ヲ受取モノトス

- 一 納金證書大藏省エ送付ノ後過納ヲ發見シタルトキハ其科目金員及ヒ出納局領收證書番號(本納未済ニ係ルモノ)ヲ詳記シ且過納ノ事由ヲ具シテ下戻方ヲ請求スヘシ
- 一 該年度所屬ノ收入金ハ無遺漏蒐輯シ第四號書式ノ上納明細書ヲ製シ翌年度八月三十一日限其地ヲ發シ大藏省エ差出スヘシ但事故アリテ該年度中上納ニ至ラサルモノアルトキハ其事由ヲ具シ未納明細書(第四號書式ニ準ス)ヲ添ヘ差出スヘシ

(書式略ス)

同日大藏省達第二十二號ヲ以テ各支廳及府縣ヨリ國庫ニ納入スヘキ雜收入其他諸返納等ノ金錢ニシテ一旦其主管廳ヲ經由スヘキモノト雖モ本省ニ直納スヘキ稅外金ト同ク直ニ出納本支局若クハ大藏省爲替方ニ假納シ其領收證書ヲ以テ主管廳ニ送納シ主管廳ニ於テ本納ノ順序ヲナスモノトス

後明治十九年三月歳入歳出々納規則ヲ定メ歳入ニ係ル現金ノ收納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳ノ收支命令官ハ其徵收ヲ監督シ現金ハ直ニ金庫ニ收納スルモノトシ次テ歳入取扱順序ヲ以テ歳入ニ關スル取扱手續ヲ規定スルニ及ヒ前述ノ雜收入ノ上納手續ハ自ラ消滅セリ次テ明治二十年二月會計法ヲ改正シ出納制度ノ整頓ヲ計ルヤ諸收入ノ收納ニ關スル規程ヲ設ケ以テ之ヲ取扱手續ヲ明ニセリ

明治二十二年十一月大藏省訓令第六十六號ヲ以テ諸收入收納取扱順序ヲ規定セラレシカ更ニ同

二十六年十一月訓令第四十二號ヲ以テ諸收入收納取扱規程ヲ設ケテ其手續ヲ改定セラレタリ然レトモ其大體ノ手續ニ付テハ敢テ格別ノ差異アルヲ見ス而シテ此規程ニ依レハ地方長官ハ稅外金ヲ收納スルモノニシテ即チ地方長官ニ於テ收納スルモノハ凡テ納入告知書ヲ發スルヲ本則トシ其事務ハ之ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得而シテ納入ハ其告知書ニ從ヒ金庫又ハ收入官吏ニ現金ヲ納入ス可シ但現金ヲ收入官吏ニ即納セシムル場合ニハ告知書ヲ發セサルナリ

收入官吏又ハ金庫ハ納入告知書ニ照シテ現金ヲ收納シ領收證ヲ交付スヘク而シテ收入官吏ハ更ニ現金拂込書ヲ製シ現金ヲ金庫ニ送付スヘシ但監守證ヲ以テ手續ヲナスコトヲ得ルナリ

後明治三十三年四月ニ至リ大藏省訓令第二十七號ヲ以テ該規程ヲ改正シ稅關及稅務管理局ニ於ケル收入ニ就キテモ亦之ニ準據セシメ又收入官吏ハ毎月現金拂込仕譯書ヲ調製シ各廳長官ニ報告シ各廳長官ハ更ニ徵收簿ニヨリ徵收報告書ヲ調製シ大藏省ヘ送付スヘキモノトシ其他北海道支廳長ハ各廳長官ト同一ノ取扱ヲナスノ特例ヲ設ケタリ

諸收入收納取扱順序 (明治二十二年十一月十六號)

北海道廳 府 縣

- 第一條 北海道廳及府縣廳ハ此順序ニ據リ各省ノ管理ニ屬セサル租稅外ノ諸收入ノ收納ヲ取扱フヘシ
- 第二條 各省ノ管理ニ屬セサル租稅外ノ諸收入ハ率ホ左ノ如シ
 - 第一 免許料ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分
 - 第二 手数料ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分
 - 第三 囚徒工錢收入(北海道及府縣監獄ノ分)

第四 官有物貸下代及拂下代北海道廳府縣ニ於テ貸下拂下ヲナシタル分)

第五 懲罰及沒收金ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

第六 辨償金ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

第七 雜入ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

右ノ外各省大臣ノ命令ニ依ラス北海道廳府縣ニ於テ直ニ收入ヲ執行スルモノ

第三條 北海道廳長官府縣知事ハ諸收入ヲ調定シ各納入ニ對シ本訓令附屬書式ノ納入告知書ヲ發シ各納入ヲシテ現金ヲ收入官吏又ハ金庫ニ納付セシムヘシ但現金ヲ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發セサルモ妨ケナシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ島司郡長警察署長典獄若クハ收稅部出張所長ニ委任シテ前條ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第五條 北海道廳長官府縣知事ノ委任ヲ受ケ諸收入ヲ調定シタル官吏ハ納入告知書ヲ發シタルモノト發セサルモノト區分ヲナシ毎半月分ノ調定濟報告書ヲ調製シ毎月十六日及翌月一日ニ之ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ但島司ノ管理區域内ニ於テハ本文ノ報告書ヲ島司ニ送付スヘシ

第六條 北海道廳長官府縣知事又ハ島司ハ前條ノ報告ヲ受クルトキハ歲入簿調定濟ノ欄ニ之ヲ登記スヘシ

第七條 納入告知書ハ收入官吏ニ送付シ收入官吏ヲシテ納入ニ交付セシムヘシ

第八條 收入官吏ハ納入告知書ノ送付ヲ受ルトキハ明治二十二年大藏省第十一號第十四號書

式ノ收入簿調定済ノ欄ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納入ニ送付スヘシ但第三條但書ノ場合ニ於テハ其領收スヘキ金額ノ確定セントキ收入簿調定済ノ欄ニ其金額ヲ登記スヘシ

第九條 納入告知書ハ納入ヲシテ納金ト共ニ持參セシメ收入官吏又ハ金庫ニ於テ納入告知書ニ照シテ現金ヲ收納シ收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號第二號書式ノ領收證ヲ發シ金庫ハ本訓令附屬書式ノ領收證ヲ發スヘシ

第十條 納入ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシメタルトキハ收入官吏ハ會計規則第二十九條ニ據リ金庫ノ發シタル領收證ヲ檢シ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號書式ノ收入簿ニ收入簿ノ記入ヲ爲シ領收證書式ノ場所ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納入ニ返付スヘシ

第十一條 收入官吏現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號書式ノ收入簿ニ收入簿ニ記入ヲナシ同第三號書式ノ現金拂込書ヲ製シ現金ニ添へ出納官吏現金取扱規則第十五條若クハ第十六條ニ定メタル期限ニ之ヲ金庫ニ送付スヘシ但出納官吏現金取扱規則第十七條ニ據リ監視證ヲ以テ拂込ノ手續ヲナス場合ニ於テハ拂込書ヲ要セス大藏大臣へ報告済ノ旨ヲ記シタル送付書送付書ノ式ハ適宜ヲ監視證ニ添へテ金庫ニ送付スヘシ

第十二條 收入官吏其拂込書ニ對シテ金庫ヨリ領收證ヲ得ルトキハ三日以内月末ノ分ハ翌月一日ニ北海道廳長官府縣知事ニ之ヲ送付スヘシ但島司ノ管理區域内ニ於テハ本文領收證ヲ島司ニ送付スヘシ

第十三條 北海道廳長官及府縣知事又ハ島司ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之ニ登記シ領收證式ノ場所ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ收入官吏ニ返

付スヘシ

第十四條 島司ニ於テ收入官吏ノ送付シタル領收證ヲ檢スルトキハ毎月其檢定報告書ヲ製シ翌月七日迄ニ之ヲ府縣知事ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏ノ毎月收入報告書ニハ左ノ書類ヲ添へ翌月七日マテニ之ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ但島司ノ管理區域内ニ於テハ本文ノ報告ヲ島司ニ還付スヘシ

第一 納入告知書ノ金額納期日細別表

第二 收入金月計對照表

第三 缺損金明細表

第四 納期日後未納收入事由明細書

右ノ外北海道廳長官府縣知事ニ於テ必要ト見認ムルモノ

第十六條 島司ニ於テ前條報告書ノ送付ヲ受クルトキハ三日以内ニ之ヲ取纏メ明治二十二年大藏省令第十一號第五號書式ノ毎月收入總報告書式ニ準シ集計表ヲ製シ該報告書及月計對照表ト共ニ之ヲ府縣知事ニ送付スヘシ但送付スヘキ報告書一通ニ過キサルトキハ集計表ヲ要セス該報告書ニ添書シテ送付スヘシ

第十七條 北海道廳長官府縣知事ハ收入官吏ノ收入報告書ヲ取纏メ明治二十二年大藏省令第十一號第五號書式ニ準シ毎月收入總報告書ヲ製シ左ノ書類ト共ニ之ヲ大藏省へ送付スヘシ

第一 收入官吏ノ毎月收入報告書

第二 島司ノ集計表

第三 收入金月計對照表

右ノ外調査上必要トスルトキハ其都度大藏省主任官ヨリ書類ノ送付ヲ請求スルコトアルヘシ

第十八條 北海道廳長官府縣知事島司ハ明治二十二年大藏省令第十一號第十五號書式ニ準シタル歳入簿ヲ備フヘシ

第十九條 北海道廳長官府縣知事島司ノ備フヘキ諸收入調定元帳收入檢定簿收入未済金缺損金過誤納拂戻金整理簿其他收入事務整理上必要ナル帳簿ハ便宜ノ式ニ依テ設置スヘシ

第二十條 本訓令ニ據リ調製スヘキ調定濟報告書納入告知書ノ金額納期日細別表缺損金明細書納期日後未納收入事由明細書ノ書式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

諸收入收納取扱順序中加除改正

一 明治二十三年六月二十一日大藏省訓令第六六號

第六號 刪除

第十七條中「總報告書」ノ四字ヲ「集計表」ノ三字ニ改メ「製シ」ノ下左ノ書類ノ上ニ翌月十五日マテニ「ノ」八字ヲ加フ

二 同年十二月十七日同省訓令第五百五十四號

第十一條中大藏大臣ヘ報告濟ノ旨ヲ記シタルノ十五字ヲ削除ス

三 明治二十四年三月二十六日大藏省訓令第二十二號(明治二十四年四月一日ヨリ施行)

第一條第二條ヲ左ノ通改正ス

第一條 他省ノ管理ニ屬サル租稅外ノ諸收入ハ總テ大藏省主管トシ此類ノ取扱フヘシ

第二條 大藏省主管ニ屬スル租稅外諸收入ハ率ト左ノ如シ

免許料、手数料、官有物貸下料、懲罰及沒收金、辨償金、雜入、官吏遺族扶助法納金、官有物拂下代返納金等ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ依ル租稅外ノ歳入

右ノ外各省大臣ノ命令ニ依ラズ北海道廳府縣ニ於テ直ニ收入ヲ執行スルモ

第四條ヲ左ノ通り改正ス

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ島司郡長區長(札幌函館典獄警察署長直稅分署々長間稅分署長ニ委任シテ前條ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七條ヲ第六條トシ、第八條ノ第七條、第九條ヲ第八條、第十條ヲ第九條トス

第十一條ヲ第十條トシ送付書ノ下(送付書ノ式ハ適宜)ノ八字ヲ削除シ(送付書ニハ監守證ノ金紙毎ニ送付書一葉ヲ送付シ送付ノ割注ヲ加フ

第十二條ヲ第十一條トシ但書ヲ委任ヲ受ケタル調定官ニ係ル分ハ其調定官ニ送付スヘシト改

第十三條ヲ第十二條トシ島司ノ二字ヲ削除シ委任ヲ受ケタル調定官ノ十字ヲ加フ

第十四條ヲ第十三條トシ島司ノ二字ヲ削除シ委任ヲ受ケタル調定官ノ十字ヲ加フ

第十五條ヲ第十四條トシ但書ヲ委任ヲ受ケタル調定官ニ係ル分ハ其調定官ニ送付スヘシト改

- 第十六條ヲ删除シ左ノ十五條ヲ置ク
 - 第十五條 委任ヲ受ケタル調定官ニ於テ前條報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ之ヲ取纏メ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ
 - 第十七條ヲ第十六條トシ第二島司ノ集計表ノ八字ヲ删除シ第三ヲ第二トス
 - 第十八條ヲ第十七條トシ知事ノ下島司ノ二字ヲ删除ス
 - 第十九條ヲ第十八條トシ知事ノ下島司ノ二字ヲ删除シ若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ十四字ヲ挿入ス
 - 第二十條ヲ第十九條トス末尾ニ左ノ一條ヲ置ク
 - 第二十條 第十四條ノ收入報告書第十六條ノ集計表ハ本月分ニ異動ナク單ニ前月迄累計額ノミニ係ルトキハ提出ニ及ハス其旨ヲ報告スヘシ
 - 四・同年六月三十日同省訓令第五十五號
 - 第五條但書 削除
 - 五 明治二十五年十二月二日同省訓令第四十三號
 - 第五條中區分ヲナシ毎ノ下半ノ一字並ニ調製シノ下半月十六日及ノ六字ヲ删除ス
- 警視廳 北海道廳
府 縣 收入官吏
- 大藏省訓令第四十二號 (明治二十六年十一月二十九日)
- 明治二十二年大藏省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

諸收入收納取扱規程

- 第一條 警視廳北海道廳及府縣ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシ此規程ニ依リ取扱フヘシ
- 第二條 各長官ハ諸收入調定元帳ヲ備ヘ該收入ヲ調定シ特別ノ規程アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ甲號又ハ乙號書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但納人ヲシテ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス
- 第三條 各廳長官ハ島司郡長區長(札幌)役所長官立學校長典獄警察署長收稅部長收稅署長ニ委任シテ前條ノ事務及諸收入收納ノ監督ヲ分掌セシムルコトヲ得(明治三十一年大藏省訓令第
下北海道廳鐵道書記
各職主席者ヲ追加ス)
- 第四條 各廳長官前條ノ委任ヲ爲シタルトキハ其調定官ヲシテ諸收入調定元帳ニ據リ調定額報告書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ各廳長官ノ定ムルトコロノ期限ニ之ヲ各廳長官ニ送付セシムヘシ
- 第五條 納入告知書ハ收入官吏ニ送付シ之ヲ納人ニ交付セシムヘシ但第二條但書ノ場合ニ於テハ其納額ヲ收入官吏ニ通知スヘシ
- 第六條 收入官吏ハ前條ノ送付又ハ通知ヲ受ケタルトキハ收入簿調定濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納人ニ交付スヘシ
- 第七條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ
- 第八條 收入官吏ハ納金ヲ其納期限内ニ完納セサルモノアルトキハ直ニ督促ノ手續ヲナスヘシ

シ
前項督促スルモ尙ホ完納セサルカ又ハ猶豫等ヲ申出テ之ヲ納付スルノ資力ナシト認ムルモ
ノアルトキハ其身代ノ實況ヲ取調ヘ各廳長官ニ報告スヘシ但委任ヲ受ケタル調定官ノ調定
ニ係ルモノハ其調定官ヲ經由スルコトヲ要ス

第九條 各廳長官ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 收入官吏ニ於テ第七條ノ納付ヲ受ケタルトキハ納入告知書及收入簿ニ照シテ之ヲ領
收シ其領收證ヲ納人ニ交付スヘシ收入官吏ニ於テ第二條但書ノ納金ヲ收入スルトキハ收入
簿ニ照シテ之ヲ領收シ明治二十六年大藏省令第三十二號第二號書式ノ領收證ヲ納人ニ交付
スヘシ

第十一條 收入官吏ニ於テ前條納金ヲ領收シタルトキハ收入簿收入濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登
記シ出納官吏現金取扱規則第十五條乃至第十七條ニ依リ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但監守證ヲ
以テ拂込ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ拂込書ヲ要セス監守證ノ番號金額ヲ記載シタル送付書
ヲ添ヘテ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十二條 收入官吏ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ之
ヲ調査シ收入簿收入濟額ノ欄内ニ其金額ヲ登記スヘシ
監督官ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ諸收入調定元
帳ニ照シテ之ヲ調査スヘシ

第十三條 分任收入官吏ハ收入簿ニ依リ明治二十六年大藏省令第三十二號第四號書式ニ準シ

收入報告書ヲ調製シ歲入金突合表其他參照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ其地ヲ差立調定官ヲ
經テ之ヲ主任收入官吏ニ送付スヘシ

第十四條 主任收入官吏ハ分任收入官吏ノ收入報告書ヲ受ケタルトキハ參照書類ト照查シテ
之ヲ收入簿ニ登記シ該金額及自己ノ取扱ニ係ル分ヲ併セ收入報告書ヲ調製シ歲入金月計對
照表ヲ添ヘ各廳長官ヲ經テ翌月十五日マテニ其地差立テ大藏省ニ送付スヘシ

第十五條 會計規則第九十五條又ハ第九十七條ニ依リ收入官吏ヨリ計算書ヲ大藏省ニ提出セ
ントスルトキハ各廳長官ニ於テ收入計算書ハ收入官吏ノ收入簿現金出納計算書ハ收入官吏
ノ現金出納簿ト對照調査シ其符合ヲ認メタル保證書ヲ製シ之ヲ計算書ニ添付スヘシ(明治二
三月訓令第十四號ヲ以テ其符合ノ次
ニ及拂込未済現存額ノ八字ヲ加フ)

第十六條 各廳長官ハ諸收入調定元帳又ハ第四條ノ報告書ニ據リ歲入調定額計算書ヲ調製シ
會計規則第五十二條ニ據リ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第十七條 諸收入調定元帳及調定額報告書其他調定官ニ於テ事務整理上必要ナル帳簿ハ適宜
ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

大藏省訓令第二十七號 (明治三十三年
四月六日)

警視廳 北海道廳 府縣稅關 稅務管理局

明治二十六年大藏省訓令第四十二號諸收入納取扱規程左ノ通り改正シ明治三十三年度ヨリ施
行ス

明治三十三年四月六日

大藏大臣伯爵 松方正義

諸收入收納取扱規程

- 第一條 警視廳北海道廳府縣稅關及稅務管理局ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ取扱フヘシ
 - 第二條 各廳長官ハ諸收入ヲ徵收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ別記書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但納人ヲシテ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス
 - 第三條 各廳長官ハ其所屬部署長官立學校長及北海道廳所管鐵道各驛主席官吏ニ委任シテ諸收入收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
 - 第四條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ
 - 第五條 各廳長官ハ納金ヲ其期限内ニ納付セサル者アルトキハ直チニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 第六條 收入官吏ハ毎月現金拂込仕譯書ヲ調製シ各廳長官ニ報告スヘシ
 - 第七條 各廳長官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歲入金月計對照表ヲ添へ翌月十五日マテニ大藏省ヘ送付スヘシ
 - 第八條 諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之レヲ定ムヘシ
 - 第九條 本規程中各廳長官ニ關スル規程ハ北海道支廳長ニ準用ス
- 北海道支廳長ノ提出スル徵收報告書ハ北海道廳ヲ經由スヘシ
- 北海道廳長官前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ大藏省

ニ送付スヘシ(明治三十四年大藏省訓令第)

(別記書式略ス)

一 明治三十三年五月十日 大藏省訓令第六十二號

第一條 左ノ但書ヲ加フ

但北海道廳沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ屬スルモノヲ除クノ外監獄ノ收入ハ此限ニ在ラス

二 明治三十四年四月一日 同省訓令第十二號

第一條但書中北海道廳沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ屬スルモノヲ除クノ外ヲ削除シ明治三十四年度ヨリ施行ス

三 同年六月四日 同省訓令第二十號

第九條ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

四 明治三十五年五月十一日 同省訓令第四十六號

第一條中及稅務管理局ヲ稅務監督局及稅務署ニ改ム

第七條 各廳長官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歲入金月計對照表ヲ添へ稅務署長ハ翌月五日迄ニ其ノ他ハ翌月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

稅務監督局前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シ集計書ヲ添付シ其月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

第二 官吏遺族扶助法納金

明治二十三年六月法律第四十四號ヲ以テ官吏遺族扶助法ヲ發布シ文官判任以上ノ者在官十五年以上ニシテ在官中死去シタルトキ又ハ在官十五年ニ滿タスト雖モ公務ノ爲メ死去シタルトキ若クハ恩給ヲ受クルニ至リテ後死去シタルトキハ其遺族ハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノトシ此ニ於テ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納メシムルコト、セリ仍テ同年七月勅令第百二十五號ヲ以テ官吏遺族扶助法納金收入規則ヲ定メ次テ大藏省訓令第百十三號ヲ以テ官吏遺族扶助法納金ニ關スル取扱順序ヲ設ケタリ即チ官吏遺族扶助法ニ據テ國庫へ收納スヘキモノハ別ニ納金ヲナサシメス金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルニ當リ其納金高ヲ控除シ殘額ヲ受取人へ交付シ而シテ金庫ニ於テハ其控除高ヲ普通仕拂ノ順序ニ從ヒ一旦之ヲ拂出シ直ニ之ヲ相當年度ノ歳入ニ振換ヘ報告書ヲ製シ收入官吏へ送付スヘキモノトセリ尤モ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ在テハ控除金ヲ其應ノ收入官吏ニ拂込ミ收入官吏ハ金庫へ拂込ミノ手續ヲナスヘキモノトス

其他府縣立師範學校及公立學校職員退職料及遺族扶助料法納金ニ關シテハ明治二十五年一月勅令第五號及大藏省訓令第三號ヲ以テ之カ收入手續ヲ定ムル所アリタリ

官吏遺族扶助法納金收入規則 (明治二十三年七月十二日勅令第百二十五號)

第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ

郡書記ノ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ郡役所會計吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ(明治三十二年勅令第百六十號ヲ以テ追加)

第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ收入官吏ヨリ金庫へノ拂込ニ移シテ計算シ

直ニ報告書ヲ作り收入官吏ニ送付スヘシ(明治三十三年勅令第百五十號ヲ以テ次項ノ如ク改正)

前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏及郡役所會計吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ(明治三十二年勅令第百六十號ヲ以テ追加)

第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ

免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納人ニ於テ差引スヘシ

(參照)

明治二十三年法律第四十四號第二條文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

同取扱順序 (二十三年七月十八日大藏省訓令第百十三號)

北海道廳 府 金庫出納 縣 役

第一條 會計主務官ニ於テ本年大藏省令第十七號ヲ以テ規定シタル書式ノ支拂命令仕拂請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調定シ其集合仕拂命令集合仕拂請求書又ハ金庫所在地外へ送金ヲ要スル裏書アル仕拂命令仕拂請求書ニ對シテハ第一號書式ノ領收證書用紙ニ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ受取人へ交付スヘシ但シ此場合ニ於ケル手續ハ本年大藏省訓令第十八號第二十三條ニ同シ

第二條 金庫ニ於テ仕拂命令仕拂請求書ヲ受ケ現金ノ支拂ヲ執行スルトキハ該仕拂命令仕拂請求書金額ノ内譯ニ列記シタル(集合仕拂命令集合仕拂請求書ニ附屬スル金額氏名表)中(國庫請求書金額ノ内譯ニ列記シタル)者へ交付スルトキハ即チ該氏名表金額ノ内譯ニ因ル(國庫

豫納金引去高ヲ控除シ現金支給高ヲ受取人へ交付スヘシ
 右控除ノ國庫豫納金引去高ハ普通仕拂ノ順序ニ因リ一旦之ヲ拂出シ直ニ之ヲ相當年度ノ歳入ニ振換納付ヲナスヘシ
 金庫出納事務規程第十五條ノ送金ヲナス場合ト雖モ國庫豫納金引去高ハ前項ノ順序ニ據ルモノトス

第三條 金庫ニ於テ前條ノ國庫豫納金引去高ヲ歳入金ニ振換納付シタルトキハ即日第二號書式ノ國庫豫納金引去高收入報告書ヲ調製シ收入官吏へ送付スヘシ

第四條 收入官吏ニ於テ歳入ノ調定官ヨリ官吏遺族扶助法ニ據リ收入スヘキ金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ收入簿調定濟額ノ欄内へ其金額ヲ登記スヘシ

第五條 收入官吏ニ於テ第三條ノ國庫納金引去高收入報告書ヲ受ケタルトキハ收入簿收入濟額ノ欄内へ其金額ヲ登記スヘシ

第六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給支拂ノトキ官吏ノ納金額ヲ差引徴收シタルトキハ第三號書式ノ納金額表ヲ添へ之ヲ其廳ニ於テ普通ノ諸收入ヲ收入スル官吏ニ拂込ヘシ

第七條 前條ノ拂込ヲ受ケタル收入官吏ハ其拂込ヲナシタル收入官吏ニ現金ノ領收證書ヲ交付シ收入簿現金出納簿ノ登記及金庫へ拂込ノ手續ヲナスヘシ

第八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ第六條ノ場合ニ於テハ現金ヲ領收スル收入官吏トシテ總テ其規定ニ依ルモノトス但會計規則第三章ニ定メタル收入報告書ヲ差出スニ及ハス

(書式ハ略ス)

同取扱順序中加除改正

一 明治二十六年^{二十}二月^{十二}日大藏省訓令第六十八號

第一條削除

第二條第一項中「金庫ニ於テ」トアル下ニ「明治二十三年大藏省令第十七號ヲ以テ規定シタル書式ノ」二十五字ヲ加ヘ第三項中「第十五條」トアルヲ「第十八條」ト改ム

第一號書式削除

二 明治三十一年^{二十}四月^{十四}日同省訓令第七十四號

第二號書式左ノ通改正シ左ノ條項ヲ加フ

第二號書式(略ス)

第九條金庫ニ於テ歳入金ニ振換未済ノ國庫納金引去高ハ毎月末ニ第四號書式ノ國庫納金引去高未済報告表ヲ調製シ收入官吏へ送付スヘシ

(書式略ス)

三 明治三十二年^{二十}五月^{十五日}同省訓令第十四號

第六條中「現金前渡ヲ受ケタル官吏」ノ下ニ「及郡役所會計吏」ノ七字ヲ加フ

四 明治三十三年^{十八}日^{十八}日同省訓令第三十八號

第二條第二項金庫出納事務規程第十八條ノ下「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要シ又ハ」ノ十九字ヲ挿入ス

第三條第五條中「收入官吏」トアルヲ「歳入徴收官」ニ又第五條中「收入簿」トアルヲ「徴收簿」ニ改ム

第四條ヲ削除ス

第七條中「收入簿」三字ヲ削ル

第八條但書ヲ削除ス

第二號書式中「收入官吏」トアルヲ「歳入徴收官」ニ改ム

五 同年四月二日同省訓令第三十九號

第九條及附屬第四號書式中「收入官吏」トアルヲ「歳入徴收官」ニ改ム

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則 (勅令 第二十五號 第一項 第五日)

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則ニ依リ收納スヘシ

公立中學校長並府縣立師範學校公立中學校ノ正教員舎監書記ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ之ヲ差引スヘシ (明治三十二年勅令第九十九號ヲ以テ府縣立師範學校正教員及公立中學校長正教員ヲ公立中學校長並立師範學校正)

第二條 前條第二項ニ依リ差引シタル金員ハ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ヨリ每翌月十日マテニ仕譯書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十六條第二項ニ依リ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ每四年月十日及十月十日マテニ其前六箇月分ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

庫ニ拂込ムヘシ

(參照法律第九十一號府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法)

第十六條 府縣立師範學校及公立學校長正教員ハ其俸給百分ノ一ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

府縣郡市町村ハ其府縣立師範學校公立中學校長正教員ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

大藏省訓令第三號 (明治二十五年一月二十六日)

北海道 廳 府 縣

明治二十五年一月十一日勅令第五號府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及扶助料法納金收入規則第一條第二項及第三條ノ收入金ハ大藏省主管トシテ左ノ通取扱フヘシ (明治二十五年大藏省訓令第三十三號ヲ以テ收入規則ノ九字挿入)

明治二十二年十一月大藏省訓令第六十六號諸收入收納順序ニ據リ整理スヘシ

但第三條ノ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ分ハ納入告知書ヲ發シ金庫ヘ拂込マシムヘシ (收入收納順序改正現行明治三十三年四月大藏省訓令第二十七號諸收入收納取扱規程)

二十六年度豫算ノ儀ハ明治二十五年年度科目表中歳入經常部雜收入ノ款官吏遺族扶助法納金ノ次位ニ學校長正教員退隱及遺族扶助料法納金ノ一項府縣立師範學校並公立學校長正教員退隱及遺族扶助料法納金ノ一目新設シ調製スヘシ

第三 製艦費納金

明治二十六年二月勅令第五號ニ依リ文武官及雇員ノ俸給十分ノ一ヲ製艦費トシテ納付セシムルコト、シ同年三月大藏省令第三號ヲ以テ製艦費納金收入規程ナルモノヲ定メラレタリ即チ此納

金モ亦俸給仕拂ノ時ニ領收スヘギモノトシテ而シテ金庫ニ於テ之ヲ領收シ了レハ收入官吏ノ計算ニ移シ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ徵收シタル場合ハ收入官吏トシテ收入ヲ取扱フ可キモノトセリ

朕國家軍防ノ必要ヲ認メ文武官及雇員ノ俸給中ヨリ製艦費ノ補足ニ充テシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第五號 (明治二十六年二月十五日)

第一條 文武官及雇員俸給ハ本令施行ノ日ヨリ六箇年間其ノ十分ノ一ヲ國庫ニ納付セシム但納付ノ手續ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 左ニ掲クル者ハ前條ヲ適用セス

一 外國在勤ノ命ヲ受ケタル公使公使館參事官同書記官交際官試補公使館書記生領事領事官書記生外交事務官貿易事務官公使館附武官並雇員

二 陸海軍屯田兵憲兵ノ下士卒並巡查看守(明治二十七年勅令第百十六號ヲ以テ陸海軍ノ上年勅令第七十一號ヲ以テ本號ヲ改メテ大尉同相當官以下ノ武官並俸給月額六十圓以下ヲ受ケル文官准官吏及雇員トス)

三 國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏並準官吏

四 雜給ヲ以テ支辨スル雇員

第三條 本令ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

製艦費納金收入規程 (大藏省令第三號)

第一條 製艦費納金ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ領收スヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏

ニ於テ俸給ノ支拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ徵收スヘシ

第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ領收シタル金員ハ收入官吏ノ計算ニ移シ直ニ報告書ヲ作り之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ納金ヲ徵收シタルトキハ現金ヲ領收スル收入官吏トシテ其收入ヲ取扱フヘシ

前項ノ場合ニ於テ他ニ普通ノ諸收入ヲ收入スル收入官吏アルトキハ納金額表ヲ添ヘテ其納金ヲ該收入官吏ニ送付スヘシ

第三條 製艦費納金ニ係ル俸給支給ノ支拂命令仕拂請求書及金額氏名表ハ明治二十三年當省令第十七號書式ニ準シ製艦費納金引去高トシテ整理スヘシ但官吏遺族扶助法納金アルモノハ其國庫納金引去高ノ次位ニ製艦費納金引去高ノ項ヲ設ケテ整理スルモノトス

第四條 製艦費納金ノ過誤納ハ次期ノ俸給支給ノ際之ヲ整理スヘシ

轉任ニ依リ前任應ニ納付セシ製艦費納金ノ過納トナリタルトキハ前任應ニ於テ該過納金下戻ノ手續ヲナス後任應モ亦俸給支給ノ際重テ該納金ヲ徵收セサルモノトス

轉任ニ依リ増俸トナリタルトキハ後任應ニ於テ俸給支給ノ際増俸部分ニ對スル製艦費納金ヲ徵收シ減俸トナリタルトキハ前二項ノ例ニ依リ次期俸給支給ノ際整理スヘシ(明治二十六年省令第十四號ヲ以テ本條追加)

後明治三十一年三月九日勅令第三十九號ヲ以テ明治二十六年勅令第五號ハ明治三十一年三月三十一日限り廢止スト令達シ從テ右製艦費納金ノ制度ハ明治三十二年以以降消滅セリ

第四款 支出

明治元年八月七日府縣ニ令シテ官吏ノ月俸其他ノ經費ハ概計ヲ以テ租稅米金ノ内ヨリ之ヲ支出シ租稅ヲ完納スルノ日ニ當リ明細勘定帳ヲ會計官ニ具進セシム次テ翌二年七月二十七日縣廳ノ常備金額ヲ定メ又常額歳費ヲ一定シ之ヲ縣廳ニ貯蓄シ緩急ニ應シテ支出シ明細書ヲ具申セシムルモノトス

後明治六年十二月二十七日金穀出納順序ヲ定ムルニ及ヒ官省常額金ハ年額ヲ十二分シ毎月初旬大藏省ヨリ受取り以テ定限ノ費用ニ充ツルモノトス又府縣ニアリテハ官員月給並常費捕亡費概費金穀トモ前半年額ハ其前年十一月ヲ後半年額ハ其年五月ヲ期シ大藏省ニ申請シテ之ヲ受領シ以テ一切ノ費用ニ充テシメ且常備金ノ名稱ヲ改メ第一常備ヲ常費第二常備ヲ豫備凡積置米金ヲ概費トナシ第二常備ヲ移用シ及臨時ニ支給スル場合ハ概シテ臨時費ト改稱セシム而シテ明治八年三月十四日府縣ニ五月十八日官省ニ各令達シテ一般ノ經費ヲ定額常費額外常費及臨時費ノ三大目ニ區分シ毎歳費額ヲ定メ定時ニ各廳ニ交付スルモノヲ定額常費トシ又毎歳費程ヲ豫算シ費額ヲ確定セス每件其事由ヲ詳悉シ毎時成規ニ從ヒ之ヲ大藏省ニ請求スル平常ノ費用ヲ額外常費トシ終リニ營繕費定額以上ヲ要スルモノヲ臨時費トセリ

明治九年八月府縣額外常費ノ申請區分ヲ定メ季節ニ照シテ申請ス可キモノ豫備金ヲ以テ繰換支辨シ毎三箇月ニ申請ス可キモノ及其毎時ニ申請ス可キモノ、三種トシ各其費目ヲ列記セリ
大藏省達乙第六十九號 (明治九年八月十日) 府 縣

額外常費ノ儀本年七月一日ヨリ別紙申請區分ニ準據請取方可申出候尤明治八年十一月大藏省乙第五十五號達書ノ通明細仕譯書^{費項ノ内詳計算ノ調査ヲ爲スヘキ體裁ニ依リ明治八年一月第六號賞典錄ノ如キハ從前ノ通概算書ヲ以申請スヘシ添付候儀ト可相心得此旨相達候事}

(別紙) 額外常費申請區分

第一

一 季節ヲ照シテ大藏省ヘ申請スヘキ分

家祿 賞典祿 社寺遞減祿

右家祿賞典祿ハ明治七年十一月二十五號布告ノ通^{社寺遞減祿ハ右ニ準ズ}翌年五月迄ニ交付スヘキモノ

故其前申請スヘシ

陸軍武官瘍癘扶助

右ハ明治八年四月第四十八號公達ノ通り年々六月十二月ニ交付スヘキモノ故其ノ前申請スヘシ

賞典錄 內 舊近衛兵賞典祿

右ハ明治八年中大藏省ヨリ達及ヒ指令セシ通り年々七月十二月ニ交付スヘキモノ故其前申請スヘシ

徵兵費 國幣社例祭金幣料

右ハ各季節前概算ヲ以申請スヘシ

第二

- 一 概算ヲ以半年分ツ、前以大藏省へ申請スヘキ分
 ノ内 賑恤 棄兒養育米 證券印紙諸費
- 煙草印紙諸費 訴訟野紙諸費
- 度量衡諸費 囚人諸費
- 懲役人諸費 禁錮人諸費
- 銃創人諸費

第三

- 一 豫備費ヲ以繰換置毎三箇月取束申請スヘキ分
 ノ内 賑恤 窮民恤救
- 右ハ明治九年四月内務省乙第四十九號達書ノ通り内務省へ申請スヘシ
- 官省札交換費 舊貨幣交換費
- 損傷札交換費

右ハ大藏省へ申請スヘシ申請書ハ各通タルヘシ但交換費ノ儀金員多數ナレハ半年分ツ、概算ヲ以前以申請スルモノナリ

第四

- 一 豫備金ヲ以繰換置其時々申請スヘキモノ
 ノ内 賑恤 水火災救助 同上 三子手當恩賞 孝子等ノ褒賞恩賞 死傷ノモノ吊祭料 外國船漂著費 難破船諸費 救疫諸費

右内務省へ申請スヘシ

復籍人諸費、牛疫豫防費

右大藏省へ申請スヘシ但復籍人諸費ハ毎三月取束ネ申請スルモノナリ

右ハ申請ノ區分概略書面ノ通タルヘシ尤舉ル所ノ費目ハ類例ヲ示スノミナレハ此餘ハ類推例比ヲ要ス

前述ノ如ク額外常費ノ申請ニ關シ費途ヲ區分シテ之ヲ規定セシカ此クテハ記帳及往復ノ手續繁
 紛ニ涉ルノミナラス金員ノ到達動モスレハ延滞スルヲ以テ實際上不便アルヲ免レス之ヲ以テ明
 治十年二月新タニ府縣經費交付概則及申請概則ヲ定メ定額常費ハ毎三箇月宛額外常費ハ豫算金
 額ヲ四分シテ毎三箇月分ヲ臨時費ハ要需ノ時ニ何レモ請求書ヲ以テ申請スヘキモノトシ其權内
 ニ屬スルモノハ直ニ支拂ヒ否ラサルモノハ指令ノ上支拂フヘキモノトセリ而シテ増費許可アル
 トキハ其増額金ノ交付ヲ俟タス現金若クハ豫備金ニテ支辨スルコトヲ得ヘシ

經費交付概則

- 一 府縣ニ經費ヲ交付スルハ別紙申請概則ニ據ル
- 一 額外常費申請之指令ハ事款ヲ聽可スルノミニシテ金員交付ノコトハ別ニ載セス但秩祿ノ分ハ従前ノ通り
- 一 内務省ニテ聽可スル分ハ時々延滞ナク大藏省へ通知ス且恩賞賑恤其他ノ屆書勘定組ニ關係スルモノハ同様通知ス但増費ヲ要スル分ハ大藏省へ合議スルハ従前ノ通り
- 一 大藏省検査局之外局課ニ於テ指令案ヲ草スル時ハ同局へ合議シ達濟之上必ス再回ス

大藏省達乙第八號 (明治二十八年)

府 縣

經費金ノ儀向後別紙概則及書式ニ照準申請可致尤伺届之規程ハ從前之通可相心得但豫算内外ヲ甄別シ記載候様可致此旨相達候事

經費申請概則

- 一 定額常費ハ毎三箇月分ツ、請求書ヲ以テ申請スヘシ尤東京府ニ限り每一箇月トス
- 一 額外常費ハ各府縣共秩祿ヲ除クノ外ハ豫算總額ヲ四分シテ毎三月請求書ヲ以テ申請スヘシ(十一年大藏省達乙第六十六號ヲ以テ秩祿シノ下ハ實動年金軍人恩給ノ八字ヲ加フ)
- 而シテ權内ニ屬スル分ハ直チニ仕拂ヒ經伺スヘキモノハ指令ノ上仕拂ヘシ
- 増費ノ許可ヲ得ルモノト雖モ此渡金ノ内ニテ支辨シ得ルモノハ直ニ仕拂テ可ナリ若シ支辨シ難キ時ハ豫備金ヲ以テ繰換置キ即時ニ申請スルモ後季ニ至リ取束申請スルモ便宜ニ從フヘシ但秩祿ニ限り從前ノ通り(十一年大藏省達乙第六十六號ヲ以テニ限リ從前ノ通りヲ實)
- 一 臨時費ハ需要ノ時ニ際シ請求スヘシ尤請求書ハ別紙書式ニ準スヘシ
- 一 神社ノ分モ別紙書式ニ準ス但別通ヲ以テ申請スヘシ

(別紙)

記

金若干
金若干
金若干

最前決定高
何々増費
何々増費

合金若干

内金若干

何々減費

差引

金若干

自某月三箇月分

一 金若干

定額常費

外金若干

請取濟

右御渡有之度候也

年 月 日

長官名印

大藏卿宛

記

高金若干 (秩祿ヲ除ク)

自某月三箇月分

一 金若干

額外常費

外金若干

請取濟

右御渡有之度候也

年 月 日

長官名印

大藏卿宛

後明治十三年七月七日ニ至リ太政官ハ第三十八號達ヲ以テ府縣ニ令達シテ曰ク明治十三年度以降地方稅ト連帶支辨ノ國庫下渡金即チ警察費土木費學校補助金ハ其年額ヲ四分シテ請求シ其他

經費金ハ從前ノ通可心得此旨相達候事ト仍テ同月十七日府縣經費金申請概則ノ改正ヲ見ルニ至
レリ

番外 (明治十三年七月十七日)

府

縣 東京府 除ク

明治十三年度以降經費請求方ノ儀本年第三十八號公達ニ依リ別紙ノ通概則制定候條右ニ照準
申請可致此旨相達候事

(別紙)

經費金申請概則

- 一 經費金ハ年額ヲ四分シテ每三箇月第一號雛形請求書ヲ作り之レニ第三號雛形仕譯書ヲ添
付シテ申請スヘシ
- 一 豫算外増費ノ許可ヲ得ルモノト雖モ既ニ領取セシ金員ノ内ヲ以テ支辨シ得ヘキハ之ヲ支
辨シ若シ支辨シ難ケレハ即時ニ請求スルモ又ハ豫備金ヲ以テ繰換置後季ニ至リ申請スルモ
其便宜ニ從フヘシ
- 一 滿期賞典社寺祿賞勳年金軍人恩給ハ交付ノ期節ニ臨ミ第二號雛形請求書ヲ以テ申請スヘ
シ但仕譯書ハ添付ニ及ハス
- 一 地方稅ト連帶支辨ノ國庫下渡金及神社費ハ年額ヲ四分シテ每三箇月第一號雛形請求書ヘ
第四號或ハ第五號雛形仕譯書ヲ添ヘ申請スヘシ
- 一 年額ヲ四分シ每三箇月定限ヲ以テ請求スル金員ハ圓位ニ止メ其端數ハ終季ニ於テ合算ス
ヘシ

一 興業費及營業資本缺額補填ノ金員請求ノ向モ其順序ハ前各條ニ準スヘシ

院省各支廳ノ經費ハ從來本廳常額金ノ内ヨリ分送スルノ例ナリシカ明治七年十一月二十四日之
ヲ改正シ五十里内ハ其都度拂渡シ五十里以上二百里未滿ハ前月ニ於テ二百里以外ハ前々月ニ於
テ各現金ヲ前渡スルノ制トナセリ後明治十四年二月十五日太政官達ヲ以テ現金前渡ヲ廢シ預ケ
金爲替方拂出切符ヲ以テ交付スルコト、シ本廳經費ト同シク大藏省ニ請求セシム然レトモ遠隔
ノ地方ニ在リテハ郵便到達セサレハ受領スルコトヲ得ス隨テ仕拂上差支アルヲ以テ其郵便到達
日數ヲ見込ミ豫メ請求スルコトヲ得セシメタリ而シテ現金前渡ヲ廢セシハ蓋シ國庫金融上ノ關
係ニ基クモノ、如シ而シテ爲替方ニ預ケ入レタル現金ノ支出ニ關シテハ大藏省爲替方條例中預
金拂出條例ニ據ルヘク其要旨左ノ如シ

- 一 拂出ノ命令 爲替方預ケ金ノ拂出ハ出納局長ノ命令又ハ收稅委員ノ指揮ニヨルモノトス
出納局長ハ各所ニ送納スヘキ配賦金ニ於テ令達シ又ハ個人ニ證據ヲ附與シタル場合ニ拂出
ヲ命スルモノニシテ收稅委員ハ過誤納下戻ニ付テ指揮スルモノトス
- 二 配賦命令 出納局ニ於テハ各收稅區ニ於テ爲替方ニ預入ルヘキ現金ヲ概計シ金若干ハ某
縣へ若干ハ出納局又ハ同支局へ送納スヘキ旨ヲ令達シ同時ニ其配賦ヲ受クヘキ各廳ニ通知
ス

三 拂出順序

- (一) 現金送納 爲替方ハ各廳ニ對シテ配賦令達額ノ全部又ハ一部ヲ送納シ之ト同時ニ預リ
證書ノ交付ヲ受クルモノトス

爲替方ハ一度又ハ數度ニ納金ノ都合ヲ見計ヒ爲替又ハ現金ヲ以テ令達願ヲ出納局ニ送付シ出納局ハ之ニ領收證書ヲ交付スルモノトス

(二) 臨時拂渡 官廳又ハ個人ニ臨時拂渡ヲ要スルトキハ出納局ニ於テハ之ニ拂渡證票ヲ交付シ同時ニ爲替方ニ納付票ヲ送付スヘシ而シテ爲替方ハ拂渡證票ト納付證票ト對照シテ現金ヲ交付スヘシ故ニ拂渡證票ヲ持參スルモノアルモ納付證票ノ到達セサル間ハ決シテ拂渡ヲナスコトヲ得ス

(三) 下戻 過誤納ノ爲メ下戻ヲ要スルトキハ收稅委員ハ金額氏名ヲ記載シタル通知切符ヲ爲替方ニ交付シ同時ニ下戻切符ヲ製シ郡區長ノ手ヲ經テ納人ニ交付スヘシ而シテ爲替方ニ於テハ通知切符ト下戻切符トヲ照合シ現金ヲ交付スルモノトス

四 記帳手續 爲替方ニ於テ現金ノ送納又ハ拂渡ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ受拂日記帳ニ記載シ又一口毎ニ其送納先ト送付方法トヲ日締帳ニ記載スヘキモノトス而シテ過誤取戻通知切符ヲ得テ現金ヲ拂渡サ、ルトキハ未拂金トシテ未渡帳ニ置クモノトス

其他府縣經費ニ關シテハ證書ヲ以テ之ヲ授受スルノ例ヲ廢シ明治七年五月五日府縣預ケ米金出納規則ヲ定メ常費概費ヲ概計シテ出納寮ニ提出セシメ之ニヨリテ預ケ米金ノ額ヲ豫定ス而シテ府縣ニ於テ該米金ノ額内ヨリ交付ヲ受ケントスルトキハ其旨ヲ申請書中ニ記載シ其許可ヲ得ルトキハ拂切手ヲ出納寮ヨリ受領シ始メテ之ヲ支出スルヲ得ルモノトス然レトモ其現ニ金殺ヲ申請シ竝ニ之ヲ交付スルノ順序手續ニ關シテハ總テ從來ノ規程ニ準據セリ爾來ノ改正變更ヲ經テ明治十七年一月十五日ニ至リ同年二月限り該制度ヲ廢止シタルコト既ニ述フルカ如シ

後明治十七年七月ニ至リ經費金支出條規ヲ定メテ之ヲ官省院廳及府縣ニ令達シ明治十八年度ヨリ之ヲ施行セントセシカ十月ニ至リ更ニ十九年度ヨリ之ヲ實施スルコト、シ明治十八年五月府縣ニ對シ之カ施行細則ヲ定メタリ蓋シ右規程ノ主旨タルヤ現金ノ收支ヲ大藏省ニ統一管理シ從テ經費ノ支拂ヲ事前ニ監督セントスルニ在リタルナリ

一 管理 各廳ノ經費金ハ總テ大藏省ニ於テ之ヲ管理シ仕拂ヲ執行スルヲ以テ本則トス

二 月額豫定 各廳ハ其一週年度中ニ係ル經費ノ月額ヲ豫定セサル可カラズ但雜波船費機密費訴訟入用等ノ如ク性質上豫定シ難キモノハ例外トス

三 支出仕譯書 各廳長官ハ經費豫算額ノ裁定アルトキハ更ニ支出額仕譯書ヲ製シ大藏卿ノ調査ヲ受ケサルヘカラス

四 支拂順序 各廳長官ハ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ仕拂請求書ヲ大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ受ケ各廳會計主務官ヲシテ仕拂切符ヲ發行セシム而シテ大藏省ハ仕拂切符ヲ受クルニアラサレハ支拂ヲナスコトヲ得ス

但年度開始後仕譯書調査前ニ於テ支出ヲ要スルトキハ特ニ年額十二分ノ一以下ノ限度ニ於テ其月分ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得又陸軍ノ行軍費海軍ノ航海費ハ上述ノ順序ニヨルコト能ハサルヲ以テ計算上ニ依リ其都度現金ヲ交付シ在外各廳ノ經費モ亦同シ理由ニヨリ年額ヲ四分シテ現金ヲ交付スルモノトス

經費金支出條規

(十七年七月十五日 太政官達第六十一號)

官省院廳府縣

第一條 各廳ノ經費金ハ總テ大藏省ニ於テ之ヲ管理シ其仕拂ヲ執行スヘシ

- 第二條 各廳ノ經費ハ其一週年度中ニ係ル支出ノ月額ヲ定ムヘシ但支出期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラス
- 第三條 經費豫算額ノ裁定アルトキハ各廳長官ハ支出額ノ仕譯書ヲ大藏卿ヘ送付シ其調査ヲ受クヘシ
- 第四條 前條ノ調査ヲ受クルニアラサレハ各廳長官ハ仕拂ヲ請求スルコトヲ得ス但年度ノ初一箇月分ハ年額十二分ノ一ニ超ヘサレハ調査ヲ受ケサルモ仕拂ヲ請求スルコトヲ得
- 第五條 仕譯書ヲ出シタル後期節金員ニ變更ヲ要スルコトアルトキハ其都度訂正仕譯書ヲ大藏卿ヘ送付シ更ニ調査ヲ受クルニアラサレハ仕拂ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第六條 各廳長官ハ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ仕拂請求書ヲ大藏卿ヘ差出其承認ヲ受クヘシ
- 第七條 各廳長官ハ大藏卿ヨリ仕拂請求書ノ承認ヲ得ルニアラサレハ仕拂切符ヲ發行セシムルコトヲ得ス
- 第八條 大藏省ハ仕拂切符ヲ受クルニアラサレハ現金ヲ仕拂フコトヲ得ス
- 第九條 經費金ノ支出ハ大藏省開廳時間ニ限ルモノトス但臨時急施ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 第十條 在外各廳ノ經費ハ年額ヲ四分シテ大藏省ヨリ金員ヲ交付スヘシ但毎會計年度第一期分ノ交付額ハ前年度ノ豫算額ニ據ル
- 第十一條 在外各廳ハ毎月其仕拂タル金員ノ精算書ヲ製シ翌月七日マテニ其地ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

- 第十二條 陸軍ノ行軍費海軍ノ航海費ニ限リ計算書ニ依リ其都度現金ヲ交付スルコトアルヘシ
- 第十三條 前條ノ金員ヲ受取タル主任ノ會計官更ハ毎月其仕拂タル金員ノ精算書ヲ製シ翌月七日マテニ其滞在地若クハ碇泊地ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第十四條 在地方各廳ハ第三條ノ仕譯書調査濟ノ通知ヲ得タル後經費ノ支出ヲ要スルトキハ支出金員ノ仕拂明細書ヲ大藏卿ノ指名シタル現金仕拂所ヘ送付シ仕拂切符ヲ發行スヘシ
- 第十五條 在地方各廳ハ毎月支出シタル金員ノ精算書ヲ製シ翌月七日マテニ其廳ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第十六條 現金仕拂所ヲ設置セサル地方ニ各廳ノ支部局アルトキハ大藏省ハ便宜ノ方法ヲ設ケテ其經費金ヲ交付スヘシ
- 第十七條 前條ノ支部局ハ毎月支拂タル金員ノ精算書ヲ製シ翌月五日マテニ其地ヲ發シテ之ヲ主管廳ヘ送致シ主管廳ハ到達後三日以内ニ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第十八條 此條規ニ關スル取扱ノ細則ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ
- 第十九條 現行法規中此條規ニ抵觸スル條項ハ廢止ス
- 大藏省達第二十一號 (明治十八年五月十七日)
- 府 縣
- 經費金支出條規細則
- 第一條 經費金支出條規第二條但書ニ掲クル支出ノ月額期節ヲ豫定シ難キモノハ從價稅品買上代救助費難破船費獸疫費機密費一時賜金惠與訴訟入費トス

- 第二條 經費金支出條規第三條ニ掲クル支出額仕譯書ハ第一號甲書式ニ據リ正副二通ヲ調製シ豫算額裁定ノ達ヲ受タル日ヨリ七日(休日ヲ除ク)以下準之)以内ニ其應ヲ發シテ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス
- 支出期節ヲ豫定シ難キモノニシテ其期節定マル時ハ更ニ第一號乙書式ノ仕譯書正副二通ヲ調製シ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス
- 第三條 經費金支出條規第五條ニ掲クル訂正仕譯書ハ第二號書式ニ據リ正副二通ヲ調製シ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス
- 第四條 大藏省ハ第二條第三條ノ仕譯書ヲ受クルトキハ七日以内ニ之カ調査ヲ了シテ其旨ヲ通知スヘシ
- 第五條 經費金支出條規第六條ニ掲クル仕拂請求書ハ第三號書式ニ據リ之ヲ調製シ毎月三回(内一回ハ定日渡ノ俸給ニ限ル)仕拂切符ヲ發行セントスル五日以前ニ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス但臨時至急ヲ要スルモノハ其時々仕拂請求書ヲ差出スモノトス
- 第六條 大藏省ハ前條ノ仕拂請求書ヲ受ルトキハ三日以内ニ之カ調査ヲ了シ認否ノ通知ヲナスヘシ但臨時至急ヲ要スルモノハ即時之カ調査ヲ了スヘシ
- 第七條 各應ノ會計主務官吏ハ其長官ノ支出命令ヲ受ルトキハ第四號書式ノ切符ヲ調製シ案内切符ハ出納局若クハ現金支拂所ヘ送付シ支拂切符ハ受取人ヘ交付スヘシ
- 第八條 經費金支出條規第十條ニ掲クル在外各應ノ經費ハ其送金ヲ要スル期節ノ三十日前ニ主管廳長官ヨリ第五號書式ノ送金請求書ヲ調製シ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス

- 第九條 大藏省ハ前條ノ送金請求書ヲ受クルトキハ調査ノ後期日マテニ送金ノ手續ヲナシ同時ニ主管廳長官ヘ其旨ヲ通知スヘシ
- 第十條 在外各應ハ金員ヲ受取リタルトキハ第六號書式ノ領收證書ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
- 第十一條 經費金支出條規第十二條ニ掲クル陸軍ノ行軍費海軍ノ航海費ヲ請求セントスルトキハ第七號甲書式ノ計算書ヲ調製シ現金ヲ受取ラントスル五日以前ニ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス但臨時至急ヲ要スルトキハ第七號乙書式ノ計算書ニ據ルモノトス
- 第十二條 大藏省ハ前條ノ計算書ヲ受ルトキハ三日以内ニ之カ調査ヲ了シ其旨主管廳ヘ通知スヘシ但臨時至急ヲ要スルトキハ即時之カ調査ヲ了スヘシ
- 第十三條 前條主管廳ノ會計主務ノ官吏ハ支出命令ヲ受タルトキハ主任ノ會計官吏ヲ請取人トシテ仕拂切符ヲ發行シ金員ノ交付ヲ受クヘシ但大藏省ノ便宜ニヨリ途次ノ出納局若クハ現金支拂所ニ於テ金員ノ幾部分ヲ交付スルコトアルヘシ
- 第十四條 東京以外ノ地ニ於テ第十一條ノ經費ヲ受取ラントスルトキハ電信ヲ以テ大藏省ヘ通知ノ上計算書ヲ出納局若シクハ現金支拂所ヘ送付シ直チニ切符發行ノ手續ヲナスモノトス
- 第十五條 經費金支出條規第十四條ニ掲クル仕拂明細書ハ第八號書式ニ據ルモノトス
- 第十六條 現金仕拂所ヲ設置セサル地方ニシテ會計主務官吏ノ設ケアル各應ノ經費金ハ第二條ノ仕譯書ニ據リ大藏省ヨリ其會計主務官吏ヘ金員ヲ交付スヘシ
- 第十七條 前條ノ會計主務官吏ハ其交付金ヲ受クルトキハ第六號書式ノ領收證書ヲ大藏省ヘ

送付スヘシ

第十八條 會計主務官吏ノ在勤セサル地方ノ各支部局又ハ官吏出張先等へ經費金ヲ逕送セントスルトキハ會計主務官吏之カ受取人トナリ仕拂切符ヲ發行シ案内切符ニ朱書ヲ以テ逕送請求ノ事由ヲ裏書シ之ヲ出納局若クハ現金仕拂所へ送付スヘシ

第十九條 出納局若クハ現金仕拂所ハ前條ノ請求アルトキハ仕拂切符ト引換爲替證書形等ヲ交付シ會計主務官吏ハ之ヲ本受取人へ送付スヘシ但爲替證書ヲ交付スル能ハサルコトアレハ金員遞送證ヲ交付シ金員ハ便宜之ヲ逕送シ追テ本請取人ノ領收證書ト引換フヘシ

第二十條 會計主務官吏ノ差出スヘキ精算書ハ總テ第九號書式ニ據ルモノトス但所屬ノ主任官吏ヨリ差出スヘキ精算書ハ主管ノ會計主務官吏へ送達シ會計主務官吏ハ追書ヲナシ之ヲ大藏省へ送付スヘシ

第二十一條 大藏省ハ前條ノ精算書ヲ受ルトキハ十五日以内ニ之カ調査ヲ了シ其旨ヲ通知スヘシ

第二十二條 各廳ニ於テ既ニ大藏省ニ請求セシ金額ノ内其月中ニ案内切符ヲ發セサルトキハ其旨ヲ大藏省へ報告シ又事故アリテ取消ヲナサントスルトキハ第十號書式ノ取消仕譯書ヲ調製シ其時々之ヲ大藏省へ送付スルモノトス

第二十三條 在地方各廳ニ於テ既ニ現金仕拂所へ送付セシ仕拂明細書ノ内其月中ニ案内切符ヲ發セス又ハ事故アリテ取消ヲナサントスルトキハ第十號書式ノ取消仕譯書ヲ調製シ其時時之ヲ現金仕拂所へ送付スヘシ

第二十四條 各廳ニ於テ已ニ仕拂タル金員ノ内返納ヲ要スルトキハ納人ヲシテ現金ヲ出納局若ハ現金仕拂所へ持參セシメ第十一號書式ノ預リ證書ヲ以テ會計主務官吏へ納付セシムヘシ會計主務官吏ハ第十二號書式ノ領收證書ヲ調製シ之ヲ納人へ交付スヘシ

第二十五條 各廳長官ハ前條ノ返納金アルトキハ其預リ證書ニ第十三號書式ノ返納書ヲ添ヘ三日以内ニ其廳ヲ發シテ之ヲ大藏省へ送付スルモノトス

第二十六條 大藏省ハ前條ノ現金預リ證書及返納書ヲ受クルトキハ出納局長ノ領收證書ヲ交付スヘシ

(書式略ス)

明治十九年三月歳入歳出々納規則ヲ制定發布スルニ及ヒ從來ノ經費金支出等ニ關スル條規ハ概ネ皆廢絶セリ而シテ明治二十二年二月會計法ヲ改定スルヤ收入支出ノ根本ハ此ニ確立セラルニ至レリ

第五款 金錢回送

各府縣ヨリ納付スル諸納金ハ爲替方法ニヨルヲ本則トスレトモ必シモ爾ルニアラス或ハ地方ノ便宜ニヨリ現金ヲ以テ納付スルヲ得タリシカ明治七年十月諸納金現金送納規則ヲ定メタリ

一 租稅其他ノ納付現金ハ其種類ヲ分チテ之ヲ糊封シ府縣長官若クハ次官ノ檢印ヲ經テ東京又ハ大阪ニ回送スヘキモノトス

二 納金既ニ東京大阪へ到着スレハ金銀貨紙幣ハ第一國立銀行へ預入レ官省札兌換證券竝ニ

損傷札ハ一定ノ手續ニヨリ即日紙幣寮へ申出テ其検査ヲ經共ニ其預リ證書ヲ得テ上納スヘシ

三 回送ハ海陸何レニヨルモ可ナリ而シテ海路ニヨルトキハ飛脚船ニ限リ陸路ニヨルトキハ警護者ヲ付セサルヘカラス又納金回送ニ關スル諸入費ハ別途ニ之ヲ支給スルモノトス

大藏省達乙第三號 (明治七年十月七日)

府 縣

租稅其他諸納金之儀各地方ノ便宜ニ寄リ現金遞送モ可有之處先般爲替規則頒布相成候ヨリ強テ右規則ニ據リ處分候様相成候テハ不都合ニ付今般左之規則制定候條各地方ノ都合ニ寄リ右ニ照準シ現金送納可致此旨相達候事

諸納金現金送納規則

第一條 租稅其他納金兼テ公布ノ期日割合ヲ以テ各府縣ヨリ金銀貨官省札兌換證券新紙幣等ヲ以テ可納分回送ノ節ハ貨幣各種限種類分ケ致シ適宜糊封長次官ノ内檢印ヲ捺シ外箱ノ上へ名稱種類包數縣名無洩様記載雨濡濕ノ豫防入念荷造致シ左ノ通東京大阪ノ内へ相廻シ可申事但金銀各紙幣ト別箱ニ仕立可申詰合セハ不相成事

東京府	神奈川縣	新潟縣	埼玉縣	熊谷縣	足柄縣	千葉縣
茨城縣	新治縣	栃木縣	濱松縣	靜岡縣	山梨縣	筑摩縣
長野縣	宮城縣	若松縣	水澤縣	岩手縣	青森縣	山形縣
置物縣	酒田縣	秋田縣	相川縣	福島縣	磐前縣	

右一府二十六縣東京廻送ノ分

京都府	大阪府	兵庫縣	奈良縣	堺縣	三重縣	愛知縣
度會縣	滋賀縣	岐阜縣	豐岡縣	鳥取縣	濱田縣	島根縣
飾磨縣	北條縣	岡山縣	小田縣	廣島縣	山口縣	和歌山縣
名東縣	愛媛縣	高知縣	敦賀縣	石川縣	新川縣	長崎縣
宮崎縣	福岡縣	三浦縣	小倉縣	佐賀縣	白川縣	大分縣
鹿兒島縣						

右二府三十四縣大阪廻送ノ分

但右之通場所割相立ルト雖便宜次第兩所ノ内へ回送可取計事

第二條 一官省札兌換證券新紙幣ノ損傷札ハ引換方今年二月中及布達候規則竝同七月第七十五號追加ニ照準シ検査ノ上租稅其他上納ノ内へ取立不苦尤租稅ニ付各紙幣ト一箱へ詰合候共別封別入記ニ致シ第五條紙幣寮差出書へハ明細別廉ニ記載可致事

第三條 納金東京大阪へ著ノ上金銀貨新紙幣ハ第一國立銀行へ相渡如從前證書取之官省札兌換證券竝損傷札ハ東京紙幣寮大阪同寮出張所へ差出検査濟同寮ニ於テ預リ證書可相渡條兩證書ヲ以テ租稅其他各寮へ相納可申事

第四條 官省札兌換證券竝損傷札ノ分ハ著即日紙幣寮へ申出一旦假金庫入取計置順次ニ検査受候儀ト可相心得付テハ日數相後レ候儀モ可有之候間金銀貨新紙幣ノ分ハ著次第銀行預リ證書ヲ以テ内納可取計事

第五條 各紙幣類紙幣寮へ差出候節各寮限納譯名稱種類明細差出書相添可申尤長官捺印致候

儀ト可相心得事

第六條 各紙幣類紙幣寮ニ於テ検査ノ節東京ハ出張所詰大阪ハ護送ノ官員立會ノ上若賈造成ハ不足等有之節ハ檢印ノ長次官償申付候條爲替其外改方取扱候モノト兼テ條約取結置不都合無之様可致事

第七條 回送ハ海陸便宜可取計尤海路ハ飛脚蒸汽船ニ限リ陸路運送泊宿ニ於テハ辛未十月十四日公布ノ通相心得納金ノ多寡ニ應シ不寢番二人以上相當ニ爲差出警護可致事但飛脚蒸汽船ヲ以テ回送ノ節ハ運賃並危險請負等前以條約ヲ遂ケ後日不都合無之様取計可申事

第八條 回送ノ納金護衛人員ノ儀金高ノ多寡ニ應シ十四五等ノ内一員或ハ二員ヲ爲附添可申事

第九條 回送金其外ハ各地方適宜堅固ニ製造可致事

第十條 納金回送諸入費ハ別途可相渡條明細書ヲ以テ請取方可申出事

後明治十一年十二月二十八日ニ至リ國稅金領收順序ヲ定ムルニ及ヒ稅金ハ戶長ニ於テ之ヲ收束シテ稅金預リ人ニ交付スヘク稅金預リ人ハ大藏省出納局ノ指揮ニ從ヒ之カ保管並ニ配賦ヲ取扱フモノニシテ從テ爲替方法ニヨリテ各地ニ送金ヲナセシナリ次テ明治十三年十一月二十七日稅金稅外金等凡ソ地方ヨリ租稅領收順序ニ據テ納付スル金額ヲ領收シ且收支ヲ便ニスル爲メ各地ニ爲替方ヲ設ケタルカ其爲替方ニ於テ預リタル金員ノ送納ニ關シテハ同時ニ定メタル大藏省爲替方條例中ノ金員送納條例ニ於テ其手續ヲ規定セリ其大要左ノ如シ(出納機關中爲替方ノ部参照)

一 送納方法 送納方法ニ二途アリ爲替手形ヲ以テスルモノト現金ヲ以テスルモノ是ナリ而

シテ爲替手形ヲ以テスルモノヲ其常態トナス

二 爲替送納 爲替送納ハ出納局長ノ命ニヨルモノニシテ或ハ配賦證票ニ爲替送納ノ旨ヲ記シ或ハ特ニ之ヲ達ス

爲替送納ヲナス順序ハ爲替方ニ於テ一旦預金ヨリ拂出シ爲替手形ヲ以テ指定ノ納所ヘ郵送シ振込店ニ於テハ三日以内ニ現金ヲ持參シ直チニ領收證又ハ預リ證ヲ受取り於此送納ヲ完了スルモノトス

三 現金送納 現金送納ヲナスハ出納局長ノ特命ニ依ルコト爲替送納ニ同シク特ニ手限現送ト稱シテ爲替送納ヲ命セラレタル場合ニ於テ爲替方ノ都合ニヨリ現金送納ヲナスコトアリ而シテ現金送付ヲナスノ方法ハ爲替方手代一名附添ヒ(運賃旅費ハ官給)送納ヲナシ領收證又ハ預證書ノ交付ヲ受クルモノトス而シテ其運搬ニ當リテハ途中沿道府縣ノ巡查一名又ハ二名ヲシテ護衛セシム

明治十五年七月ニ至リ始メテ國稅金送納定則ナルモノヲ公布セラルル則チ同定則ニ從ヘハ國稅ノ收納ハ戶長ニ於テ之ヲ取扱ヒ而シテ戶長ハ其收集メタル稅金ヲ七日以内ニ郡區長ニ送納シ郡區長ハ大藏省指定ノ期日ニ準シ之ヲ租稅局出張所ニ送納シ租稅局出張所ハ十日毎ニ經メ七日以内ニ租稅局ヘ送納シ租稅局ハ領收シタル稅金ヲ十日毎ニ取纏メ三日以内ニ國庫ニ納入スルモノトス今參考ノ爲メ其規定ヲ左ニ掲ケン

太政官達第四十六號 (明治三十五年七月三十一日)

官省院廳府縣

國稅金送納定則別冊ノ通相定明治十五年十一月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

(別冊) 國稅金送納定則

第一章 總則

第一條 凡ソ國稅(海關稅ヲ除ク)ハ各其法律規則ニ據リ之ヲ徵收シ此條規ニ從ヒ送納スルモノトス

第二條 各廳ニ於テ租稅決算ノ期限ハ各種租稅皆濟期限後四箇月以内タルヘシ
第二章 收納順序

第三條 戶長ニ於テ取集メタル租稅ハ郡區長ニ上納シ郡區長ハ之ヲ所在大藏省租稅局出張所ニ送納スヘシ

第四條 各廳又ハ各部局ニ於テ直ニ領收シタル租稅ハ之ヲ大藏省租稅局出張所ニ送納スヘシ
但第三條第四條送納ノ手續ハ大藏省達國稅金領收順序ニ據ルヘシ

第五條 租稅局ハ其各地出張所ヨリ送納セル租稅ヲ領收シ之ヲ國庫ニ納入スヘシ
第三章 送納期限

第六條 戶長ニ於テ納期前人民ヨリ受取タル稅金ハ七日以内ニ之ヲ郡區長ニ上納セシムヘシ
第七條 郡區長ニ於テ領收セシ稅金ハ大藏省ニ於テ指定シタル期日ニ從ヒ之ヲ租稅局出張所ニ送納スヘシ但各廳又ハ其各部局ニ於テ直ニ領收シタル稅金モ本文ノ例ニ據ル

第八條 各廳又ハ其各部局ニ於テ時々領收スル諸稅ニシテ收入ナキ月ハ翌月二日限り其旨租稅局出張所ニ通知スヘシ

第九條 租稅局出張所ニ於テ領收セル稅金ハ十日毎ニ取纏メ其翌日ヨリ七日以内ニ該地ヲ發

シ租稅局ニ送納スヘシ

第十條 租稅局ハ領收シタル稅金ヲ十日毎ニ取纏メ三日以内國庫ニ納入スヘシ

第四章 稅表送達期限

第十一條 各廳ニ於テ調製スル各種稅表ノ樣式及ヒ其送達ノ期限ハ大藏省達ニ從ヒ租稅局ニ送付スヘシ

第十二條 稅表送達後納額ニ差異ヲ生シ稅表ノ訂正ヲ要スルトキハ該稅皆濟帳送達以前ニ限リ之ヲ訂正スルヲ得

第五章 雜則

第十三條 大藏卿ハ臨時租稅局員ヲ派遣シ各廳又ハ郡區役所ニ就キ租稅ニ關スル諸帳簿及ヒ稅金ヲ檢查セシムルコトアルヘシ

第十四條 租稅不納ニ依リ公賣處分ノ末缺額ヲ生スルトキハ處分後日數十五日以内ニ勘定除却ヲ大藏卿ニ開申スヘシ

第十五條 水火災ニ罹リ家屋蕩盡スルモノニ箇月以内納稅延期ヲ府縣長官ニ於テ處分シタルトキハ日數十五日以内ニ大藏卿ニ申報スヘシ

第十六條 大藏卿ハ第十四條租稅金ノ缺減ニ屬セシモノヲ一周年度分取纏メ太政官ニ上申スヘシ

第十七條 戶長ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ筆生又ハ用掛等ヲ代人トシテ納稅ノ事務ヲ取扱ハシムルトキハ郡區長ノ承認ヲ受ケシムヘシ

第十八條 嶋嶼又ハ道路遠隔其他已ムヲ得サル事故アリテ此定則ニ指定セル期限ニ據ル能ハサルモノハ豫テ其事由ヲ各廳ヨリ大藏省ニ申告シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ具申シテ其裁可ヲ受クヘシ

第十九條 此定則ニ矛盾スル從前ノ規則ハ總テ廢止トス

明治十六年五月日本銀行ヲシテ國庫金ノ料理ヲナサシムルコト、シ國庫納金取扱順序ヲ定メ其第六條乃至第十一條ニ於テ税金送納ノ事ヲ規定セリ其要旨左ノ如シ

一 送納通達 預リ金ノ送納ハ出納局長ノ達ニ基キ日本銀行ヨリ各國庫金取扱所へ通達ス可ク而シテ通達ハ東京附近ノ外ハ電信ヲ以テス且ツ各取扱所ニ於テ送納ヲナシタルトキハ日本銀行へ通報スヘク日本銀行ハ之ヲ出納局長ニ報告スルモノトス

二 送納方法 送納ハ爲替ヲ以テスルヲ本則トシ現金回送ヲナスハ特命ニヨル場合ニ限ルモノトス然レトモ爲替ヲ取組ミ難キ場合ニ至テハ手限現送ヲ許スナリ

三 送納期日 現金送納ノ場合ニ於テハ出納局長ヨリ特ニ送納ノ期日ヲ指示シタルトキハ其期日ニヨルヘク若シ判段ノ指示ナキトキハ其通達到著ノ翌日ヨリ三日以内ニ發出スヘキモノトス而シテ發出即日ヨリ一日十里詰ヲ以テ計算シ到達翌日ヲ以テ納付期日トス次ニ爲替送納ノ場合ニ於テハ其手形到達翌日ヨリ三日目ヲ以テ納付期日トス

後明治十九年三月歳入歳出々納規則ヲ定ムルニ及ヒ戶長ハ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ税金ヲ取纏メ翌日迄ニ之ヲ金庫ニ納付スヘキモノトシ關稅々關ノ諸收入及物品ヲ以テ徵收スルモノ其他郵便電信收入等ニ就キテハ現金ヲ各廳ニ於テ收納ス

ルコトヲ得ヘク各廳ハ之ヲ取纏メ一定ノ期限ニ金庫へ送納スヘキモノトス此ニ於テ先ニ制定セラレタル國稅金送納定則ハ廢止セラレタリ

是ヨリ先キ同年一月國庫金取扱所事務順序ヲ定ムルヤ其領收金ハ日本銀行ヨリ金庫局長ノ令達ヲ傳達スルニヨリテ送納ヲ爲スモノトシ之カ手續ヲ規定シ次テ明治二十年二月國庫金出納所ヲ設ケ其事務順序ニ於テ凡ソ領收セル現金ハ同所ノ支出基金ニ充ツルヲ元則トスレトモ時宜ニヨリ金庫局若クハ他ノ出納所ニ回送セシムルモノトセシカ明治二十二年十二月金庫規則ヲ制定シ國庫ニ於テ保管出納スル現金ハ總テ金庫ヲシテ之ヲ取扱ハシメ翌二十三年四月一日ヨリ之ヲ實施セリ此ニ於テ中央政府ニ對スル現金送納ノコトハ爾後全ク止ミ現金運轉ノコトタルヤ單ニ各金庫相互間ノ關係ニ止マルニ至レリ

第四章 出納整理

第一節 豫算手續

第一款 地方收支

明治元年八月七日府縣ニ令シテ官吏ノ月俸其他ノ經費ハ概計ヲ以テ租稅米金ノ額内ヨリ之ヲ充當支給シ租稅ヲ完納スルノ日ニ至リ明細勘定帳ヲ會計官ニ具進セシム今布告中ノ一節ヲ左ニ掲ケン

- 一 諸府縣月給其外諸入用凡積ヲ以テ租稅之内ニテ金穀儲ヘ置夫々取計致シ皆納之節會計官ヘ明細勘定帳差出候様可致事

明治二年二月五日府縣施政順序ヲ制定シ常年ノ租稅ヲ計較シテ應費額ヲ限定ス左ニ之ヲ披抄セ

明治二年二月五日 (行政官)

- 一 平年租稅ノ高ヲ量リ其府縣常費ヲ定ムル事
- 一 會計官ノ大急務量入爲出ノ基本トス(大綱)
- 一 施政ノ始切ニ戒ム可キハ聚斂ナリ民心未定ニ租稅ヲ議スレハ忽チ疑惑ヲ生ス故ニ租稅ノ事ハ最モ後ニ手ヲ下スヘシ大綱第二件ニ租稅ノ高ヲ量ルト記スハ舊貫ノ歲入ヲ知テ費用ヲ節スルヲ旨トス敢テ入費ヲ計テ租稅ヲ高低スルニハ非ルナリ末ニ改正ノ事ヲ出スヲ以テ知

ル可シ(追)

明治二年三月七日ニ至リ會計官東京出張所ハ太政官ニ對シ關東諸國ニ於ケル各縣廳ノ歳費ハ管轄石額十萬石以下ハ每一萬石ニ金一百兩十萬石以上ハ每一萬石ニ金五十兩ト限定シ且ツ從來經費月給共ニ租稅額内ヨリ領收セシムルモノハ今後會計官ヨリ別項ニ交付シ見有備置金ハ迅速ニ會計官ニ納進セシムルコトヲ稟議セリ今參考ノ爲メニ左ニ之ヲ掲ケン

東京支衛稟議ニ曰ク租稅司各縣廳ノ經費ヲ度支スル方法ヲ開陳スル者別款ノ如シ乃チ之ヲ審按スルニ頗ル允當ヲ得ルニ似タリ請フ簡裁シテ之ヲ施行スルヲ

租稅司立議ニ曰ク自今以後各縣廳ノ經費ハ管轄石額一十萬石以下ハ歳費額每一萬石ニ金一百兩石額一十萬石以上ハ每一萬石ニ金五十兩ト限定セン蓋シ維新以來縣廳ノ經費タル凡テ舊幕府ノ限定セル者ニ準依セリト雖モ官軍東征セシヨリ亡命不逞ノ徒恣睢橫虐郡村ヲ擾亂スルニ遭ヒ各地ニ吏員ヲ差撥シ縣下ヲ提警セシムル事百事繁劇ニシテ經費亦極テ夥多ト爲ス是ヲ以テ其費額ハ今日設立スル規則ノ比例ト爲ス可カラス即チ今各地漸ク靜謐ニ屬シ隨テ經費モ亦概定スルヲ得可キナリ因テ之ヲ稽核スルニ各縣臨時ノ經費ハ各自ニ異同有リテ之ヲ豫定シ難シト雖モ宜ク先ツ各縣月費支出ノ多寡ヲ推問シ平均總額ヲ以テ標準トナシ尙ホ支出各項ヲ加除シテ管轄石額一萬石ニ當ルニ金一百兩ヲ以テセハ則チ大ナル剩過不足無カルヘシ此ノ比例ヲ以テスルヤ一十萬石ニ當ルニ一千兩ト爲ス然ルニ舊幕府限定セル管轄石額一十萬石ニ金一千六百四十兩ヲ以テスルニ比擬スレハ則チ六百四十兩ヲ減殺スルニ似タリト雖モ是レ屬吏ノ資費竝ニ俸給ニ供充スル者トス然リ而シテ今一十萬石以上ノ縣廳權判事以下官吏ノ月給金即

チ人員二十一人ノ一歳ノ俸給合計四千一百四十兩ノ額内ヨリ舊幕府屬吏ノ資費俸給六百四十兩ヲ加除スレハ則チ實ニ三千五百兩ヲ増加ス是レ蓋シ維新ノ際別ニ官旨ノ在ル有リテ然ル歟且ツ夫レ陸羽地方諸縣ノ歳費額ハ一萬石ニ二百兩ト概算シテ支出セシムト聞ク之ヲ一萬石一百兩ニ比視スレハ超過スル有リト雖モ新政ヲ布クノ日其經費ノ夥多ナルハ亦已ムヲ得ザル者ナル歟宜ク日後百事端緒ニ就クヲ待チ而ル後ニ關東諸國ト一例ニ更定スルモ不可ナル無カラシ従來各縣ノ經費及俸給ハ租稅額内ヨリ發支セシムト雖モ今者之ヲ改更シ今後ハ毎次ニ本官ヨリ交付セハ則チ支出收入ノ區分明白ニ判定セン然ラハ則チ見今縣廳ニ準備スル經費金月給金ハ迅速ニ本官ニ納進セシム可シ

六月二十五日公廩ノ歳費額ヲ具申セシムルコトヲ定ム蓋シ同月十七日諸藩ノ版籍ヲ還納スル稟請ヲ允可シ舊藩主ヲ知藩事ト爲シ現石十分ノ一ヲ其家祿トシテ附與シ十分ノ九ヲ以テ藩政經費及士族ノ祿ニ供セシムルコト、爲セシヲ以テナリ同年七月二十七日ニ至リ太政官ハ縣廳ニ於ケル常備金額ヲ定メ其他常額歳費ヲ定メ之ヲ縣廳ニ貯蓄シ置キ緩急ニ應シ之ヲ支出セシム

一 府縣常備金

管轄石額五萬石ヲ以テ準率ト爲ス

金六百兩 每一萬石ニ金一百二十兩ノ換算

金二千兩 每一萬石ニ金四百兩ノ換算

合計金二千六百兩

一 廳内ノ諸費用官員管轄内巡視ノ旅費金縣掌以下ノ日給金等ハ管轄石額五萬石以下ハ每一

萬石ニ金一百二十兩即チ五萬石ニ滿レハ金六百兩ト爲ス六萬石以上ハ每一萬石ニ金一百兩
 一十一萬石以上ハ每一萬石ニ金五十兩即チ二十萬石ニ滿レハ金一千六百兩ト爲ス
 一 常額歳費ハ管轄石額五萬石以下ハ每一萬石ニ金四百兩即チ五萬石ニ滿レハ金二千兩ト爲
 ス六萬石以上一十萬石以下ハ每一萬石ニ金二百兩一十一萬石以上二十萬石以下ハ每一萬石
 ニ一百五十兩即チ二十萬石ニ滿レハ金四千五百兩ト爲ス之ヲ縣廳ニ藏貯シ以テ緩急ノ用ニ
 應シ之ヲ度支セシ後明注書ヲ具申シ若シ其事ノ例外ニ在ル者ハ每次民部大藏兩省ニ稟候取
 決ス

一 廳廡官宅獄舎ヲ創建スル如キ臨時費用ハ常備金ヨリ支消スルノ限内ニ在ラス其費用三分
 ノ一ハ官費ヲ以テ支辨シ其ノ二ハ管轄石額ニ賦課ス官宅ノ修繕ハ悉皆私費ニ屬セシム
 此ノ常備金ヨリ支出スヘキ費用ニ付テハ二年十二月二日ヲ以テ民部大藏兩省ヨリ註解ヲ與ヘ
 タリ

明治二年十二月二日 (民部省)

府

縣

當七月中府縣常備金規則御布告有之候處誤解イタシ候向モ有之哉ニ相聞候間尙又左ニ相達候
 常備金ノ内第一

一 金六百兩ノ廉

是ハ年々貢税ノ内ヲ以縣舍ニ備置筆墨紙蠟燭炭薪諸官員巡察諸向ヘ御用狀飛脚賃縣掌以下
 ノ月給等ニ遣拂過金有之候トモ不足ノ節ノ補ニ備置都テ流用取計ノ上高當リヨリ過上不相
 成様取賄年々過不足勘定ハ其縣限リニ仕上致シ置別段當省ヘ申出ニ不及候事

右同斷ノ内第二

一 金二千兩ノ廉

是ハ右同斷支配地ノ堤防橋梁道路等難捨置急破普請所ノ營繕ニ引充遣拂候ハ、其度々目論
 見帳ヲ以可相届其他都テ其事ノ緩急ニ從テ遣拂其年十月ヨリ翌年九月ヲ限仕譯書差出殘金
 有之候ハ、新帳ノ御勘定元ニ組不足相立候ハ、其節可相伺此餘縣舍破損修覆疊換等ノ入費
 ハ管轄ノ石高ニ分課可致候事

右ノ外御布告ノ通可相心得候事

後明治四年七月ニ至リ更ニ諸縣ノ常備金ヲ支出スル費目ヲ精密ニ規定セリ蓋シ當時ノ議案ニ曰
 ヘル如ク諸縣其ノ第一及第二ノ常備金ヲ以テ支辨ス可キ經費ノ件項ハ豫メ之レカ區別ヲ立定ス
 ル無ケレハ則チ諸縣ノ錄上スル勘定帳ヲ検査スルニ支障セントス因テ舊規ヲ參酌シ下項ノ如ク
 概別シテ以テ検査ニ便セントスルニアリシナリ

第一常備金ヨリ支發スル件項

第一 縣官ノ管轄内ニ派出シ巡回スル等ノ旅費金但タ捕亡ニ關スル者ノ費用ハ第二常備金ノ
 支發ニ屬ス

第二 仕丁以下ノ月給金

第三 本廳支廳ノ水夫厮丁ノ月給金竝ニ別給ノ資助金

第四 宿直員門監者倉監者夜不收者巡夜者等ニ支給スル飯食錢

第五 歳首及天長節ノ賜酒饌ノ費用

- 第六 公文書牒ヲ各衙廳ニ送發スル遞送費管轄内ノ市村ニ發付スル召勾文書ノ運費
- 第七 應用ニ備フル書籍地圖測量機械大小方儀分度渾發水繩度竿等及檢田ニ用ユル斗量尺竿運租船ノ旗章等ノ價直
- 第八 各種ノ營業准許鑑札ニ用ユル烙印ノ鑄造費
- 第九 廳内ノ鎮守神祠ノ祭祀供物ノ價直並ニ歲旦ニ廳門ニ松竹ヲ挿シ端午ニ屋簷ニ菖蒲ヲ挿ム者ノ價直及歲末ニ塵煤ヲ掃フ役夫ノ賃金
- 第十 文書簿冊ヲ藏貯スル長櫃藤蓆篋筒等ノ價直東京ノ官衙若クハ管轄地内ノ支廳ニ送發スル公文書牒及官用物品ノ運費
- 第十一 官用物品ヲ包裹スル柿澁紙桐油紙荏苳麻繩符牌油布等ノ價直
- 第十二 廳廡ノ創建修繕及落成以後ニ假廳ヨリ搬移スル文書物品ノ運費
- 第十三 廳室ノ遮陽棚若クハ遮雪棚ニ供用スル木板竹籬麻繩柿澁紙ヲ購買スル價直及襦褌ノ貼紙ヲ換糊スル等ノ費用
- 第十四 帳簿ヲ裝釘スル工費及細麻繩ノ價直
- 第十五 理匭ヲ新造シ若クハ補理スル費用
- 第十六 東京常候所ニ關スル分派ノ費用
- 第十七 宿直員ニ供給スル臥被蚊蠅ノ價直
- 第十八 應用ノ筆墨紙錐刀薪炭茶燈油蠟燭印章硯筭盤水注裁板裁刀砥礪書函火盆煙盤盥盆額盆椀箸銅鐘茶盤茶盆瓦瓶及厮丁ニ支給スル冒笠雨衣ノ類ヲ購買スル價直

- 第十九 訴訟ニ使用スル鐵尺縛繩手鎖訊杖其ノ他ノ拷掠ニ使用スル機械ノ價直
- 第二十 仕丁以下ノ吏胥ヲ解免スルノ日ニ於テ成規ニ照シ恩賜スル官祿米ノ價金
- 第二十一 廳廡ノ近傍ニ火ヲ失スル有リテ奔到救警スル者ニ支給スル賞勞費及飯食費
- 第二十二 探偵ニ關スル費用凡ソ管轄人民ノ褒賞責罰訴訟若クハ貢租ノ料理若クハ防材ノ提警ニ關スル費用ハ此ノ部内ニ屬ス但タ捕亡ニ關スル費用ハ第二常備金ノ支發ニ屬ス
- 第二十三 廳内ノ用水井浚清スル工費但タ新ニ用水井ヲ穿リ或ハ其桁欄ヲ修補スル費用ノ如キハ之ヲ管轄内ニ派課ス
- 第二十四 消防機械噴水器梯子水桶等ノ價直
- 第二十五 廳内ノ布幕銃炮鐵鍋長脚鑽留客住等ノ價直
- 第二常備金ヨリ支發スル件項
 - 第一 堤防橋梁道路ノ暴壞ヲ修理スル費用
 - 第二 官吏ヲ管轄外ニ係ル遠地ニ發差スル者ノ旅費金並裝資及ヒ其ノ家族ヲ挈移スル旅費金役地到着後三十日間ノ宿食錢並ニ月當資解免官吏ニ支給スル歸郷ノ旅費金滿二年以上奉職セル者ヲ解免スルノ日ニ恩賜スル絹布ノ價直
 - 第三 勤勞アル官員及ヒ孝子節婦義僕其他ノ篤行者ノ賞賜金若クハ高年者ノ養老金
 - 第四 鰥寡孤獨及ヒ水火ノ災害ニ罹ル窮民ヲ賑濟スル救助金
 - 第五 貢納金ヲ裝包シ及ヒ東京ニ輸送スル夫丁ノ雇直護運吏ノ旅費金逆旅夜警ノ費用
 - 第六 流刑人ノ資財

- 第七 道苑ヲ瘞埋スル費用
 - 第八 府縣遞送スル復籍人等ニ關スル費用
 - 第九 府縣互相ニ囚人ヲ押交シ及之レカ爲メニ官員捕亡吏等ヲ發差スル旅費金囚人ノ宿食錢
 - 第十 犯罪者ヲ捕拿スル爲メニ管轄内若クハ管轄ノ各地ニ官員捕亡吏ヲ發差スル旅費金
 - 第十一 捕亡吏警跡人等ノ体給金及ヒ職務ニ關シテ別給スル費資金若クハ捕拿ノ爲メニ傷痕ヲ被フル者ニ恤給スル資助金
 - 第十二 捕亡探偵ニ關スル費用
 - 第十三 無籍ノ囚人ニ支給スル衣食藥劑等ノ費用
 - 第十四 囚獄ニ消用スル薪、炭、油、茅、紙、草履、綿線、布針、苧麻、藥桶、水杓、苕帚、盥盤及ヒ拷訊ニ使用スル脰板、脰棒、脰石、踏板、訊杖、縛繩、鐵尺、手、棍棒等ノ器械ノ價直
 - 第十五 囚人ノ勾致ニ使用スル篋笠、竹轎、刑場ニ使用スル烏木、礮柱、礮鎗、斬首刀、絞刑器ノ費用
 - 第十六 徒刑人ニ給付スル各種ノ器具ノ價直但タ衣食ノ費用ヲ官給スル者ハ工業利益ノ額内ヨリ漸次ニ之ヲ償還セシム若シ夫レ別ニ徒場ノ役法ヲ設定シ常備金ヲ支發セサル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 第十七 廳廡官舎牢獄等ノ營造費ハ三分ノ二ヲ民費ニ屬シ一分ヲ官費ニ屬スル者ノ費金廳廡ヲ修理スル費用ハ管轄石額ニ賦課シ官舎ヲ修理スル費用ハ借住スル官吏ニ自辨セシム
- 明治四年十一月二十七日太政官達ヲ以テ縣治條例ナルモノヲ制定頒布シ常備金規則ヲ定メ常備金ヲ分テ第一及第二ノ二種トシ各其金額ヲ限定スルト共ニ其使途ヲ制限セルカ後五年五月二十

二日ニ至リ更ニ之カ規程ヲ改正セリ

常備金年々大藏省ヨリ渡之

第一 金千六百兩

第二 金四千五百兩

右二十萬石高目安

第一常備金ハ縣廳ノ諸費其他官員巡察入費並使部以下ノ月給等ニ可充事

但二十一萬石ヨリ四十萬石迄ハ一萬石ニ付金五十兩ヲ增則二千六百兩トス四十一萬石ヨリ

以上ハ萬石ニ付三十兩ヲ增五十萬石則二千九百兩トス都テ目安ヲ以照準スヘキ事

第二常備金ハ管下堤防橋梁道路等難捨置急破普請等ノ入費ニ可充事

但二十一萬石ヨリ四十萬石迄ハ一萬石ニ付金百五十兩ヲ增則七千五百兩トス四十一萬石ヨ

リ以上ハ一萬石ニ付金百兩ヲ增五十萬石則八千五百兩トス總テ目安ヲ以テ照準スヘク右費

用ハ其時々緩急ニ從テ取計ヒ濟ノ上明細書ヲ以大藏省ヘ可相達事

縣合官員居宅竝牢屋創立等臨時費用ハ常備ノ例ニ非ス三分一ヲ官給シ自餘ハ管轄ノ石高ニ分

課スヘシ最官員ノ居宅取繕等ハ可爲自費事但管内市街多分ノ地方ハ割合方別段見込相立可伺

出事

右之通當分被定候事

辛未十月

太 政 官

第一常備金ハ縣廳ノ諸費筆紙墨蠟燭薪炭官員巡察諸向往復飛脚賃使部以下月給ニ遣拂過金有

之候共不足ノ節ニ備ヘ置都テ流用取計ヒ過不足勘定ハ其縣限ニテ届出ルニ不及事
 第二常備金ハ本文之通急破普請ノ入費ニ充テ其度々目論見帳ヲ以可届出其他窮民一時ノ救助
 等都テ事ノ緩急ニ依テ遣拂其年十月ヨリ翌年九月ヲ限リ仕譯書差出殘金有之候ハ、新帳ノ元
 ニ組込不足相立候ハ、可伺出最モ縣合破損修覆等ノ入費ハ管轄ノ石高ニ分課可致事
 右之通可相心得事

辛未十月

大藏省

明治五年五月二十二日

縣治條例之内常備金規則以下別紙之通更ニ被相定候條此旨相達候事
 (別冊) 常備金規則

第一 縣廳ノ諸費及官員巡察竝他方出張ノ入費等外月給其他牢内等ノ費用ニ供ス
 但不足ノ節ハ遣拂仕譯書照定規程ニ以伺出ヘシ

右

二十萬石迄	萬石ニ付	金八十圓
二十一萬石ヨリ	同	金五十圓
四十一萬石以上	同	金三十圓

第二 管下堤防道路橋梁ノ急破修繕竝臨時輕賞水火災救助等暫時モ難擱急務ニ供ス尤臨時拂
 出候共速ニ清算帳又ハ目論見帳若金穀貸渡候節ハ明細書ヲ以申立右拂出ノ金高別段大藏省
 ヨリ受取償戻シ將來ノ急務ニ充ヘシ

右

二十萬石迄	萬石ニ付	金二百二十五圓
二十一萬石ヨリ	同	金百五十圓
四十一萬石以上	同	金百圓

縣舍竝牢屋創立等ノ入費ハ三分ノ一ヲ官給シ自餘ハ管轄ノ石高ニ分課スヘシ尤修復ノ入費ハ
 悉皆石高分課タルヘキ事但管内市街多分ノ地方ハ割合方別段見込相立可伺出事
 定額竝臨時諸費租稅米金ヲ以差繼相渡候節ハ大藏省ヨリ切手可相渡候條右切手ハ追テ租稅ノ
 内ニ差加可相納候尤諸稅竝拂品代諸料料等ニ至迄悉皆上納可致儀ニ付相渡候切手ノ外其管轄
 所限リ遣拂候儀ハ一切不相成候事但贖金之儀ハ兼テ相達候通司法省ニ可相納事
 右之通當分相定候條本年十月ヨリ翌年九月ヲ限致決算殘金有之候ハ、大藏省ニ相納可申委細
 ハ勘定帳難形ニ照準可取計事

壬申五月

太政官

常備金算則

管轄高四十五萬五千五百五十石

第一常備金二千七百五十圓

此譯

高二十萬石

此金千六百圓 但萬石ニ付金八十四

高二十萬石
此金千圓
但二十一萬石ヨリ四十萬石迄同金五十圓

高五萬石
此金百五十圓
但四十一萬石以上同金三十圓

第二常備モ準之

然ルニ地方事務ノ益多岐ニ涉ルニ伴ヒテ經費自ラ増加シ到底以上ノ定額ニ依ルコト能ハサルノミナラス人口ノ多寡ヲ顧ミス單ニ舊石高ニノミ基キテ標準ヲ立ルハ妥當ナラサルカ故ニ明治六年七月大藏省ヨリ太政官ニ改正ノ儀ヲ上申シテ曰ク

今般石高之稱被廢候ニ付キ府縣ノ諸費及官員等定額ノ標準設立不致候テハ分裂合併等有之節差支候ニ付向來割賦ノ方法等實際精査仕候處元來地方ノ景況ニ於テ土地廣漠ニシテ人口稀少ノ場所アリ或ハ人口夥多ニシテ狹隘ノ地所アリ其事務ノ繁閑ハ素ヨリ土地ト人口ト人口ニ關涉候儀之處從前ノ如ク土地而已ヲ以テ目的ト致候ハ不適當ニ付更ニ土地ト人口トヲ以テ目安トシ常備金官員等割賦取調候處別紙之通ニテ從前ニ見合常備官員共相増候得共兩様共是迄不足ノ趣ヲ以テ増員又ハ常備金不足等相渡來候儀ニ候間彼是御參酌ヲ以テ御決定有之度云々

ト以テ改正ノ要旨ヲ知ルニ足ルヘシ而シテ今十月二十日發布ノ改正規則ヲ舉クレハ左ノ如シ

太政官第三百五十三號(布告) (明治六年十月二十日)

府 縣

先般石高之稱被廢候ニ付地方諸費並官員等土地ト人口トヲ以テ準據トシ更ニ向來割賦ノ規則左ノ通改定候條其施設方法ハ大藏省へ可伺出此旨相達候事

官員及常備金割賦規則 (官員ノ部ハ之ヲ略ス)

第一常備金

段別 二萬町以上	千町ニ付	金三十圓	二萬町ニテ	金六百圓
人口 二十萬人以上	一萬人ニ付	金六十圓	二十萬人ニテ	金千二百圓
合金 千八百圓	段別 二萬町ノ目安	人口 二十萬人		
段別 一萬町以上	千町ニ付	金二十圓	四萬町ニテ	金千圓
人口 十一萬人以上	一萬人ニ付	金四十圓	四十萬人ニテ	金二千圓
合金 三千圓	段別 四萬町ノ目安	人口 四十萬人		
段別 八萬町以上	千町ニ付	金七圓	八萬町ニテ	金千二百八十圓
人口 八十一萬人以上	一萬人ニ付	金十五圓	八十萬人ニテ	金二千六百圓
合金 三千八百八十圓	段別 八萬町ノ目安	人口 八十萬人		
段別 八萬町以上	千町ニ付	金五圓		
人口 八十一萬人	一萬人ニ付	金十圓		

右ノ割賦ノ算則トシ管轄段別人口ノ多寡ニ依リ金額ヲ定ムヘシ

但段別ハ町位人口八十位以下切捨割出シノ上一圓以下ノ端金ハ勿捨タルヘシ

右常備金ハ縣廳ノ諸費其他官員管内巡察旅費並使丁月給小使水夫給料等ニ可充事

第二常備金

段別四萬町

金二千五百圓

人口四十萬人

金五千圓

合金七千五百圓

右ヲ段別四萬町人口四十萬人ノ定數トシ段別四萬千町以上ハ千町ニ五十圓ヲ増シ四萬町未滿ハ千町ニ付六十三圓ノ割合ヲ以算定シ人口四十一萬人以上一萬人ニ百圓ヲ増シ四十萬人未滿ハ一萬人ニ付百二十五圓ノ割合ヲ以金額ヲ定ムヘシ但段別町位以下列捨等ノ件ハ第一常備金ニ異ナルナシ

右常備金ハ水火災救助等一時難捨置モノ及大藏省ノ達ニヨリ繰換支出ストイヘトモ右金額ハ毎三箇月精算シテ領取填償スヘキ事トス

官員及常備金トモ段別人口ノ多寡ニヨリ一旦決定シタル後新タニ段別二千町人口二萬人以上ノ増減アレハ其由ヲ申請シ額員ヲ改ムヘシ最分合配置アルハ此限ニ非サルヘシ

(常備金割賦表略ス)

然ルニ右規程發布後一句ニシテ十月三十日ニ至リ本月第三百五十三號達書御詮議ノ次第有之取消候條此旨相達候事ト府縣ニ令シタリ而シテ十二月二十七日ヲ以テ府縣金穀出納順序ヲ定メ常備金ノ名稱ヲ改メテ第一常備ヲ常費第二常備ヲ豫備凡積置米金ヲ概費トナシ第二常備ヲ以テ支

辨シ及ヒ臨時ニ支給スル費用ハ概シテ臨時費トナス

明治六年十二月府縣金穀出納順序ヲ制定發布スルニ及ヒ始メテ豫算調製ニ關スル規定ヲ設ケ毎年十二月ニ至リ翌全年ノ經費概算表ヲ大藏省ニ於テ編製シ正院へ上申可致答ニ付各廳所管一切ノ費用翌年ノ目的ヲ立常費臨時費ヲ區分シ詳明ニ列載セル概算帳ヲ作り十一月十五日限同省へ送致スヘシトセリ是レ實ニ豫算ノ方法ヲ各廳ニ施行シタルノ始ナリ

次テ七年十月會計年度ヲ改正シテ收支錯雜ノ虞ヲ除キシカ更ニ該出納期限ノ改正ニ伴ヒ益々收支ノ整理ヲ計ランカ爲メ明治八年三月十四日府縣ニ令シ毎年度程式ニ照準シテ一周年間ニ於ケル收入經費總額豫算書ヲ差出サシメ經費概算帳ハ之ヲ廢止セリ而シテ一般經費ヲ定額常費額外常費及臨時費ノ三大目ニ區分シ每歲費額ヲ定メ毎月若クハ每半箇年(東京府ハ每月其各廳ニ交付スルモノヲ定額常費トシ每歲費程ヲ豫算シ費額ヲ確定セス每件其事由ヲ詳悉シ每時成規ニ從ヒ大藏省ニ請求スル平常ノ費用ヲ額外常費トシ營繕費ニシテ金一萬圓以上ヲ要スルモノ及土木費ニシテ金一萬五千圓以上ヲ要スルモノヲ臨時費トシ其他非常ノ支費ヲ要シ之ヲ臨時費ト定ムルトキハ其旨該廳ニ豫達スルモノトシ且此等經費ニ付各大小科目ヲ設ケ經費概目竝ニ經費概計表及内譯明細簿ヲ調製スルノ順序ヲ定メタリ即經費概計表ハ一會計年度中支出スヘキ金額ヲ統理概算レテ之ヲ記入シ且三箇月毎ニ實際支員數ヲ掲ケテ其増減ヲ示シ一箇年五葉ノ計表ヲ差出スヘキモノトス而シテ經費ノ額ヲ定メ或ハ之ヲ豫算スルハ各科目及小科目ニ依リテ之ヲナスモノニシテ從テ各科目ハ勿論小科目ノ金額ト雖モ相互ニ流用スルヲ得サルモノトス其他收入金穀概計表ヲ編成スル順序ヲ定メ一歲中ノ收入金穀ノ多寡ヲ統理概計シテ之ヲ登記シ而シテ毎三

月ニ收入ノ現實額ヲ記入シ概計ノ金額ト比較シ二歳ノ計表凡ソ五葉ニシテ比較ノ全キヲ見ルモノトセシコト經費ノ場合ニ同シ左ニ其全文ヲ掲ケン

太政官達第三十六號 (明治十八年三月十四日)

府

縣

金穀出納期限釐正ノ儀明治七年十月十三日相達候ニ付テハ百般ノ收入及ヒ經費等一周年ノ總額ヲ豫算シ本年ヨリ毎歲(會計年度)別冊雜形ノ通り計表其外帳簿共期限ヲ遠ヘス大藏省へ可差出此旨相達候事

但雜形ノ内科目簿ハ差出ニ不及且明治六年(十二)四百二十七號布告金穀出納順序第十一條ニ掲ケル經費概算帳ノ儀ハ爾後廢止シ明治七年十月十三日達第一條勘定帳差出期限ノ儀ハ別表ノ通可相心得尤明治八年分第一葉計表及ヒ内譯明細簿ニ限リ達到著ノ日ヨリ三十日ヲ限リ該地ヲ差立ヘキ事

一 本年ノ儀ハ順序創定ノ際且第一葉計表ニ附添スル内譯明細簿等送達期限モ差迫居候ニ付雜形ノ如ク調成ニ至リ難キ向ハ明治八年分經費豫算内譯明細簿ニ限リ大科目(給與或ハ給與中)及小科目(給與ノ内官員月俸諸給與中費)ノ金穀ヲ區分掲載候迄ニテ小科目中ノ細目(官員月俸任職任列任ヲ分ツノ類ヲ云フ)ノ給與(給與中)ノ金穀ヲ區分掲載候迄ニテ小科目中ノ細目(官員月俸任職任列任ヲ分ツノ類ヲ云フ)ヲ區分スルニ不及來ル明治九年分ヨリハ總テ雜形ノ通取調可差出事

(別冊)

收入金額概計表ヲ製スルノ順序

第一款 此表ハ一歲中(即會計ノ一歲ニシテ其年七月ヨリ以下做之)收入金穀ノ多寡ヲ統理概計シテ之ヲ登

上シ猶三箇月毎ニ現實收納セシ員數ヲ嵌シ其此ヲ第一葉即最初差出ス處ノ計表ニ記載スル凡積ノ該額ニ取リ一箇年五葉ニシテ比較ノ全キヲ見ルヘシ

第二款 第一葉ノ概計表ハ一歲收金穀ノ多寡ヲ參查商量シ遺漏ナク掲記スヘシトイヘトモ此計表ヲ差出スノ後諸稅ノ興廢等ニ隨ヒ納額ノ増減スルアレハ三箇月毎ニ其多寡ヲ添加削減スヘシ但事故アリテ租稅等ノ延納ニ涉ルノ類ハ該年ニ屬スルヲ以テ本年ノ部中ニ加フヘカラス

第三款 一箇年五葉ノ内第一葉ハ前年ニ於テ翌年一歲ノ概計ヲ調理シ第二葉ハ七月ヨリ九月マテ第三葉ハ十月ヨリ十二月迄第四葉ハ一月ヨリ三月マテ第五葉ハ四月ヨリ六月マテ毎三箇月間ヲ合計スヘシ但本文五葉ノ差出期限ハ帳簿差出期限表ニ詳ナリ

第四款 表面ノ書式ノ體裁ハ左ニ起リ右ニ推歩シ縱ハ八區ニ分別シ横ハ若干段ニ分界ス其第一區ハ收入ノ品目ニシテ其細目ヲ分段シ第二區ハ一歲收入スヘキ員數ヲ掲ケ第三區ハ七月以降諸稅及諸收入ノ新タニ納付スヘキモノニシテ第一葉ノ目途高ヨリ増加スルモノヲ掲ケ第四區ハ第一葉ヲ差出ノ後諸稅及諸收入ノ科目ヲ廢シテ納額ノ減耗スルモノヲ掲ケ第五區ハ右三區中ノモノヲ每段差引合計シ第六區ハ七月ヨリ以降每三箇月現實收セシ金穀ヲ大藏省へ納付スルノ員數ヲ舉ケ第七區ハ凡積ト實納トノ比較ニシテ内二區ニ分チ甲ハ實納ノ凡積ヨリ多キ高ヲ示シ乙ハ實納ノ凡積ニ及ハスシテ削減セシ員數ヲ舉ケ第八區ハ第一葉ニ掲記スル豫算合高ノ内ヲ漸次納付シタル員數ヲ引去リ爾後納入スヘキ員數ヲ舉ケヘシ但本文七區ノ凡積ヨリ多キ高竝及ハサル高トハ譬ヘハ地租ノ收額ヲ第一葉二十萬石ト見積ルモ實

納ノ際ニ方リ十一萬石ニ登リ九百石ニ下ル如キ納額ノ既定或ハ皆納ニ至ルノ後月途ノ該額ト増減スルノ多寡ヲ比較スル爲ニ此一區ヲ設クルナレハ第二款ニ掲クル諸税ノ與廢ニ隨ヒ納額ノ増減アルト同視ス可カラス且第一區ニ掲クル諸雜税ノ如キハ諸税ヲ併セテ一科目ヲ設クルモノナレハ此科目中ノ諸税ニ於テ増額アルトキハ租税等ノ與ニ因リ生シタルモノハ其増額ハ第三區減額ハ第四區ニ記入シ納額ノ既定等ニ依リ生シタルモノ、増額ハ第七區ノ甲部減額ハ乙部ニ記入シ増減差引高ヲ掲クヘキニアラス且第一葉ノ計表ニハ縦ノ二區ヲ限リ三區以下ハ除クヘシ

第五款 第五葉ノ計表ヲ差出ノ時ハ地租其他諸收入トニ皆納ノ後ニ在レハ未納高ナルモノハ必スアルヘカラスト雖モ不得止事故アリテ延納スルトキハ第五葉ノ計表ハ期限ノ如ク差出シ翌年第二葉以下計表差出ス時難形ノ如ク第五葉ノ副表ヲ製シ其高ノ皆納ニ至ル迄ヲ限リトシ差出スヘシ

第六款 地租ノ改正ニ至ラサルモノハ渾テ枡量ヲ掲ケ朱字ヲ以テ正米納見込ノ分ハ米額ヲ以テシ石代納見込ノ分ハ石代ヲ付スヘシ而シテ此計表ヲ製スルノ際其年ノ石代金未定ナルカ故ニ前五箇年ノ石代平均相場ヲ用ヒ(相場ハ明治八年ノ概算ナレハ七年ヨリ以前五箇年ノ石代額年ノ比較ヲ取リ離シトスルヲ壬申年ヨリ甲戌年マテ三箇年ノ比較)相場ノ定マルニ從ヒ増減ヲ第六區中ニ掲載スヘシ但實際上納ノ時ニ當リ石代納ナルモ枡量ヲ掲ケ朱字ヲ以テ石代ヲ付スル本文ニ同シ故ニ如此ハ墨朱ノ二行書タルヘシ

第七款 地租其他ノ收入物品ヲ登記スルノ順序ハ收入概目ニ掲記スル科目ニ照準シ前五箇年

或ハ前一箇年(前々年七月ヨリ前年十二月マテ概見ル)ノ收額ヲ比照シ本年ノ景況ヲ參酌シテ調製スヘシ但明治八年七月ヨリ九年六月迄ノ概計ハ前五箇年ノ比較ヲ取リ難シトスルヲ以テ壬申年ヨリ甲戌年マテ三箇年ノ比較ヲ取リ爾後一歲毎ニ一箇年ヲ増シ且前十八箇月ノ平均ヲ取ルモ明年八月七月ヨリ二箇年分ハ前一箇年(七月一日ヨリ十二月迄)ノ比較ヲ取リ爾後總テ本文ノ通タルヘシ

第八款 第一葉ノ概計表ハ一歲收入金穀ノ多寡ヲ豫定スル爲ニ差出ス處ノモノニシテ最緊要ナルハ收入概目ニ掲記スル科目ニ照準シ別冊難形ノ如ク内譯明細簿ノ金額ヲ計表ニ登記スルノ順序ハ其難形ニ就テ見ルヘシ但第一葉ヲ差出スノ後第二款及第四款ニ掲ル如キ該額ノ増減アルハ其増減ヲ記載シタル内譯簿冊ヲ難形ノ如ク製成シ計表ニ添差出スヘシ

第九款 通貨ハ圓ヲ一位トシ枡量ハ石ヲ一位トシ碎數ハ三位ニ止ルヘシ大數ハ必ス「」ヲ以テ四位トトニ票シ之ヲ分ツヘシ

諸收入物品科目名簿

一 地租

田畑宅地ノ税 山野税

凡ソ右等ノ類ニテ總テ地所ニ屬スルノ税ハ此部ニ編入シ前五箇年實額ヲ平均シ其年地券ニ變換スヘキノ目途ヲ參查シテ納額ヲ預定スヘシ

地券税

從前ノ收額ト其年地券ニ變更スヘキ景況ト枡量シテ目途ヲ定ムヘシ

以上數種ノ納額ヲ以地租ノ收入トシ雜形ノ如ク内譯明細簿ニ登上スヘシ

一 印紙稅

證券印紙稅 證券界紙稅 以上二點ハ前十八箇月(即前々年七月迄ヲ云以下之ニ倣フ)ヲ平均シテ割出セル一箇年ノ納額ト本年ノ景況トヲ斟酌シテ目途ヲ定ムヘシ
生絲印紙代 其外 生絲印紙代 繭印紙代 真綿印紙代 生絲賣買鑑札料 蠶種印紙稅 以上前ニ同シ

一 祿稅

官祿稅 七等官以上官員ノ多寡ヲ算定シテ目途トスヘシ
家祿稅 華族士族ノ現祿高ヲ算定シテ目途トスヘシ

一 地所拜借料其外

地所拜借料 河岸場拜借料 温泉場拜借料 池拜借料 下草料 池魚料 松茸料 砥石料 以上八點ノ如キ類ニシテ内務省ニ納ムヘキモノハ此部ニ編入シ前五箇年ノ收額ヲ平均シ其年ノ景況ヲ斟酌シテ算出スヘシ且ツ開港場アル府縣ハ各開港場開港市場外國人民官地拜借料モ此内ニ算入シ之ヲ算出スルノ方ハ前年ノ收額ヲ目途トシ猶其年ノ景況ヲ參酌スヘシ

一 船稅 五十石以上船稅 舢舨船海川小廻船稅

以上前十八箇月ノ收額ヲ目途トシ猶本年ノ收入ヲ參酌スヘシ

一 車稅 馬車(二匹立以共) 荷積馬車 人力車(二人乘共) 牛車 荷積大七大八車 荷積中小車(六以下)

以上六點ハ本年稅額ヲ變更スルヲ以テ其景況ヲ參酌シテ目途ヲ立テ以後ハ前例ニ倣フヘシ

一 銃獵稅

前一箇年ノ收額ヲ目途トシ其年ノ景況ヲ參酌スヘシ

一 牛馬賣買免許鑑札稅

前ニ同シ

一 碇泊稅並ニ免狀手數料

前十八箇月ノ比較ヲ取ル船稅ニ同シ

一 酒類稅 酒造營業稅 酒類請賣營業稅 酒類釀造稅

以上本年稅額ヲ變更スルヲ以テ其景況ヲ審查參定シ目途ヲ立テ以後ハ銃獵稅ニ倣フヘシ

一 煙草稅

此稅ハ明治九年一月ヨリ新ニ興ルヲ以テ稅則ノ頒布アルニ隨ヒ前例ニ倣フテ内譯明細簿ヲ

作ルヘシ

一 諸雜入

量出米 出缺差引量出ニ屬スルノ目途ヲ定前十八箇月間ヲ平均シ割出セル一箇年ノ收額ヲ比較ス

ヘシ

地所拂下代 官舍拂下代 官林斫木竹拂代 官廳不用物品拂代 官舍拜借料金 官庫拜借料

以上六點其年ノ景況ヲ參酌シ之ヲ算出スル方上ニ同シ

右件々ハ收入スヘキ物品ノ科目ヲ概記スルノミナレハ此他收入スヘキ廉アラハ此書式ニ倣ヒ一ト廉限リ該額ヲ豫定シ豫算内譯簿竝ニ概計表ニ記入スヘシ

經費概計表及内譯明細簿ヲ製スル順序

第一款 經費概計表モ收入概計表ノ如ク一歲中^{會計年度}以下^{以下年度}之^コ支出スヘキ金額ヲ統理概算シテ之ヲ登上シ猶三箇月毎ニ大藏省ヨリ請取リタル員數ト實際支出スル員數ト其經費ノ増減トヲ揭ケテ其比ヲ第一葉即初頭差出ス所ノ計表ニ記載スル凡積ノ該額ニ取リ一箇年五葉ニシテ比較ノ全キヲ見ルヘシ

第二款 一葉ヨリ五葉ニ至ルノ計表差出期限及書面ノ書式體裁數位等ノ件ハ收入概計表ニ異ナルコトナシ

第三款 表面ノ第一區ハ費額ノ細目ヲ段別シ第二區ハ一區ノ費目ニ屬スルモノ、員數ヲ揭ケ第三區ハ費額ノ増加スルモノニシテ七月以後許可ヲ經テ新ニ事業ヲ興スニ因リ増額スルノ員數ト事業ノ興ラサルモ最初即第一葉ニ掲記スル目途高ヨリ増加スルニ因リ許可ヲ經テ領受スヘキノ員數トヲ掲載スヘシ第四區ハ總テ第三區ニ反シテ減額スルノ員數ヲ揭ケ第五區ハ増減ヲ差引シタル合計ヲ揭ケ第六區ハ目途高ノ内大藏省ヨリ請取タル員數ヲ舉ケ第七區ハ實際支拂タル員數ヲ舉ケ第八區ハ甲乙ノ二區ニ分チ甲ハ大藏省ヨリ請取リタル員數ト目途高トヲ差引乙ハ實費ト目途高トヲ差引シタル高ヲ舉ケ第九區ハ一旦拂出タル金額ノ内仕切精算ニ至リ難ク假拂ニ屬スルノ員數ヲ舉ケ第十區ハ仕拂殘金ノ大藏省ヘ納付シタル員數

ヲ舉クヘシ故ニ第一葉ノ計表ハ二區ニ止リテ三區已下ハ省クヘシ但本文第三四區ノ目途高ヨリ増減スルモノハ事業ノ興廢ニ隨ヒ必無シトスヘカラサルヲ以テ區ヲ設ケ萬一ニ備ヘサレハ第一葉ヲ差出スノ際ニ方テハ一歲經費ノ多寡ヲ審査按算シ遺脱或ハ目途ノ大差ナキヲ要ス

第四款 第五葉ノ計表ハ諸經費ノ勘定仕上ニ至リ歲尾ノ勘定帳^{其年四月ヨリ六月マ}ト共ニ差出スヘキモノナルカ故ニ請取高ノ内仕拂殘金アルトキハ之ヲ大藏省ヘ返償シ決算完結ナルヲ要スト雖モ假拂金額ノ内其年中仕切精算ニ至リ難ク許可ヲ經テ翌年ニ至リ勘定仕上ニ屬スルノ員數ハ雛形ノ如ク第五葉ノ副表ヲ製シ其高ノ決算ニ至ル迄限リトシ翌年第二葉以下ノ計表ト共ニ差出スヘシ

第五款 第一葉ノ計表ハ一歲經費ノ多寡ヲ豫定シ一般歲入出ノ目途ヲ立ツル基礎トスル爲メニ差出ス處ノモノニシテ最緊要ナレハ別冊雛形ノ如ク内譯明細簿ヲ製シ計表ニ添ヘ差出スヘシ而シテ前十八箇月平均或ハ前一箇年ノ比較ヲ比照スルハ收入計表ノ順序ニ異ナルナシ但シ第二葉以下ノ計表ニ添ユル内譯簿モ收入ニ異ナルナシ

第六款 概計表ニ添付スル内譯明細簿ハ本廳支應ヲ區分シ掲記スヘシト雖モ其金圓ヲ概計表ニ登上スル譬ヘハ本廳ノ内ニ應中費アリ支應ノ内ニ又應中費アル等ノ類ハ此費額ヲ合計シテ登錄スヘシ

第七款 凡ソ經費凡積中通貨ヲ以テ算出スルモ第二三葉以下ニ至リ米穀ヲ買入以テ仕拂ヲナシ米穀ナルモ之ヲ賣却シ代金ヲ以テ仕拂ヲナシ通貨ヲ洋銀ニ換ユルノ類總テ交換シテ以テ

費用ニ充ツルモ凡積ノ品類ヲ書記シ而シテ實際仕拂ノ金米ハ朱字ヲ以テ其段中ニ掲クヘシ故ニ如此ハ一段中墨朱ノ二行書タルヘシ

各府縣經費概目

各府縣經費概目例言

- 一 一般ノ經費ヲ大別シテ三トス則左ノ如シ
- 一 定額常費
- 一 額外常費
- 一 臨時費
- 一 毎歳費額ヲ定メ毎日或ハ毎半箇年(東京府ハ毎日其他ハ毎半箇年)各廳ニ交付スルモノ之ヲ定額常費トス但シ定額常費ヲ以テ仕拂經費ト雖モ其事業ニ於テ許可ヲ經ヘキ條件ハ從前定規ノ通タルヘシ
- 一 毎歳費程ヲ豫算シ費額ヲ確定セス毎件事事由ヲ詳悉シ時々成規ニ從ヒ之ヲ大藏省ニ請求スル平常ノ費用ヲ額外常費トス
- 一 臨時費ハ凡概目ニ掲クル如シト雖モ他ニ非常ノ費途ヲ要シ之ヲ臨時費ト定ムルトキハ其旨該廳ヘ豫達スヘシ但臨時費中各科目及小科目等ハ概ネ定額常費及ヒ額外常費中ノ科目ニ照準シテ之ヲ部分スヘシ
- 一 各費中各科目(給與中費等ノ如キ大科目ヲ云フ)及小科目(小科目トハ給與中費中需用費運送費等ノ類ヲ云フ)ニ應シ費途ヲ別ツテ其額ヲ定メ或ハ之ヲ豫算ス故ニ各科目ハ勿論小科目ノ金額トモ彼是流用ス

ルヲ許サス(暫ハ給與ノ金額ト應中需用費運送費等ノ金額ヲ流用シ或ハ給與中官員月給ハ旅費等ノ金額ヲ類尤小科目中細目ヲ細目トハ野ハ官員月給ノ内勅任委任判任月給)ノ金員ハ彼是流用スルモ妨ケナシ但實際ノ都合ニ依リ各科目及ヒ小科目ノ費額ヲ流用セントスルトキハ其旨ヲ詳悉シ大藏省ニ申請スヘシ

- 一 毎歳費額確定後ニ與ル常費ハ其年ノ費用ヲ會計年度額外常費トシ翌年ヨリ之ヲ定額常費ニ編入スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ前以テ其旨ヲ公達スヘシ
- 一 額外常費ハ概畧其科目ヲ示スノミナレハ定額常費及臨時費ニ非ラサル經費ハ總テ額外常費トス尤其科目ノ部分ハ總テ他ノ科目ニ照準シテ部分スヘシ
- 一 各科目中百般ノ經費ハ其類似スルモノヲ以テ小科目中へ分入スヘシト雖モ類似ナキ費用ハ雜費ノ小科目ヲ設ケ該目中へ分入スルモ妨ケナシトス
- 一 遷卒費ハ外國人居留地ニ設置シタル(神奈川縣下橫濱居留地ニ設ケルモノニシテ)一般捕亡費外ノ經費ナリ故ニ捕亡費中ヲ以便宜遷卒等ヲ置クノ類ハ捕亡費中ニ編入スヘシ(從前民費ヲ以テ遷卒捕亡等課設置シ或ハ捕亡費ノ不足ヲ民費ニ課スル等ノ分ハ本文ノ外タルヘシ)但居留地ト雖モ一般捕亡費ノ内ヲ以支拂來リ候分ハ捕亡費中ニ編入スヘシ
- 一 經費概目ハ各府縣一般ノ費目ヲ示スモノナレハ甲ノ府縣ニアリテ乙ノ府縣ニナキ費用夥多アリト雖モ(暫ハ開港開市場アル府縣ニ限官月給或ハ)右等ノ如キハ各府縣從前ノ仕來ニ倣ヒ有無斟酌取捨テヘシ
- 一 神宮及官國幣社經費概目ハ附録ノ通部分スヘシ尤營繕費或ハ需用費等十圓未滿ノ分ト雖

モ所轄府縣ノ許可ヲ經ル等ハ總テ從前ノ通タルヘシ但各科目及小科目ノ金額彼是流用ヲ許サ、ルハ第五項但書ニ異ナルヘシ

一 貸付金或ハ交換金等ハ眞ノ消費ニアラサルヲ以之ヲ概目中ニ掲ケスト雖モ素ヨリ他ノ費目ト混淆セシメス判然之ヲ區別スヘシ

一 此經費概目ハ大藏省ヨリ受取同省ヘ直ニ勘定仕上可致經費ノ概目ヲ掲ク故ニ他ノ所管ノ省寮ヨリ受取(受取方ノ順序ハ其省)定仕上(豫算額未盡ヲ以)可致分ハ其省寮ノ規程ニ照準シテ科目ヲ分ツヘシ

一 營繕費ハ一廉官費五百圓未滿ヲ以テ定額常費トス故ニ五百圓以上一萬圓未滿ノ費用ヲ要スルアラハ之ヲ額外常費トス何レモ内務省ヘ勘定可仕上部分ニ付キ豫算内譯帳ノ末エ朱ヲ以外書ニ記載スヘシ

一 土木費ハ一廉官費一萬五千圓未滿ヲ以テ定額常費トス其額ヲ超ルモノハ臨時費トス尤豫算内譯帳ヘ朱記スル等ハ營繕費ニ異ナルナシ

各府縣經費概目

定額常費

給與

官員月給勅奏判任官員月給(增官員月給及免職後舊官事務取扱等ノ月給トモ)
等外月給 等外一等ヨリ六等迄ノ月給同上
譯官月給 一等譯官ヨリ七等譯官迄ノ月給

陵墓掌以下月給 陵墓掌陵丁墓丁月給

雇月給 御用掛無等ノ出仕或ハ雇抱等ノ名義ヲ以テ出仕セシムル者ノ十五等以上ニ當ル月給

諸雇給 寫字生通辯府縣本廳支廳門番倉庫番使部仕丁税關小蒸汽船器械方及水火夫同外

國船注進番給仕小使等總テ雇給一箇月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモノ、給料(日給)
種ハ金額ノ多寡ニ不銀行手數料官金取扱給料醫師臨時雇給評價人雇給(物品等ノ價ヲ)倉
庫枘取雇給藏米出入人足賃諸職工賃(替替ニ付雇入ノ諸職)消防等ノ爲メ足留人足賃(定

時)傭人足賃(管外ニ務ル御用狀)車船等雇料(物品運給ニ屬スル雇人足賃及車馬)
右等ノ如キ種々ノ雇料ヲ類聚ス

内國旅費 官員等外譯官陵墓掌陵墓丁御用掛無等ノ出仕雇抱等ノ者及給料十二圓未滿雇
ノ者等本務公事ニ付内國各地出張巡回在勤等ノ節支給スル定規ノ旅費滞在日當等非役
ノ輩登用ノ節旅費他官ノ輩本府縣ヘ轉任ノ節旅費免職歸國ノ旅費舊官員往時奉職中ノ
事務爲諮問出廳往返ノ旅費滞在日當他官ヘ轉任或ハ免職ノ輩舊官事務引渡出向ノ旅費
及滞在日當華士族平民及證人評價人等公用ニテ旅行ノ節旅費滞在日當探索上ニテ捕ニ
就キ及ヒ裁判官ノ呼出ヲ受ケ無罪ニ歸スル者竝ニ人遠又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等
ニテ呼出ナル者往返旅費等總テ管轄内外ノ分ヲ類聚ス
諸賄料 官員以下總テ宿直或ハ不寢番等ニ付給與スル定規ノ賄料事務繁劇ノ際夜八時ヲ
過キ退廳ノ者定規ノ賄料臨時傭夫ノ辨當料等ヲ類聚ス

宿代 官員等外譯官其他雇ノモノ等へ給與スル法規ノ宿代
 被服費 税關小蒸汽船器械方及ヒ水火夫被服代等ヲ類聚
 賜饌料 官員(史誌編輯掛リ官)等外譯官陵墓掌運卒總長以下部長等月給十圓以上捕亡吏竝
 雇ノ者等三大節賜饌料政始酒肴料
 恩掌官員等外譯官陵墓掌等(死職)滿年賜金同斷ノ輩及ヒ雇ノ者事務勉勵手當金等ヲ類聚ス
 廳中費
 需用費 書籍(購置料)寫字印刷料影射料新聞紙報告料測量器時計寒暖計秤消防道具糺問用品稅
 關用解船ノ類諸鑑札類文篋金箱長持兩掛椅子テーブル幕國旗蒲團(臨時借上ケ)蚊張筆
 墨(筆墨料トシテ金額ヲ定メ)紙(郵紙摺手)硯印肉算盤錐小刀火鉢提燈ランプ土瓶茶碗薪炭
 油蠟燭ノ類右ハ概略ヲ示ス其他廳中需用ノ品類ニシテ日用消耗品及備品等買上或ハ修
 復ニ屬スル費用ハ一際之ヲ該目中ニ類聚ス
 運送費 租税金及ヒ其他ノ官金爲替手數料租稅其他ノ納金送金ノ節荷作入費及ヒ陸路運
 送人馬賃竝宿泊ノ節不艱番人等賃錢同海路運送飛脚蒸汽船運賃竝危險請負料(同送ノ節
 旅費ハ給料中旅費)貢米五里外運賃同川下ケ賃公債證書遞送入費管内外御用物運送貨物
 品運送ノ爲メ車馬等雇料其他海陸運搬ニ屬スル諸費ヲ類聚ス(物品運送ニ屬スル
 旅費モ該目ニ屬スル)
 郵便電信 内外郵便稅及電信料其他内國郵便爲替料等ヲ類聚ス
 遙拜式入費 遙拜式ニ付諸品買上ケ竝掃除人足賃等
 接待費 外國人接待饗應ニ屬スル諸費

地租取立費 東京府下各區地租取集ニ付テノ費用
 雜費 官用地區入費ノ類瓦斯燈點火料藏敷料地所或ハ建家借用利息金
 史誌編輯費
 官員月給 史誌編輯ニ從事スルモノ
 等外月給 同上
 雇月給 同上十五等以上ニ當ル月給
 諸雇給 同上雇給十二圓未満ノモノ以下ノ給料
 旅費 同上官員以下ノ旅費
 需用費 筆墨紙其外史誌編輯ニ付需用品類買上等ノ費用
 厩費
 諸雇給 取者馬丁雇給刈毛人雇給乘馬借料馬醫手當斃馬取捨ニ付雇人足賃等ヲ類聚ス
 需用費 厩付馬具竝雜具(修復或ハ借)消耗品(薪炭油)蹄鐵馬飼用大豆藜糠ノ類馬藥斃馬取捨
 ニ付有用品買上等ノ費用馬買上
 捕亡費
 等外月給 捕亡事務ニ從事スル者
 雇月給 同上
 諸雇給 捕亡吏或ハ警邏警固等ノ者及ヒ附屬下使等總テ雇給一箇月十二圓未満ニシテ等
 外ノ名義ナキモノ、給料囚人護送ノ節繩取人足賃探索人雇賃車馬船等雇料其他捕亡事

務ニ付種々ノ雇給料ヲ類聚ス

内國旅費 捕亡事務ニ從事スル等外或ハ雇等ノ名義ヲ以出仕セシムルモノ及ヒ捕亡警邏
警固附屬下使等ノ輩探索捕亡或ハ囚人護送付添等ノ旅費(管内外ヲ不)放滞在日當(四人ヲ
内甲ノ牢獄ヨリ乙ノ牢獄ヘ移轉セシムル等ノ旅費ハ四獄費ニ屬ス其他登庸免歸ノ旅費等ヲ類聚ス(官
トシテ捕亡吏等ヲ使用セシメ時ノ旅費ハ四獄費ニ屬ス其他登庸免歸ノ旅費等ヲ類聚ス(官
送等ノ爲メ使用スルトキ支出セル旅費ハ此科目ニ編入スヘシ)
宿代 等外其他雇等ノ名義ヲ以出仕セシムルモノ竝捕亡吏等ヘ給與スル定規ノ宿代(屯營
公辦ノ内ニ住居ス
ルモノハ非此例)

諸賄料 捕亡事務ニ從事等外以下總テ宿直或ハ不寢番ノモノヘ給與スル定規ノ賄料事務
繁劇ノ際夜八時ヲ過キ退出ノ者定規ノ賄料臨時雇夫ノ辨當料屯所ヘ一時差留人及ヒ捕
縛セラル、者途中賄料其他諸賄ニ屬スル費用ヲ類聚ス

需用費 筆墨紙硯印肉椅子テーブル火鉢蒲團提燈ランプ錐小刀土瓶茶碗茶薪炭油蠟燭馬
具借上損料(借馬料ハ諸借馬飼用品其他警察上需用ノ品類ニシテ日用消耗品及ヒ備品等
買上或ハ修復ニ屬スル費用ハ一切該目中ニ類聚ス)

恩賞 捕亡吏竝捕亡費ヲ以テ雇入候輩免職病死等ノ節奉仕中格別勉勵ノ者ハ其模様ニ寄
リ金五圓ヲ適宜差遣ス手當

被服費 被服買上竝修復ニ屬スル費用

雜費 捕亡出張所借上官用地區入費ノ類

選卒費

官員月給 選卒總長以下選卒部長等ノ月給

等外月給 選卒等外一等ヨリ六等マテノ月給

雇月給 本務ヘ雇入ノモノ、十五等以上ニ當ル月給

諸雇給 等外ノ名義ナキ選卒及附屬小使等總テ雇給一箇月十二圓未滿ノモノ、給料(定用
時)

雇人足賃其他種々ノ雇給料ヲ類聚ス

内國旅費 選卒總長以下總テ本務ヲ以テ他方出行ノ旅費滞在日當等其他登用免歸ノ旅費

(管内外等ヲ類聚ス
不問)

諸賄料 同上ノ輩宿直或ハ不寢番等ノ節給與スル定規ノ賄料事務繁劇ノ際夜八時ヲ過キ

退出ノ者定規ノ賄料臨時雇夫ノ辨當料其他諸賄ニ屬スル費用ヲ類聚ス

需用費 筆墨紙硯椅子テーブル火鉢蒲團蚊帳提燈ランプ土瓶茶碗茶薪炭油蠟燭ノ類解船

ノ類(買上
修復)其他選卒本務上需用ノ品類ニシテ日用消耗品及ヒ備品等買上或ハ修復ニ屬ス

ル費用ハ一切該目中ニ類聚ス

被服費 選卒等職務上ニ付給與スル衣服帽齊等買上及ヒ修復ニ屬スル諸費

雜費 屯所借料官用地區入費ノ類

囚獄費 諸雇給

囚獄守卒小使等總テ雇給一箇月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモノ、給料牢階手當

(定用
臨時)雇人足賃足留人足賃斬罪劊手給米摺賃其他種々ノ諸給料ヲ類聚ス

内國旅費 囚人ヲシテ管内甲ノ牢獄ヨリ乙ノ牢獄ヘ移轉セシムル等ノ節差添人ノ旅費(府
給)

送り或ハ他管へ送送ノ節
差添旅費ハ捕亡費ニ屬ス

諸賄料 囚獄守卒小使等總テ囚獄宿番或ハ不寝番ノモノへ給スル定規ノ賄料事務繁劇ノ際夜八時ヲ過キ退出ノ者定規賄料臨時備夫ノ辨當料其他諸賄ニ屬スル費用ヲ類聚ス

需用費 處刑用品(處刑刀)札問用品鋤鐵草履筆墨紙硯印肉算盤火鉢蒲團提燈ランプ土瓶茶碗箸茶薪炭油蠟燭其他囚獄中需用ノ品類ニシテ日用消耗品及備品等買上或ハ修復ニ屬スル費用ハ一切該目中ニ類聚ス

囚人賄料 囚人食米鹽味噌野菜茶等總テ囚人食物購求ノ費用臨時被下酒肴料囚人護送中賄料

被服費 囚人被服買上及修復ニ屬スル費用

患者費 囚人病氣ノ節療治料服藥料等ヲ類聚ス

懲役費

諸雇給 懲役場守卒小使等總テ雇給一箇月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモノ、給料足留人足賃懲役人病死取片付人足賃懲役雇工錢船車等借上損料其他種々ノ給料ヲ類聚ス

內國旅費 懲役人ヲシテ管内工場ヨリ乙場へ移轉セシムルトキ差添人ノ旅費

諸賄料 懲役場守卒小使等總テ懲役場宿直或ハ不寝番ノモノ等へ給スル定規ノ賄料事務繁劇ノ際夜八時ヲ過キ退出ノ者定規ノ賄料臨時備夫ノ辨當料其他諸賄ニ屬スル費用ヲ類聚ス

需用費 役用ノ品具時計筆墨紙硯印肉算盤椅子テーブル火鉢蒲團蚊帳長持提燈ランプ土

瓶茶碗茶箸薪炭油蠟燭草履其他懲役場中需用ノ品類ニシテ日用消耗品及備品等買上或

ハ修復ニ屬スル費用ハ一切該目中ニ類聚ス

懲役人賄料 懲役人食米鹽味噌野菜茶等總テ懲役人食物購求ノ費用臨時被下酒肴料(現
無産)

ノ徒懲役場へ入レ職業營
爲候モノモ此ノ部ニ屬ス

患者費 懲役人病氣ノ節療治料服藥料等ヲ類聚ス

被服費 懲役人被服買上及修復ニ屬スル費用

外國人諸費

雇月給 雇外人給料及ヒ課業外ノ事務ヲ辦理セシムル等ノ節増給料ヲ類聚ス

內國旅費 雇外國人公事ヲ以內國各地ニ出張巡回在勤等ノ節成規ヲ以支給スル旅費(現
以費

ヲ支給スル旅費ト雖
モ總テ此ノ部ニ屬ス

賄料 雇外國人へ給與スル賄料

宿料 雇外國人へ金額ヲ定メ支給スル宿料(但シ他ノ家産ヲ其屬へ借上ケ之ヲ雇外國人へ
ハ入
シス)

一 居留地諸費 但シ外國人居留地

常夜燈費

諸雇給 居留地掃除人足賃等

額外常費

給與
家祿
賞典祿
社寺祿
終身扶持 功勞アルモノ及ヒ近衛兵滿期歸郷ノモノ等へ賜ル終身扶持
賜饌料 三大節政始ノ外臨時酒饌ヲ賜フ費用
恩賞 勳功勳功等ニ依リ一時ノ賞賜孝子義僕節婦奇特者等褒賞賜金一般人民及ヒ民費ヲ以設置シタル選卒番人等功勞等ニ因リ褒賞竝死傷扶助追賞弔祭料療治料公事ノ爲メ傷瘻ヲ受クルモノ手當金同上死者祭染料火付盜賊人殺等ノ蹤迹分明ニ訴出テ其賊捕縛相成上訴人へ賜金或ハ不軌ヲ謀リ其他容易ナラサル事ヲ企ル者等ヲ未發ニ訴出ル者へ賞與
右等ノ如ク勳功ヲ賞シ或ハ勸獎慰勞等ノ爲メ賜給スル諸費ハ一切此部ニ類聚ス
賑恤 棄兒養育米水火災救助窮民恤救三子出生手當金等ヲ類聚ス
廳中費
需用費 稅關用小蒸汽船買上(修復ノ費用ハ定額常費ニ屬ス)京都府管下泉涌寺御翠簾買上(修復ノ類)
捕亡費
恩賞 捕亡吏等職務上ニ於テ褒賞竝死傷扶助追賞弔祭料療治料等其捕亡吏竝捕亡費ヲ以雇入候覽免職病死等ノ節奉仕中格別勉勵ノ者へ金額五圓以上伺ノ上可差遣手當等ヲ類

聚ス
選卒費
恩賞 選卒等職務上ニ於テ賜ル褒賞竝死傷扶助追賞追祭料療治料等ヲ類聚ス
囚獄費
處刑濟支那人入費 處刑濟支那人本國へ差戻ニ付船賃同寫真料等ヲ類聚ス
外國人諸費
外國旅費 外國人本國ヨリ雇入ノ旅費及ヒ雇止メ歸國ノ旅費
恩賞 雇外國人褒賞或ハ謝金其他事務勉勵ニ付賜金等ヲ類聚ス
賜饌料 雇外國人へ臨時酒饌料等ヲ賜フ費用
外國船漂著費 但官費ニ立ツヘキ分
等雇賃
諸雇給 漂流船修復願出ル節雇工錢漂流人護送船雇賃漂流人陸路通行ノ節馬駕或ハ人夫
諸賄料 漂流人滯在中賄料護送ノ節在船中賄料陸行ノ節賄料(陸行ノ需用費其他ノ科目ヘ分ヘス)
需用費 漂流船修復願出ル節材木其他入用品買揚代
被服費 漂流人衣服乏絶ニ及フ者へ支給セル衣服代
禁錮人諸費 但シ府縣預ケノ輩
諸雇給 守卒雇給

諸賄料 同上ノ者賄料

紙手拭其他ノ用品買上代

禁錮人賄料 食米鹽野菜茶等總テ禁錮人食物購求ノ費用

患者費 禁錮人病氣ノ節療治料服藥料等ヲ類聚ス

復籍人諸費 已巳四月以前
脱籍ノモノ

諸雇給 差添人手當 雇人足賃等

需用費 旅中需用品買上代

復籍人賄料 滯留中及ヒ旅中賄料

祭典費

泉涌寺御供米 京都府下泉涌寺御備御代々御廟所御供米孝明天皇御日供米

臨時費

一 大工業或ハ新建築等ノ經費一廉官費一萬圓已上ノ目途ヲ以テ著手スル費用

一 堤防沿河道路橋梁等新規修繕共經費一事業ニ付一萬五千圓已上ノ目途ヲ以テ著手スル費用

右二項ハ内務省所轄ニ付内譯明細簿外書ニ朱ヲ以掲載スヘシ

附錄

神宮社經費概目

定額常費

一 給與

神官月給 神宮祭主以下官國幣小社權禰宜マテノ俸給

諸雇給 小者及ヒ掃除人足等雇賃

内國旅費 但神宮ハ管外ノ分モ此部ニ編入スヘシ

神官公用ニ付(就教等ノ爲旅行ノ費用ハ非此例)其地方管内出張等ノ節旅費及ヒ滞在日當管内非役ノ輩神官へ拜任ノ爲メ其地方廳へ出頭及赴任ノ旅費府縣官員其管内ニアル神社ノ神官ヲ兼任セル輩該社祭典等ノ節神職ヲ以テ出向ノ節旅費等ヲ類聚ス

諸賄料 宿直賄料

宿代 神官へ賜ル定規ノ宿代

賜饌料 三大節賜饌料

恩賞 神官免職死亡滿年賜金

一 廳中費

需用費(但一廉代價十圓未満ノ分尤神官ハ
十圓以上ト雖モ此部ニ編入スヘシ)

筆墨紙硯算盤錐小刀印肉書籍文篋時計幔幕祭典等ノ節用ユル法皮ノ類蒲團兩掛椅子テ
ブル水桶火鉢提燈土瓶茶碗茶薪炭油蠟燭ノ類其他廳中需用ノ品類ニシテ日用消耗品及ヒ
備品等買上或ハ修復ニ屬スル費用ハ(祭典ニ付需用ノ品ハ祭典ニ費ニ屬ス)一切該目中ニ類聚ス

郵便電信 内地郵便稅電信料

一 厩費 但神馬ノ分

諸雇給 馬醫手當川毛人雇給斃馬取捨ニ付雇人足賃

需用費 (但一廉代價十圓未満ノ分ハ神宮ハ)

厩付雜具(修復)消耗品(薪炭油)馬飼用大豆藜糠ノ類馬藥斃馬取捨ニ付用品

神馬買上(但神宮ニ限リ定額ニ編入スヘシ)

營繕費 (但新營繕共一廉費)

諸雇給 營繕積方雇給其他大工左官石工瓦師家根葺等ノ諸職工及ヒ手傳人足等總テノ雇

給料ヲ類聚ス

需用費 木石鐵物建具敷物類其他需ノ品類ハ一切該目ニ屬ス

運送費 營繕ニ付諸物品運送ニ屬スル費用

一 祭典費

諸雇給 神宮諸祭典及官國幣社元始祭紀元節神武天皇遙拜式神宮遙拜式孝明天皇遙拜式

六月拔式十二月拔式ノ節雇人足賃

需用費 同上ノ節神饌及ヒ除夜神饌毎月一日神饌日供等ニ需用ノ品類買上ケノ費用

額外常費

一 給與

內國旅費 神官公用ニ付管外へ出張等ノ旅費神官拜任ノ節管外所管ノ省へ出頭及ヒ赴任

ノ旅費及ヒ府縣官員ヨリ神官兼任ノ輩該社ノ公用ニ付管外出張等ノ旅費滞在日當等ヲ

類聚ス

一 廳中費 需用費但一廉代價十圓以上ノ分

一 厩費(明治八年六月第九十六號達ヲ)

需用費但一廉費額十圓以上ノ分

神馬買上

一 祭典費 國幣社例祭金幣料

(經費豫算内諸費明細簿、勘定帳簿、及諸表、前年未済決算副表、前年未納副表、經費概計表、
經費内諸表、收入豫算内諸簿、收入増減表、引内諸明細簿、及收入概計表、雜形略表)

右規程中改正

太政官達第八十號 (明治十八年五月十五日)

府

縣

本年第三十六號達收入經費豫算概目及經費豫算内譯明細簿雜形中別紙ノ條款改正候條此旨
相達候事

(別紙) 改正 款

經費概目例言第九項遷卒費云々左ノ通改正

一 警察費ハ官費ノ額ヲ掲クヘシ故ニ警察費ノ不足ヲ民費ニ課シ或ハ民費而已ヲ以テ便宜

遷卒等ヲ設置スルノ類ハ概計ノ外タルヘシ

經費概目定額常費

警察費科目中左ノ通改正シ遷卒費ヲ廢ス

一 警察費

官員月給 遷卒總長以下遷卒部長等ノ月給(開設港場神奈川縣ニ類ニ)

等外月給 本務ニ從事スル等外一等ヨリ四等迄ノ月給

雇月給 本務ニ雇入ノモノ十五等以上ニ當ル月給

諸雇給 遷卒及ヒ附屬下使等總テ雇給一箇月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモノ、

給料囚人護送ノ節繩取人足賃探索人雇賃車馬船等雇料其他警察事務ニ付雇給ヲ類聚

ス

内國旅費 本務ニ從事スル官員等外或ハ雇等ノ名義ヲ以テ出仕セシムルモノ及遷卒附

屬下使等探索捕亡或ハ囚人護送付添等ノ節管内外ノ旅費日當(囚人ヲシテ管内甲牢獄

差添トシテ遷卒等ヲ使用セシ

トキノ旅費ハ四獄費ニ屬ス) 其他登庸免歸ノ旅費等ヲ類聚ス(警察事務ニ從事セサル官員外トキ雖トモ一時捕亡探索

目ニ編入

宿代 本務ニ從事スルモノへ給スル定規ノ宿代(屯營或ハ公廨ノ内ニ住

諸賄料 本務ニ從事スルモノ宿直或ハ不寢番ノモノへ給與スル定規ノ賄料事務繁劇ノ

際午後八時ヲ過キ退出ノ者規定ノ賄料臨時傭夫ノ辨當料屯所へ一時差留人及ヒ捕縛

セラル、者途中賄料其他諸賄ニ屬スル費用ヲ類聚ス

需用費 筆墨紙硯印肉椅子テール火鉢蒲團蚊帳提燈ランプ錐小刀土瓶茶碗茶薪炭油

蠟燭海上遷卒用解船ノ類(買上)馬具借上損料(借馬料ハ諸

類ニシテ日用消耗品及備品等買上或ハ修復ニ屬スル費用ヲ類聚ス

恩賞 遷卒並警察費ヲ以雇入ノ輩免職病死等ノ節奉仕中格別勉勵ノ者へ金五圓マテ適

宜差遣ス手當金等ヲ類聚ス

被服費 被服買上並修復ニ屬スル費用

雜費 屯所借料官用地區入費ノ類

經費概目定額常費

囚獄費懲役費中從前ノ科目ヲ廢シ更ニ左ノ通改定

一 囚獄費

等外月給 本務ニ從事スル等外一等ヨリ四等迄ノ月給

諸雇給 囚獄守卒小使等總テ雇給一箇月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモノ、給料

牢醫手當(臨時)雇人足賃足留人足賃斬罪劊子給其他雇給ヲ類聚ス

内國旅費 囚人ヲシテ管内甲ノ牢獄ヨリ乙ノ牢獄へ移轉セシムル等ノ節差添人ノ旅費

其他本務ニ付テノ旅費ヲ類聚ス(府縣送り或ハ他管へ護送ノ節

諸賄料 囚獄守卒小使等總テ囚獄宿番或ハ不寢番ノモノ、給與スル定規ノ賄料事務繁

劇ノ際午後八時ヲ過キ退出ノ者定規ノ賄料臨時傭夫ノ辨當料其他諸賄ニ屬スル費用

ヲ類聚ス

需用費 處刑用品(利刀磨)糺問用品其他看守所等ニ屬スル器械筆墨紙硯印肉算盤火鉢

蒲團提燈ランプ土瓶茶碗茶薪炭油蠟燭等一切需用ノ品類ニシテ日用消耗品及ヒ備品

等置上或ハ修復ニ屬スル費用ヲ類聚ス

囚人諸費 飯米菜(野菜魚肉醬)常食ノ外加給蒲團蓆枕蚊帳浴場ニ付テノ費用炊用及衣類

ノ洗濯竝ニ病囚煎藥等ノ炭薪其他必要ノ小費等ヲ類聚ス

一 懲役費

等外月給 本務ニ從事スル等外一等ヨリ四等迄ノ月給

諸雇給 懲役場守卒以下下男等總テ雇給一箇月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモノノ給料(臨時)雇人足賃足留人足賃其他諸雇給ヲ類聚ス

内國旅費 懲役人ヲシテ管内甲場ヨリ乙場ヘ移轉セシムルトキ差添人ノ旅費遠隔ノ地ニアル工役場ヘ出張ノ吏員及ヒ醫師看護人等ノ旅費日當ヲ類聚ス

諸賄料 守卒其他懲役場宿番或ハ不寢番ノモノ等ヘ給スル定規ノ賄料事務繁劇ノ際午後八時ヲ過キ退出ノ者定規ノ賄料臨時傭夫ノ辨當料其諸賄ニ屬スル費用ヲ類聚ス

需用費 罰則ニ用ユル器械看守所ニ屬スル器械筆墨紙硯印肉算盤火鉢蒲團提燈ランプ土瓶茶碗茶薪炭油蠟燭等一切需用ノ品類ニシテ日用消耗品及ヒ備品等買上或ハ修復ニ屬スル費用ヲ類聚ス

經費概目額外常費

警察費科目中左之通改正シ遷卒費ヲ廢ス

一 警察費

恩賞 遷卒等職務上ニ於テ賜ル褒賞竝死傷扶助追賞吊祭料療治料等其他遷卒竝警察費ヲ以雇入ノ輩免職病死等ノ節奉仕中格別勉勵ノ者ヘ金額五圓以上ノ手當金等ヲ類聚ス

(經費豫算内詳細簿改正難形ハ略ス)

太政官達第四百四十二號

(明治十八年八月十二日)

府

縣

收入金穀概計表其外帳簿差出方ノ儀ニ付本年第三十六號ヲ以テ相違候處收入概計表竝物品科目明細簿豫算内譯簿増減差引内譯明細簿及概計表ヲ製スル順序ノ内別紙ノ通改正増補候條此旨更ニ相違候事

但本年ノ儀ハ第二葉計算表ヨリ此度改正ノ振合ヲ以可差出事

(別紙) 收入金穀概計表ヲ製スルノ順序ノ内

第五款ノ但書ニ加フ可キ分

但貢米難船行衛不知ノ如キハ稀有ノモノニ付萬一之レアルトキハ左ノ書式ニ倣ヒ第五葉ノ計表ヘ記載シテ差出シ翌年第二葉以下計表未納ノ副表ヘモ同様書入レ差出スコト本文ニ同シ

第六款但書更正スヘキ分

但地租ノ如キ實際上納ノ時ニ方リ石代納ナルモ計表ニハ正納ノ分ト合セテ枴量ヲ掲ケ朱字ヲ以皆石代ヲ附スヘシ故ニ如此一段中墨朱ノ二行書タル可シ尤稅外收入石代納ナルモコレニ準ス

第七款但書ノ末ニ増加ス可キ分

諸稅科目ノ内唯地租ト掲記スルノミニシテ諸掛物ヲ區別セス又ハ石代相場ニ幾種ノ分別アルモノ明瞭ナラサルカ故ニ第四葉計表ヲ差出ス節難形ノ如ク仕譯書ヲ添フ可シ

租税科目名簿

一 地租

田畑宅地ノ税 山野税 凡ソ右等ノ類ニテ總テ地所ニ屬スル税ハ此部ニ編入シ前五箇年ノ實額ヲ平均シ其年地券ニ變換スヘキノ目途ヲ參査シテ納額ヲ豫定スヘシ

一 地券税

地券證印税 従前ノ收額ト其年ノ景況トヲ斟酌シテ目途ヲ定ムヘシ

一 證券印紙税

印紙税 界紙税 右ノ類ハ前十八箇月間(則前々年七月以下之ニ倣フ)平均ニシテ割出セル一

箇年ノ納額ト本年ノ景況トヲ斟酌シテ目途ヲ定ムヘシ

一 蠶種印紙税

一 生絲印紙代

一 繭印紙代

一 眞綿印紙代

一 生絲賣買鑑札料

右ノ類前一箇年ノ收額ヲ目途トシ其年ノ景況ヲ參酌スヘシ

一 酒類税

清酒 味淋 燒酎 白酒 銘酒

一 酒類請賣營業税

右ノ類本年税額ヲ變更スルヲ以テ其景況ヲ審查參定シテ目途ヲ立テ以後ハ前一期ノ收額ヲ目途トシ其年ノ景況ヲ參酌スヘシ

牛馬賣買免許鑑札料

右前一期ノ收額ヲ目途トシ其年ノ景況ヲ參酌スヘシ

一 銃獵税

右前一期ヲ目途トシ其年ノ景況ヲ參酌スヘシ

一 車税

右本年税額ヲ變更スルヲ以テ其景況ヲ參酌シテ目途ヲ立テ以後ハ前例ニ倣フヘシ

一 船税

五十石以上船税 舩漁船並海川小廻船税

右前一期ノ收額ヲ目途トシ猶本年ノ收入ヲ參酌スヘシ但(舩漁船ノ類ハ本年税則ヲ變更シ目

途ヲ立)碇泊税並免狀手数料

右前十八箇月ノ比較ヲ取ル證券印紙税ニ同シ

一 官祿税

一 家祿税

右前一期ノ收額ヲ算定シテ目途トスヘシ

一 煙草税

右前一期ノ收額ヲ算定シテ目途トスヘシ

此税ハ明治九年一月ヨリ新タニ興ルヲ以テ税則ノ頒布アルニ隨ヒ前例ニ倣フテ登記スヘシ
 右件々ハ收入スヘキ租税ノ科目ヲ概記スルノミナレハ此他收入スヘキ税目アラハ此書式ニ倣
 ヒト廉限リ該額ヲ豫定シ豫算内譯簿竝概計表ニ記入スヘシ
 (租税金穀雜算内譯簿、増減内譯明細簿、收入概計表、未納副表、石
 代納、並掛物仕書、書稅外收入金米豫算内譯明細簿、雜形略ス)

大藏省達乙第四十三號 (明治九年五月十六日) 府 縣

收入經費計表等ノ儀ニ付昨八年三月第三十六號ヲ以公達相成候趣モ有之候處一般調査ノ都合モ
 有之候ニ付計表調製例言ノ内別紙ノ通り取捨更正候條當七月以降右ニ準據調成ノ上差出候儀
 ト可相心得此旨相達候事

(別紙)

稅外收入及經費計表ノ儀一周年會計ニ四葉ヲ要スルモノトシ從前ノ第一葉ハ廢シ二葉以下五
 葉ニ至ルマテノ計表ヲ第一回二回三四回ノ報告表トス此第一回ヨリ四回ニ至ルノ報告表ハ
 別紙雛形ノ如ク改正シ書式等ハ八年三月第三十六號公達二葉以下ノ計表ト略其體裁ヲ同ウスト
 雖モ第二區ハ每歲決定セル豫算ノ金額ヲ記入シ爾後收入金ノ如キハ未タ大藏省ヘ納メサル
 モ其處ニ現金收納セシ高ヲ登記シ經費金モ同省ヨリ現金到達セサルモ現ニ仕拂セシ高ルモ規
 ニシテ其豫備金ヲ以テテ記入シ毎期ノ翌月五日(七月ヨリ九月マテ第一回ノ報)ヲ期トシ其應
 發遣スヘシ故ニ此表ニ於ル或ハ勘定帳ノ金員ニ符合セサルモノアルモ妨ナシ(別紙略ス)
 然ルニ翌明治九年八月十五日ニ至リ租稅收入計算表第二三四表ハ九年分以降差出スヲ要セス唯

其豫算及決算ニ關スルモノ、ミヲ提出スヘキコト、セシカ明治十六年六月二十二日ニ至リ更ニ
 其送致ヲ廢止セリ

明治八年三月東京府ヲ除キ各府縣豫備金每歲差繼交付ノ成規ヲ廢シ今後ハ各處ニ據置カシム
 大藏省達乙第四十三號 (明治九年三月二十九日) 府 縣

各府縣(東京府除ク)豫備金ノ儀每歲差繼交付シ來候處本年七月以降出納期限改正ニ付テハ會計ノ
 都合モ有之候條爾後差繼交付ノ成規ヲ廢シ各處ニ據置候條本年六月限り右金額一旦書面上納
 受可取計此書相達候事但本文豫備金交付候上ハ勘定帳改殘ノ外書ニ記載シ何年何月何日大藏
 省ヨリ受取据置ノ段詳記可致事

明治十年一月四日詔シテ民力休養ノ典ヲ舉ケンタメ地租ノ率ヲ輕減シテ地價百分ノ二分五厘ト
 爲シタルヲ以テ同月十二日大藏省達乙第二號ヲ以テ府縣ニ令シ本年七月以降ノ經費豫算ハ努メ
 テ節減セシメタリ

明治十二年十二月二十七日太政官達第五十號ヲ以テ經費概目ヲ廢止シ更ニ經費科目條例ヲ定メ
 經費ノ科目ヲ分類シテ大中小及細ノ四トシ更ニ細科目中ニ細節ヲ加フ而シテ小科目以上ノ費額
 ハ相互ニ流用スルヲ得ス若シ止ムヲ得サルトキハ大藏省ノ免許ヲ經ヘキモノトシ且經費科目表
 ヲ制定セリ(會計法規
 ノ部參照)

府縣所管經費科目表 (小科目以下省略)

大科目	中科目	小科目
某府廳		

本廳

- 俸給
- 雜給
- 廳費
- 貨幣交換費
- 印紙類賣捌手數料
- 徵兵費
- 史誌編輯費
- 恩賜費
- 救助費
- 招魂社費
- 雜件
- 獄署諸費
- 囚人諸費
- 懲役人諸費

監獄

兵與近衛及鑲養

- 近衛兵賞典
- 鑲臺兵賞典

社寺祿
賞勳年金

- 文官年金
- 武官年金
- 警視官年金

軍人恩給

- 陸軍恩給
- 海軍退隱科
- 寡婦孤兒扶助料

神社費

某神社

- 俸給
- 雜給
- 廳費

營繕費

祭典費

遷宮諸費

明治十二年四月十四日太政官達第十八號ヲ以テ經費決定ノ後事故アリテ増額セシ金額ハ自然餘贏ヲ生スルモ他ノ科目ヘ流用スルヲ得サルモノトシ六月二十一日官有物ニ屬スル收入及雜入ノ豫算並決算ノ順序ヲ定メ府縣ヲシテ凡ソ官有物ニ屬スル收入及雜入ヲ森林收入官有物拂下代官有物拂下料開港市場官地貸下料及雜入ノ五大科目ニ分チ又此毎科目ヲ數個ノ細目ニ分チ豫算決算ヲ整理セシム

明治十三年十一月五日府縣經費中廳費雜給ノ小科目ヲ廳費ト改メ且歲費額ヲ定メ十四年度以降其金額ヲ以テ支辨シ剩餘アラハ不足ノ年度ニ充用セシム

明治十四年四月始メテ會計法ヲ定メ凡ソ會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ決算ニ結了スルモノトシ隨テ豫算ニ關シ詳細規定スル所アリタリ此ニ於テカ變ニ明治八年三月發布セラレタル收入及經費ノ概計ニ關スル規程ハ自ラ消滅セリ而シテ又同時ニ歲入科目ヲ定メ歲入ヲ分テ租稅作業益金雜收入及諸返納トシ更ニ之ヲ大科目及小科目ニ分類セリ(會計法ノ部参照)六月二十二日太政官達第五十四號ヲ以テ沖繩縣ヲ除キ各府縣豫備金ハ當十三年度限り廢停シ右金額ハ速ニ大藏省ヘ返納セシメ且官省院使ニ令シ各廳所管ノ費用ハ其支拂ニ先チ府縣ニ交付セシムルコト、ス而シテ當時ニ於ケル大藏卿ノ上申ハ其廢止ノ原因ヲ知ルニ足ルヘキヲ以テ左ニ其全文ヲ掲ケン

各府縣豫備金廢止ノ義ニ付上申

各府縣豫備金ノ義ハ過ル辛未歲四月(四月ハ十一月)中縣治條例御發行以來設置相成居候義ニシテ當時廢藩置縣ノ際各地方交通運輸ノ路未タ能ク開ケス隨テ貨幣之融通亦最モ不便ヲ極ムルノ時ニ際スレハ自ラ豫備金ノ設ケ無之テハ不相叶義ニ候得共近來各地爲替運轉之便法相立且救荒恤窮ノ如キモ豫備ノ方法逐次整理相成殊ニ來十四年度以降ハ土木監獄等ノ費用ヲ地方稅ノ支辨ニ歸セシムル以上ハ最早豫備金ノ具備無之テモ實際差支之筋有之間敷若シ非常之費途ヲ要スルノ場合ニ於テハ臨機ノ處分ヲ以テ電信爲替ノ方法ヲ施行候得ハ別段懸念ノ義モ無之候ニ付右豫備金ノ義ハ此際一般ニ廢止(沖繩縣ハ當)之積リヲ以テ別紙ノ通(略)御達相成度意見及上申候條至急御裁定相仰キ候也

明治十四年五月十七日

大藏卿 佐野 常民

太政大臣 三條實美殿

是ヨリ先キ明治十一年七月二十二日太政官布告第十九號ヲ以テ從前府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徵收セル府縣費區費ヲ改メテ地方稅ト稱シ其徵收スヘキ稅目及支辨スヘキ費目ヲ規定セシカ降テ明治十三年四月八日ニ至リ太政官布告第十六號ヲ以テ該規程ヲ改正セリ爾來府縣經費ノ内其大部分ハ地方稅ノ支辨ニ歸シタリ其他府縣豫備金ノ制度モ明治十三年度限り廢止セラレタルコト前ニ述フルカ如シ故ニ明治十四年以降ハ地方經費ニ關スルモノハ中央ノ部ニ於テ併記スヘシ

第二款 中央收支

中央官廳ノ經費ニ就キテハ其初メ地方官廳ノ經費ノ如ク之カ概計ヲ立テ其範圍内ニ於テ支出ス

ルノ制度ヲ採ラサリシカ如シ即チ明治二年制定ニカ、ル出納司規則書ニ米金渡方ノ儀各官各司共差定候諸入用ノ分ハ凡見込ヲ以何ニ不及渡方取計云々トアルニ徴シテ之ヲ知ル可キナリ

明治二年十月七日宮内省ノ歳費額ヲ限定シ實米一萬八千石金三十六萬兩トシ即チ一箇月ニ三萬兩ノ比例ニシテ閏月アルトキハ別ニ三萬兩ヲ増加スルモノトス又明治三年九月三日制定セラレタル租稅司職制第十章ニ於テ全國ノ歳入前年收得ノ總額ヲ年ノ六月ニ至リ之ヲ概算シテ豫メ其全數ヲ量知シ以テ本年會計ノ用途ニ供シ其年末ニ至リテ更ニ前年歳出ノ額ヲ集計シテ歳入出ノ總計表ヲ作りテ閱覽ニ便ニス但出納司ト共ニ議テ計算ヲ明ニスヘシトアリ而シテ明治四年八月十日ニ至リ大藏省中ニ各寮司ヲ設置シ次テ十九日之カ職制及事務章程ヲ定メ出納寮ノ部ニ於テ「前年歳入歳費總計ノ豫算ヲ實地出納ノ景況ニ比較シテ來歳ノ歳入ト歳費トヲ勘量シ其種類ヲ分テ出納概算調ヲ作り卿輔ニ呈ス但此概算調ハ卿輔ヨリ期ヲ定メテ年々之ヲ指令スヘシト規定セリ爾來此ノ如クニシテ豫算ノ制度ハ漸次完成ノ域ニ達セントセリ

次テ明治五年九月八日日本本年十月以後ノ文部省歳費定額ヲ假定シ十月二十日左院及外務陸軍海軍工部宮内五省ニ於ケル本年十月ヨリ明年九月ニ至ル歳費定額ヲ定ム此ニ於テ諸官省ノ經費額ハ略ホ決定セリ

明治六年五月大藏大輔井上馨三等出仕澁澤榮一其職ヲ辭スルニ臨ミ同月七日理財ノ要ヲ議ス其文中歳入ノ常ニ歳出ヲ充タス能ハスシテ政府ハ年々巨額ノ負債ヲ増加スヘキノ言アリ乃チ同月九日參議大隈重信ヲ大藏省事務總裁ニ任シ實際會計ノ當否ヲ檢覈スヘキヲ命シ現在收支ノ科目ヲ分類シ出入ノ多寡ヲ統計表記シ本年ノ歳入歳出見込會計表ヲ作ラシメテ之ヲ公布シ以テ歳入

ノ決シテ歳出ヲ償フニ足ラサルノ虞ナキコトヲ明ニセリ而シテ是レ實ニ我國ニ於ケル豫算表調製ノ嚆矢ナリトス同年十二月院省金穀出納順序ヲ定ムルヤ豫算ノ調製ニ關シ其第八條ニ於テ各廳ハ毎年十一月ニ至リ翌全年其廳所管ノ費用一切ノ目的ヲ立常費臨時費ヲ區分シ詳明ニ列載セラル概算表ヲ作り之ヲ大藏省ニ送付ス於同省ハ院省使府縣ノ概算ヲ集計シテ一表ヲ製シ前年十二月限正院ニ上申スヘシト規定セリ是レ即チ豫算調製ノ事項ヲ法文ニ見ルノ初メトス而シテ翌明治七年十二月ニ至リ概算表ヲ大藏省ニ送付スヘキ期限ヲ定メテ十一月十五日限リトセリ

更ニ明治八年五月十八日收支概計表ノ調製ニ關スル規則ヲ定ム乃チ歳入概計表ハ府縣ト同シク一箇年ノ豫算表ト毎三箇月ノ實收對比表トヲ差出サシメ其收入内譯明細簿ハ前々年七月ヨリ前年十二月ニ至ル十八箇月或ハ前一箇年間ノ收入實額ノ平均ヲ基礎トシテ之ヲ參酌編成セシム而シテ歳出概計表モ亦大體ニ於テハ府縣ト同一ナリト雖モ只經費概目ニ至テハ各省必スシモ同一ナル能ハサルヲ以テ從テ各省別ニ之ヲ定メタリ其他定額常費額外常費及臨時費等ノ區分ハ敢テ府縣ト異ナルコトアラサルナリ此ニ於テ曩ニ定メタル經費概算帳ハ之ヲ廢止セリ

太政官達 (明治八年五月十八日)

院 省 廳

今般出納期限釐正ノ儀明治七年十月十三日相達候ニ付テハ百般之收入及經費等一週年ノ總額ヲ豫算シ本年ヨリ每歲(會計年度)別冊雜形ノ通計表其外帳簿共期限通大藏省へ送達可致尤明治八年分第一葉計表及内譯明細簿ノ儀ハ發令ノ日ヨリ三十日ヲ限リ可差出此旨相達候事但雜形ノ内科目簿ハ差出スニ不及且明治七年三月第二十七號達改正金穀出納順序第八條ニ掲タル經費概算帳ノ儀ハ爾後廢止候事

一 本年ノ儀ハ順序制定ノ際且第一葉計表ニ附添スル内譯明細簿等送達期限モ差迫居候ニ付
 雛形ノ如ク調整ニ至リ難キ向ハ明治八年經費豫算内譯明細簿ニ限リ大科目(給與類或ハ中及)
 小科目(給與中需用費運送費ノ類或ハ給與ノ金穀ヲ區分概算候迄ニテ小科目中ノ細目ハ細目トハ)
(中費中需用費運送費ノ類或ハ給與中及)ノ金穀ヲ區分概算候迄ニテ小科目中ノ細目(給與中及)ハ
 月給ノ内勤任給通給給ノ類ヲ云フ諸ノ區分スルニ不及候條來ル明治九年分ヨリハ總テ雛形
 ノ通取調可差出事

(別冊) (雛形略ス)

收入金概計表及内譯明細簿ヲ製スルノ順序

第一款 此表ハ一歲中(即會計ノ一歲ニシテ其年七月ヨリ)收入金額ノ多寡ヲ統理概計シテ之ヲ登
 上シ猶三箇月毎ニ現實收納セシ員數ヲ記入シ其比ヲ凡積ノ該額ニ取り一箇年五葉ニシテ比
 較ノ全キヲ見ルヘシ

第二款 第一葉ノ概計表ハ一歲收入金穀ノ多寡ヲ參查考査シ遺漏ナク掲記スヘシト雖モ此計
 表ヲ差出スノ後諸稅ノ與廢ニ隨ヒ納額ノ増減スルコトアレハ三箇月毎ニ其多寡ヲ添加消滅
 スヘシ但事故アリテ諸稅及收入等ノ延納ニ涉ルノ類ハ該年ニ屬スルヲ以テ本年ノ部中ニ算
 セス

第三款 前年ニ於テ翌年一歲ノ收額ヲ概計シタル計表ヲ第一葉トシ二月二日ヲ限リ大藏省へ
 送致シ第二葉ハ該年七月ヨリ九月迄第三葉ハ十月ヨリ十二月迄第四葉ハ一月ヨリ三月迄第
 五葉ハ四月ヨリ六月迄各三箇月間ツ、ヲ累次合算シ翌月二十日ヲ(五十里外ニ支廳アル向ハ
 納勘定帳申渡延期限)限リ同省へ送致スヘシ

第四款 表面書式體裁ハ左ニ起リ右ニ推歩ス縱ハ七區ニ分別シ横ハ若干段ニ分界ス其第一區
 ハ收入ノ品目ヲ分段シ第二區ハ收入スヘキ凡積ノ員數ヲ掲ケ第三區ハ七月以降諸稅及諸收
 入ノ新タニ納付スヘキモノニシテ凡積ノ高ヨリ増加スルモノヲ掲ケ第四區ハ納額ノ減耗ス
 ルモノヲ掲ケ第五區ハ右三區中ノモノヲ每段差引タル高ヲ掲ケ第六區ハ七月ヨリ以降每三
 箇月現實收入セシ金額ヲ大藏省へ納付シタル員數ヲ舉ケ第七區ハ漸次納付シタル員數ヲ引
 去リ爾後納入スヘキ員數ヲ舉クヘシ但第一葉ノ計表ハ二區ニ止リテ三區以下ハ省クヘシ

第五款 第五葉ノ計表ヲ差出ノ時ハ諸收入皆納ノ後ニ在レハ未納高ナルモノハ必スアルヘカ
 ラスト雖モ不得止事故アリテ延納スルトキハ第五葉ノ計表ハ期限ノ如ク差出シ翌年第二葉
 以下ノ計表ヲ差出ストキ雛形ノ如ク第五葉ノ副表ヲ製シ其高ノ皆納ニ至ル迄ヲ限リトシ差
 出スヘシ

第六款 第一葉ノ計表ハ一歲收額ノ多寡ヲ豫定シ一般歲出入ノ目途ヲ立ツル爲ニ差出ス所ノ
 モノニシテ最緊要ナレハ別冊雛形ニ倣ヒ内譯明細簿ヲ製シ計表ト共ニ差出スヘシ而シテ此
 明細簿ニハ前十八箇月(即前々々年七月ヨリ前年十二月迄一箇年半ノ收額ヲ平均シテ一箇年ノ
 月マテノ比較ヲ取リ爾後本文ノ通リタルヘシ)或ハ前一箇年(即前年一月ヨリ前年十二月マテ)ノ收額ヲ比照シ
 本年ノ景況ヲ參酌シテ逐件詳記スヘシ尤モ其金額ヲ計表ニ登記スル等ノ順序ハ雛形ニ詳ナ
 リ但第一葉ヲ差出スノ後第二款ニ掲ケタル如キ納額ノ増減アルトキハ其増減ヲ記シタル内譯
 簿冊ヲ雛形ノ如ク製シ計表ニ添ヘ差出スヘシ

第七款 數位ハ四ヲ一位トシ碎數ハ厘位ニ止リ大數ハ表面四位コトニ、ヲ票ス

大藏省經費概目例言

- 一 一般經費ヲ大別シテ三トス則左ノ如シ
 - 一 定額常費
 - 一 額外常費
 - 一 臨時費
- 一 每歲費額ヲ定メ該額ヲ十二分ニシ每一月各廳ニ交付スルモノ之ヲ定額常費トス但定額常費ヲ以テ仕拂フト雖モ其事業ニ付テ許可ヲ經ヘキ條件ハ從前成規ノ通タルヘシ
- 一 臨時費ハ凡ソ概目ニ掲ル如シト雖モ他ニ非常ノ費途ヲ要シ之ヲ臨時費ト定ムルトキハ其旨該廳ヘ豫達スヘシ但臨時費中ノ各科目及小科目等ハ概ネ定額常費及額外常費中ノ科目ニ照準シテ之ヲ部分スヘシ
- 一 各費中各科目(給與中費等ノ如キ大科目ヲ云フ)及小科目(小科目トハ給與中費運送費ノ類ヲ云フ)ニ應シ費途ヲ分ツテ其額ヲ定メ或ハ之ヲ豫算ス故ニ各科目ハ勿論小科目ノ金額トモ彼是流用スルヲ許サス(金額ハ給與ノ金額トハ給與中費運送費等ノ金額ヲ流用シ或ハ給與中費月給ト旅費等ノノ許サ)尤小科目中細目(細目トハ野ハ官員月給ノ内勤任委任額任月給ノ金員ハ彼是流用スルモ妨ケナシ但實際ノ都合ニ依リ各科目及小科目ノ費額ヲ流用セントスルトキハ其旨ヲ詳悉シテ大藏省ヘ申請スヘシ)
- 一 每歲費額確定後ニ與ル常費ハ其年(會計年度)ノ費用ヲ額外常費トシ其事業ノ翌年ニ涉ルモノアレハ之ヲ定額常費ニ編入スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ前以其旨ヲ公達スヘシ

- 一 額外常費ハ概略其科目ヲ示スノミナレハ定額常費及臨時費ニ非サル經費ハ總テ額外常費トス尤其科目ノ部分ハ總テ他ノ科目ニ照準シテ部分スヘシ
- 一 各科目中百般ノ經費ハ其類似スルモノヲ以小科目中へ分入スヘシト雖モ類似ナキ費用ハ雜費ノ小科目ヲ設ケ該目中ニ分入スルモ妨ケナシ
- 一 營繕費ハ一廉費額千圓未滿ヲ以テ定額常費トス故ニ千圓以上三萬圓未滿ノ費用ヲ要スルアラハ之ヲ額外常費トシ三萬圓以上ヲ臨時費トシ各其部ニ編入シ事由ヲ詳細記載スヘシ但定額常費ハ初頭概計高(即チ千)ヲ以テ區分ス故ニ實際決算ニ至リ其高ヨリ増加セサルモノトス
- 一 内外公債消却及ヒ公債證書買上竝救助其他貸渡金及諸返金等ノ如キハ一般ノ經費ト區別シ之ヲ附録ニ掲出ス右等ノ如キハ他ノ經費ト混淆セシムヘカラス

定額常費

給與

- 一 官員月給 勅奏判任官員月給
- 一 等外月給 等外一等ヨリ四等ニ至ル月給
- 一 雇月給 御用掛リ無等ノ出仕(造幣寮無等ノ出仕稅關官吏モ此部ニ屬ス)或ハ雇抱等ノ名義ヲ以テ出仕セシムル者ノ十五等以上ニ當ル月給ヲ類聚ス
- 一 諸雇給 寫字生通辯門番給仕小使等總テ雇給一箇月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモ

ノ(日給ハ金額ニ拘ハシ)機械船艦等検査ノ手数料諸職工(人足籍ニ付屬入ノ職工及シ)臨時雇人
 足足留人足馬車人力車船艦等雇料(運送ニ屬スルモ)銀行手数料電信生雇給税關目利人
 へ被下金納拂米人足賃銅版彫刻用達手當貨幣改方頭取税關燈明番水夫(臨時庫番税關附
 屬醫師一時雇印紙類保險手数料官省證券損札検査人手當損札引換手数料繪圖引雇賃造
 幣寮生徒修業料等)如キ諸雇給料ヲ類聚ス

内國旅費 官員等外就無等ノ出仕雇御用掛リ等ノ輩其他税關水夫他方出行等總テ公事ニ
 付内國各地出行ノ節定規ノ旅費日當及ヒ免職歸國ノ旅費其他非役ノ輩登庸ノ節旅費等
 ヲ類聚ス

恩賞 免職滿年賜金事務勉勵手當金諸職工等公事ノ爲メ傷痍ヲ受クル者(十)手當金等ヲ
 類集ス

賜餽料 御祝日賜餽料政始酒肴料等ヲ類聚ス

諸賄料 官員等外小使等渾テ宿直或ハ不寢番ニ付定規ノ賄料事務繁劇ノ際夜八時ヲ過キ
 退廳ノ者ノ定規ノ賄料臨時雇夫ノ辨當料等ヲ類聚ス

宿代 官員等外其他雇ノ者等へ給スル定規ノ宿代
 被服費 造幣寮官員及ヒ各所税關官員並監吏造幣紙幣製造ノ諸職工其他貨幣改方税關水
 夫等ニ至ルマテノ制服料ヲ類聚ス

一 廳中費

需用費 器械(活版器械ハ刊)書籍(書籍料寫字料)文誌新聞紙(報告料)筆硯墨紙(紙摺手問界)印

肉(紙幣内製造ハ)算盤椅子テーブル土瓶茶碗茶薪炭油蠟燭等税關用解船及國旗ノ類買上
 代其他底見鏡望遠鏡寒暖計時計圖引道具繪ノ具等ノ類

右ハ概略ヲ示ス其他廳中品類ニシテ日用消耗品及ヒ備品等買上或ハ修復ニ屬スル費用
 ハ一切之ヲ該目中ニ類聚ス

刊行費 印税一覽表物品年表及ヒ布達類活版料其他書籍發兌ニ付版木地銅並彫刻代及ヒ
 仕立料紙類ヲ類聚ス

運送費 運送物保險料爲替手数料洋銀差立手数料荷車荷船雇賃物品運送ニ屬スル藏敷料
 其他海陸運搬ニ付テノ費用

接待費 外國人接待ニ付茶煙草菓子等ノ類

郵便電信 内外郵便税及ヒ電信料其他内地郵便爲替料等ヲ類聚ス

探偵費 密員月給旅費其他探偵ニ屬スル諸費
 雜費 官用地區入費瓦斯燈點火代借家料(外國人ノ)藏敷並利息金(内外公債及一時借入金等)
 等ノ類

一 厩費

諸雇給 馭者馬丁馬醫並刈毛等ノ雇給斃馬取捨等ノ人足賃其他渾テ厩ニ關スル諸雇給ヲ
 類聚ス

需用費 馬車馬具並雜具買上(修復)蹄鐵馭者口附等ノ被服馬藥飼食等ヲ類聚ス
 馬買上 馬匹買上並引換手数料ノ類